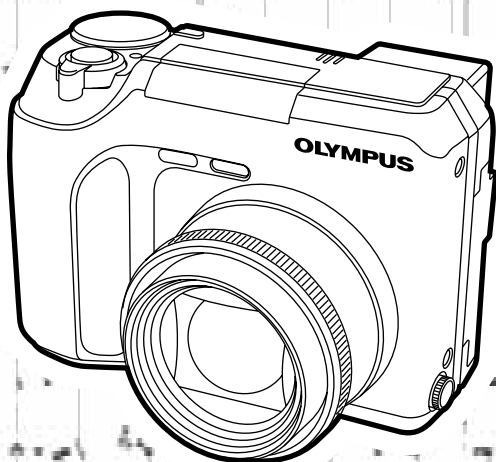
OLYMPUS®

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-700 Ultra Zoom

取扱説明書

■ ご使用前にこの説明書をお読みください。
■ 大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

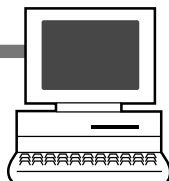
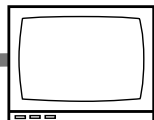
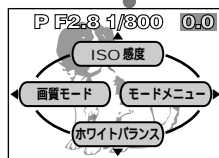
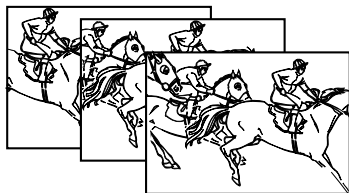
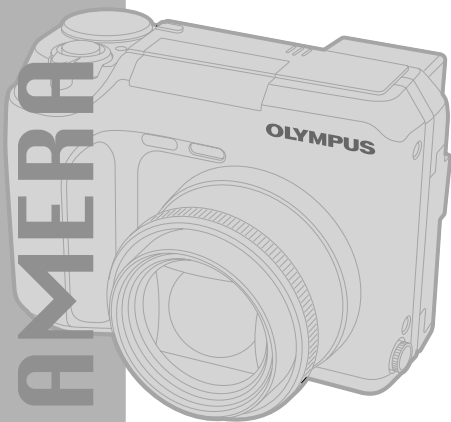
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このカメラでできること

CAMEDIA

この取扱説明書の活用法

＊ **カメラの使用方法を順を追ってマスターしたい**→「カメラに慣れましょう-AUTOモードで撮影します」(P.39)をご覧になった後、目次から順番にお読みください。

＊ **目的ごとにカメラの使用方法を探したい**→「かんたん検索」（P.15)へお進みください。

＊ **使いたい機能をすぐに探したい**→巻末の「索引」をご利用ください。

目 次

1 ご使用の前に 29

2 カメラに慣れましょうーAUTOモードで撮影します 39

3 ボタン機能編 53

目　次

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警　告

☞ **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
可燃性ガスおよび爆発性ガス等が、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

☞ **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**
フラッシュを人の目の前（特に乳幼児）に向けて、至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
日光および強い光に向けて、本製品を使用しないでください。視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
このような場所でカメラを使ったり保管しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
フラッシュの発光部分を、手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐにスイッチを切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注 意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。またAC アダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。

☞ 温度の高い所へ放置しない。
異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

☞ 専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。
カメラで指定されている専用AC アダプタ（EIAJ 規格・極性統一型プラグ付）以外は、絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ 電源コードを傷つけない。
AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。
●AC アダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
●AC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用中または保管する場合、以下のような場所に放置すると動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。
■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
■砂、ほこり、ちりの多い場所
■火気のある場所
■水に濡れやすい場所
■激しい振動のある場所
●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
●本体の電気接点部には手を触れないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

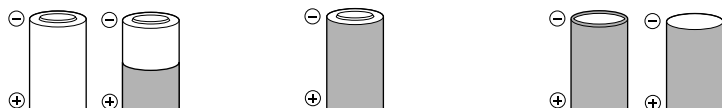
液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危 険

●充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないで下さい。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
●火中への投下や、加熱をしないでください。
●＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
●強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
●直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
●電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
●電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警 告

●電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
●以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
■このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
■古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
■充電できないアルカリ電池やリチウム電池、CR-V3（リチウム電池パック）を充電しないでください。
■＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
■外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
■市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません）

●ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
●液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
●電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
●カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
●電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
●オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA　キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
●充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
●充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
●電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
●アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
●マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：0℃～40℃
充電：0℃～40℃
保存：－20～30℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
●撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。
●ニッカド電池などの充電式電池を含め、電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

液晶モニタとバックライトについて

本製品は背面やファインダの表示には、液晶モニタを使用しています。これらは液晶モニタに関するご注意です。

●ビューファインダを太陽などの強い光線に向けると、ビューファインダ内部を破損する恐れがあります。
●液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
●液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
●被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
●液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
●**本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

かんたん検索

撮影

かんたん検索

連続撮影の機能を使う

フラッシュ撮影

ピント合わせ

明るさ／露出

露出を微調整する〜露出補正ー十字ボタンー93、94
測光の範囲を変えて撮影する〜スポット測光モード ⊡ ー77
感度を固定して撮影する〜ISO感度ー110
露出を固定して撮影する〜AEロックー87
画面の複数の位置の露出を測って撮影する〜マルチ測光ー89

色合いを変える

ホワイトバランスー122
カメラが自動的に色合いを整える〜オートホワイトバランスー122
色合いを選んで撮影する〜プリセットホワイトバランスー122
色合いを決めて撮影する〜ワンタッチホワイトバランスー123
色合いを微調整する WB± 〜WB補正ー124

再生

撮影後すぐに静止画を再生する〜簡単再生ー46
撮影後すぐに動画を再生する〜動画を見るー50
再生モードで再生〜再生ー62
複数の画像を一度に再生する〜インデックス再生ー70
拡大表示する〜クローズアップ再生ー69
画像を回転して表示する〜回転再生ー92
複数の画像を連続して再生する〜自動再生（静止画）ー144
テレビで再生する〜再生ー63

かんたん検索

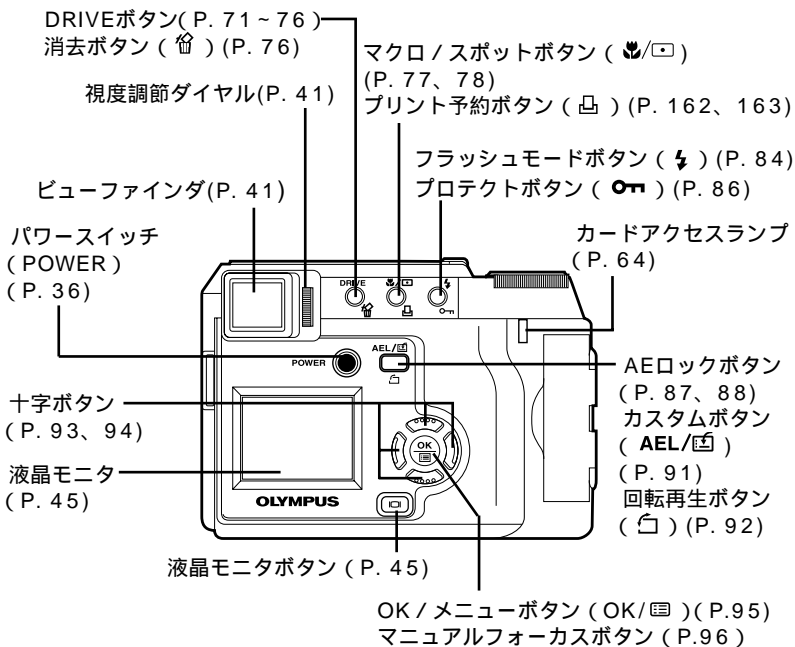
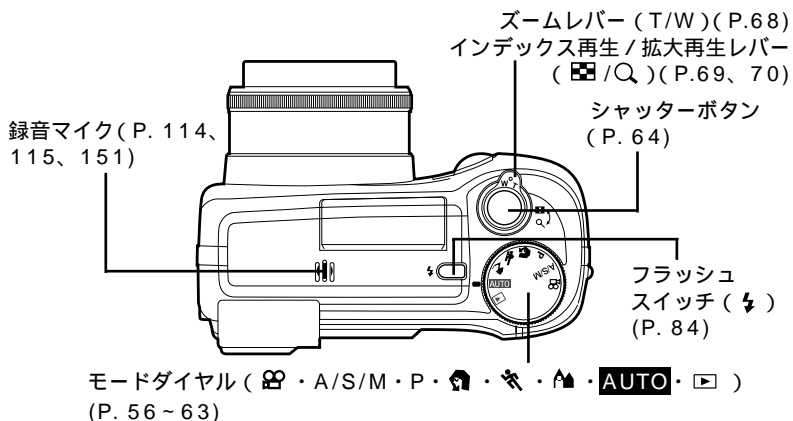
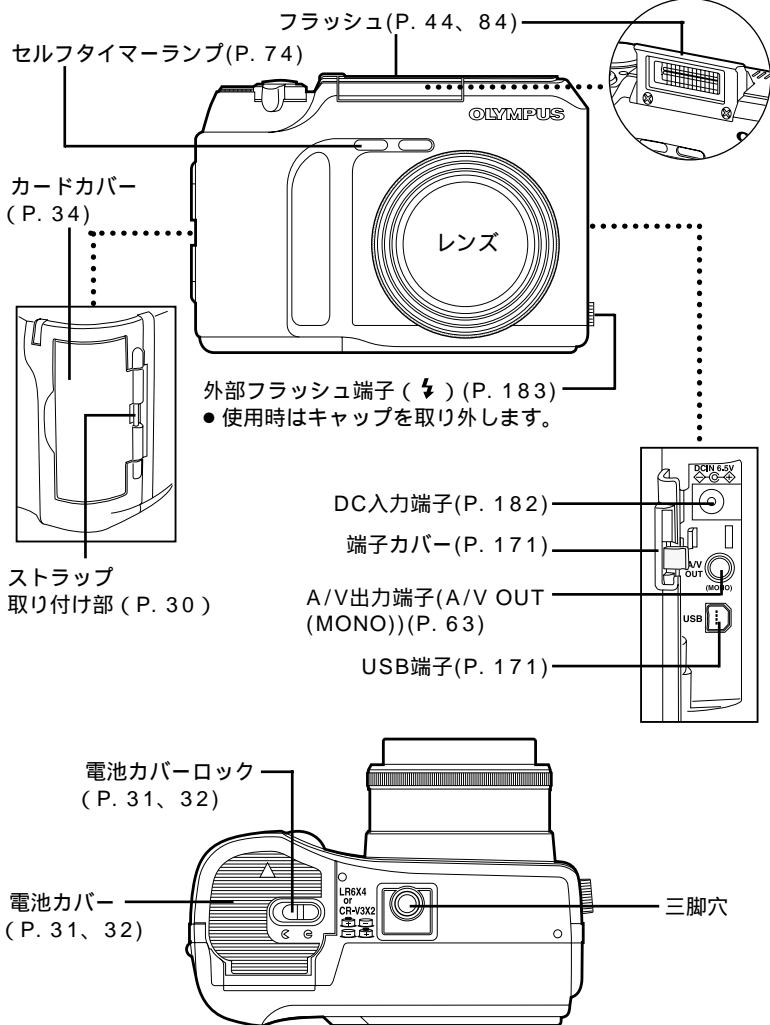
保存/消去/印刷

パソコンに読み込む

その他

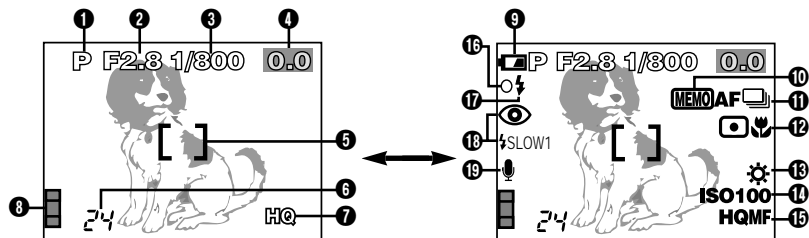
ズームレバー（T/W）（P.68）
インデックス再生／拡大再生レバー（/）（P.69、70）
シャッターボタン（P. 64）
録音マイク（P. 114、115、151）
フラッシュスイッチ（）（P. 84）
モードダイヤル（・A/S/M・P・・・・AUTO・）（P. 56〜63）
DRIVEボタン（P. 71〜76）
消去ボタン（）（P. 76）
マクロ／スポットボタン（/）（P. 77、78）
プリント予約ボタン（）（P. 162、163）
視度調節ダイヤル(P. 41)
フラッシュモードボタン（）（P. 84）
プロテクトボタン（）（P. 86）
ビューファインダ(P. 41)
パワースイッチ（POWER）（P. 36）
カードアクセスランプ（P. 64）
AEロックボタン（P. 87、88）
カスタムボタン（AEL/）（P. 91）
回転再生ボタン（）（P. 92）
十字ボタン（P. 93、94）
液晶モニタ（P. 45）
液晶モニタボタン（P. 45）
OK／メニューボタン（OK/）（P.95）
マニュアルフォーカスボタン（P.96）
DRIVE
AEL/
POWER
OK
OLYMPUS
A/S/M
AUTO

カメラ（つづき）

フラッシュ(P. 44、84)
セルフタイマーランプ(P. 74)
OLYMPUS
カードカバー
(P. 34)
レンズ
外部フラッシュ端子（ϟ）(P. 183)
● 使用時はキャップを取り外します。
DCIN 6.5V
DC入力端子(P. 182)
端子カバー(P. 171)
A/V OUT
(MONO)
A/V出力端子(A/V OUT (MONO))(P. 63)
USB
USB端子(P. 171)
ストラップ
取り付け部（P. 30）
電池カバーロック
(P. 31、32)
LR6X4
or
CR-V3X2
電池カバー
(P. 31、32)
三脚穴

ビューファインダ／液晶モニタ表示〜撮影情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます（設定方法についてはP.100、101、128をご覧ください）。
＊表示内容は撮影モードにより異なります。

情報表示オフ：
下図の情報を撮影中、常に表示。
（メニュー画面から抜けたあとは右の「オン」選択時の情報量が約３秒間表示されます。）

情報表示オン：
下図の情報を撮影中、常に表示。

＊ イラストはモードダイヤルを「P」に設定している場合

❶ **撮影モード(P. 56〜63)**
●モードダイヤルの位置を表示します。
AUTO ：フルオート、 P ：プログラムモード、 A ：絞り優先モード、 S ：シャッター優先モード、 M ：マニュアルモード、 ：ポートレート（人物撮影）モード、 ：スポーツモード、 ：記念写真撮影モード、 ：動画モード

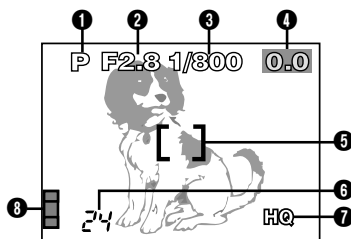
❷ **絞り値(P. 58)**
●絞り値を表示します。

❸ **シャッター速度(P. 60)**
●シャッター速度を表示します。

❹ **露出補正(P. 93、94)**
●露出補正値を表示します。

露出状態(P. 61)
●マニュアルモード(M) 時に設定している絞り値／シャッタースピードから算出される露出値と、カメラの適正露出値の差を表示します。

❺ **AFターゲットマーク(P. 67)**
●被写体をこのマークに合わせます。

次ページに続く

❻ **撮影可能枚数(P. 43、44、121)**

●撮影できる静止画の枚数を表示します。

撮影可能秒数(P. 48、121)

● (動画）モード時に一度のシャッター操作で撮影できる時間を表示します。

注意

●撮影可能枚数が0になるとピーっと音がして、「撮影可能枚数が0です」と表示されます。新しいカードや空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を削除してカードに空き容量を作るなどの処理を行なってください。(P. 35)

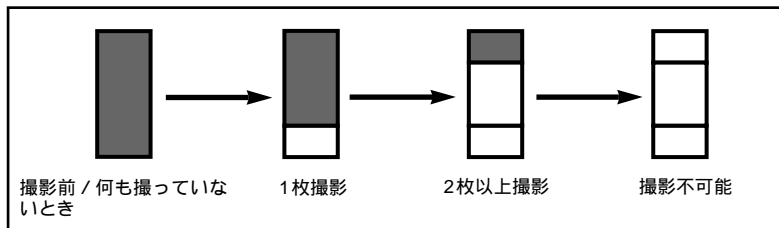
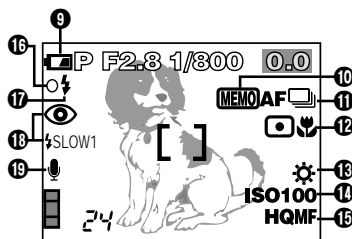
●撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。

❼ **画質(P. 121、122)　（TIFF・SHQ・HQ・SQ）**

●画質を表示します。

❽ **メモリゲージ(P. 43、48、49)**

●カメラの内蔵メモリにある画像の量を表示します。

連続して撮影すると、次のように表示が変化します。

❾ **電池残量**

●電源を入れたとき、電池の残量が少なくなったときに表示されます。
電池残量が少なくなると、次のように表示が変化します。
＊撮影情報を「オフ」に設定している場合でも、電池残量が少なくなると表示されます。

点灯	**点滅**	
電池の残量は十分にあります。	電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。	電池の残量が完全になくなりました。「電池残量がありません」と表示されます。新しい電池と交換してください。

- ニッケル水素電池やニッカド電池をご使用の場合は、電池を充電してください。
- 使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。
- 電池残量がほとんどない状態で撮影を行うと、撮影後や電源を入れたときに「ピピピピ・・・」と警告音が連続して鳴り、コマ番号が点滅することがあります。この場合は正常に撮影が行われていません。新しい電池にに取り替え、再度撮影し直してください。

❿ **露出の固定(P. 87〜90)** **(AEL / MEMO)**

AEL ：AEロック

●1コマ撮影が行われるまで、露出は固定されます。撮影すると表示は消えます。

MEMO ：AEメモリ

●記憶した露出（AEロック）を、撮影後も記憶しているとき表示されます。

次ページに続く

ビューファインダ／液晶モニタ表示〜撮影情報（つづき）

⓫ **ドライブモード(P. 71)**

● DRIVEボタンを押してドライブモードを選択すると、表示されます。

表示なし ：1コマ撮影（単写）　　：セルフタイマー撮影
　：連写　BKT ：オートブラケット撮影
AF　：AF連写

⓬ **スポット測光／マクロモード(P. 77)**

● / （マクロ／スポット）ボタンを押してスポット測光／マクロモードを選択すると、表示されます。

表示なし ：スポット測光・マクロオフ　　：マクロ
　：スポット測光　　：スポット測光・マクロ

⓭ **ホワイトバランス(P. 122、123)**

● メニューで設定したホワイトバランスを表示します。

表示なし ：オート　　：電球
　：晴天　　：蛍光灯
　：曇天　　：ワンタッチホワイトバランス

⓮ **ISO感度(P. 110)**

● メニューで選択した感度（オート・100・200・400・800）を表示します。「オート」を選択していても、モードダイヤルをA/S/Mにすると100になります。また、「オート」を選択していても、暗いところでフラッシュを使わない場合は、手ぶれ防止のため感度は自動的に上がります。

⓯ **マニュアルフォーカス(P. 96、97)　　　(MF)**

● マニュアルフォーカス機能を使ってピントを固定しているときに表示されます。

⓰ **オートフォーカス合焦マーク(P. 43、48)**

● シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと点灯します。合わないと点滅します。

⑰ フラッシュ発光予告(P. 44、84)

- シャッターボタンを半押ししたとき、ϟが点灯するとフラッシュが発光します。

手ぶれ警告(P. 79)

- フラッシュを閉じているときに、被写体が暗く、シャッター速度が遅くなり、手振れのおそれがあるときにϟが点滅します。

フラッシュ充電中マーク(P. 85)

- フラッシュを起こした直後やフラッシュ撮影のあとϟが点滅すると、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

⑱ フラッシュモード(P. 80)

- ϟ（フラッシュモード）ボタンを押してフラッシュモードを選択すると、表示されます。

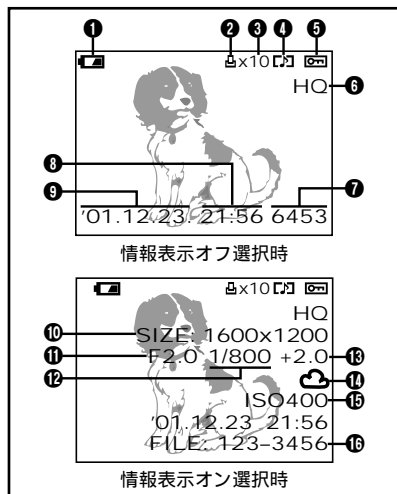
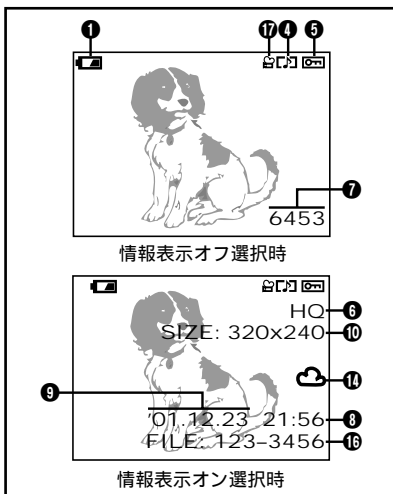
表示なし　：オート発光　　　ϟ **SLOW1**/ϟ **SLOW2**：スローシンクロ
◉　　　　：赤目軽減発光　　（メニューで設定されたモード）
⊘　　　　：発光禁止
ϟ　　　　：強制発光

⑲ 録音(P. 114)

- メニューで録音モードが設定されると、🎤 が表示されます。

ビューファインダ／液晶モニタ表示〜再生情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます（設定方法についてはP.142をご覧ください）。

静止画再生情報

動画再生情報

❶ **電池残量(P. 23)**

❷ **プリント予約マーク(P.162)**
- プリント予約がされていると表示されます。

❸ **プリント枚数(P.162、164)**
- プリント予約の枚数が表示されます。

❹ **録音マーク**
- 音声が録音されていると表示されます。

❺ **プロテクトマーク(P. 86)**
- 画像が保護されていると表示されます。

❻ **画質モード**

❼ **コマ番号**

❽ **時刻**

❾ **日付**
- 2001年は 01と表示されています。

❿ **画像サイズ**

⓫ **絞り値**

⓬ **シャッター速度**

⓭ **露出補正値**

⓮ **ホワイトバランス**

⓯ **ISO感度**

⓰ **ファイル番号**
- ムービー再生中では、記録時間が次のように表示されます。

再生している秒数　全体の秒数

⓱ **動画マーク(P.50)**

注 意

動画の場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P.50)

本書のみかた

この取扱説明書では、操作手順を使用するボタンやダイヤルと併記して説明しています。カメラの操作は必ず番号順に行ってください。

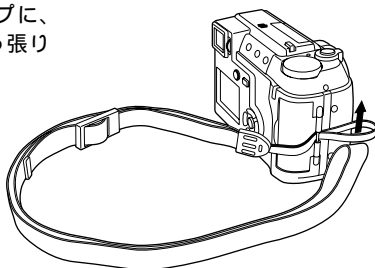
1

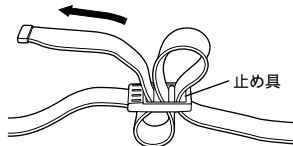
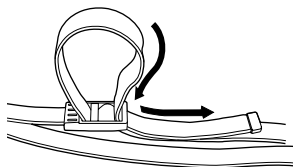
ご使用の前に

ストラップを取り付ける

1 **ストラップを液晶モニタ側から、ストラップ取付部の金具にとおします。**

液晶モニタ
ストラップ取り付け部

2 **ストラップ取付部にとおしたストラップに、ストラップのもう一方をくぐらせて引っ張ります。**

3 **止め具の位置でストラップを緩めて、ストラップの長さを調節します。長さが決まったら、ストラップの先を矢印の方向に引っ張って、ゆるみをとります。**

止め具

4 **図のようにストラップを折り返して、止め具にとおします。**

注意

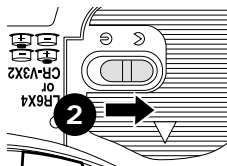
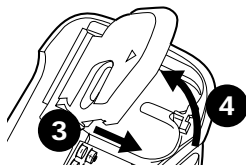
- カメラを持ち運びの際には、専用ケースに保管してください。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

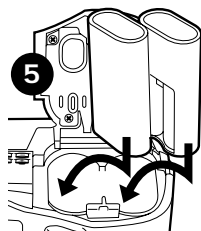
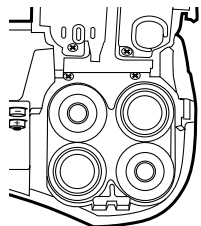
電池を入れる

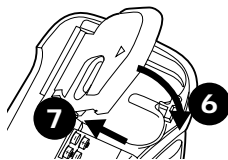
電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用します。

重要：

- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。
  端子部に絶縁シールが貼られている場合は、そのテープのみはがしてお使いください。

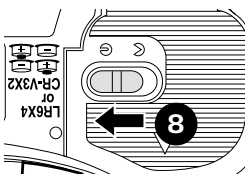
カメラの電源が入っていないことを（液晶モニタとビューファインダが消灯、レンズが出ていない）確認します。

電池カバーロックを、⊳の方向へスライドします。

電池カバーを矢印の方向へスライドさせます。

- カバーをスライドさせるときは指の腹を使ってあけてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

リチウムパックをご使用のとき

単3電池をご使用のとき

電池の方向を間違わないように挿入してください。

電池カバーで電池を押さえながら閉じて、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- カバーは閉じた状態で固定されます。

次ページに続く

電池を入れる（つづき）

電池カバーロックを、⊖の方向へスライドします。

注意

- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。
- 電池を外した状態で約１時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

同梱リチウム電池パックCR-V3（LB-01）使用での電池寿命

撮影枚数	約150枚＊
再生時間	約420分＊

＊表中の数値は参考値であり保証ではありません。

使用条件

撮影枚数

2枚連続撮影～10分放置～2枚連続撮影～10分放置の繰り返し。（常温25℃）、フラッシュ発光50％、各撮影につきズーム１往復、フルタイムAFオフ、デジタルズームオフ、（再生、パソコンとの通信無し。）

再生時間

自動再生モードによる連続再生、スリープ直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

注意

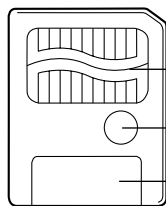
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- パソコンと接続してお使いの場合は、別売のACアダプタのご使用をおすすめします。（P.182）
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - •液晶モニタが点灯している。
  - •撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - •ズーム動作を繰り返す。
  - •フルタイムAFをオンにしている。
  - •再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - •パソコンとの通信時。

カードについて

このカメラで撮影した画像は、スマートメディアに記録されます。この取扱説明書では、スマートメディアをカードと呼びます。

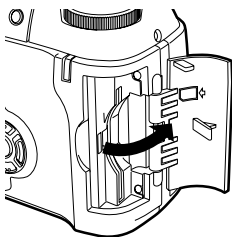
スマートメディアとは？
撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。

使用できるスマートメディア
- 付属の８MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード（４・８・16・32・64・128MB）
- 市販の3V (3.3V)カード

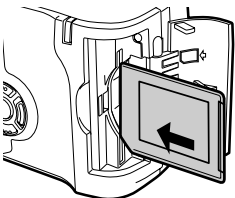
注意
２MBのカードは使用できません。

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラが接触する部分です。
❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに同梱のライトプロテクトシールを貼ります。
❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります。

スマートメディアのお取り扱い上の注意
- 動作温度：0℃〜55℃、保管温度：−20℃〜65℃、動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- スマートメディアの取扱説明書（同梱）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
- 市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。
- 市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合、必ずこのカメラで初期化（フォーマット）してください。(P.127)

カードを入れる

1 カメラの電源が入っていないことを（液晶モニタとビューファインダが消灯、レンズが出ていない）確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 接触面（コンタクトエリア）をレンズ側にして、カードを奥まで押し込みます。。

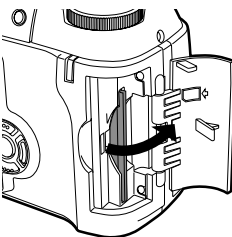
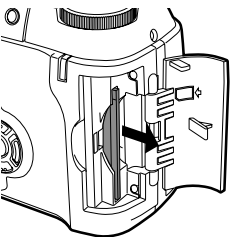
- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。

4 カードカバーを閉めます。

注 意

- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器で初期化したカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラで初期化してください。(P. 127)
- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。**カード内のデータが破壊されることがあります。**
- 破壊されたデータの復旧はできません。

カードを取り出す

1 カメラの電源が入っていないことを（液晶モニタとビューファインダが消灯、レンズが出ていない）確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 カードをつまんで引き抜きます。

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

 カード警告マーク	① **カードがカメラ中に入っていないときに表示されます。** →カードを挿入してください。 ② **カードが奥までしっかりと差し込まれていないときに表示されます。** →カードをしっかりと奥まで差し込んでください。
	① **カードに問題があるときに表示されます。** →フォーマットを行うか新しいカードを使用してください。 ② **カードの初期化が必要なときに表示されます。** →カードのフォーマットを行ってください（P.127）。 **フォーマットのしかた** **十字ボタンで「フォーマット」を選択して、Ⓞ を押すとカードの初期化のメニューに移ります。(P. 127)** **フォーマットが終了すると、撮影する被写体の画面に変わります。**

電源を入れる／切る

1 レンズキャップのつまみを矢印のように押してレンズキャップを外します。

2 パワースイッチを押します。電源が入ります。

- モードダイヤルを ▶ 以外に設定していると、レンズがせり出してきます。
- ビューファインダが点灯します。
- 再度押すと、電源は切れます。
- カードカバーが開いていると、電源は入りません。

レンズキャップ

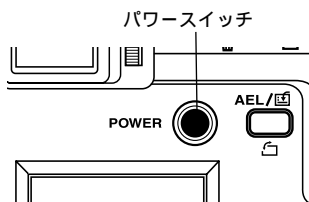
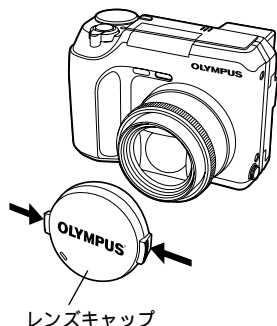
パワースイッチ

■スリープモードについて

電池の消耗を防ぐため、電源を入れたままで何も操作しないと、1分でスリープモードに入り、ビューファインダは消灯します。

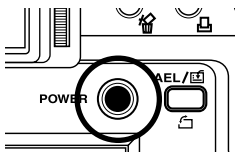
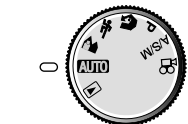
撮影モード（ **AUTO** ・ ・ ・ ・P・A/S/M・ ）のときは、スリープモードに入るまでの時間を設定できます。(P. 134)

■電池節約モード

電池を節約しながらカメラを使いたいときには、メニューで「電池節約モード」をオンに設定します。(P. 136)

日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
撮影した画像にはここで設定した日時が一緒に記録されます。撮影の前に日時が正しく設定されているかを再度ご確認ください。

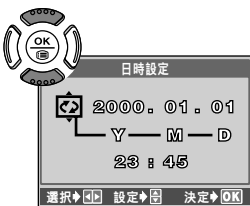
1 モードダイヤルをAUTOにして、パワースイッチを押して電源を入れます。

- レンズがせり出すので、レンズキャップは外しておきます。(P. 36)

2 (OK) を押して、メニューを表示します。(P. 100)

- 液晶モニタが自動的に点灯します。

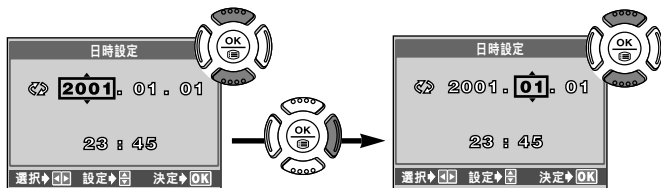
3 十字ボタンの△を押して、「日時設定」を選択します。日時設定画面が表示されます。

4 に緑の枠がついて選択されているときに、△▽を押して日付の順序を選択します。

- 順序は
  DMY(日・月・年)、
  MDY(月・日・年)、
  YMD(年・月・日)、
  の中から選択します。
- ここでは、Y-M-Dに設定した場合の説明をします。

日時設定画面

5 ▷を押して、年(Y)の設定に移動します。

日時の設定（つづき）

6 **△▽を押して、年を設定します。年が確定したら、▷を押して月の設定に移動します。**
- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ここでは、Y-M-Dに設定した場合の説明をします。
- ◁を押すと、ひとつ前の設定に戻ります。

7 **Ⓞを押します。**
- 0秒の時報に合わせてⓄを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。
- 液晶モニタは自動的に消えます。

8 **電源を切るときは、パワースイッチを押します。**
- レンズが元の位置に戻ります。

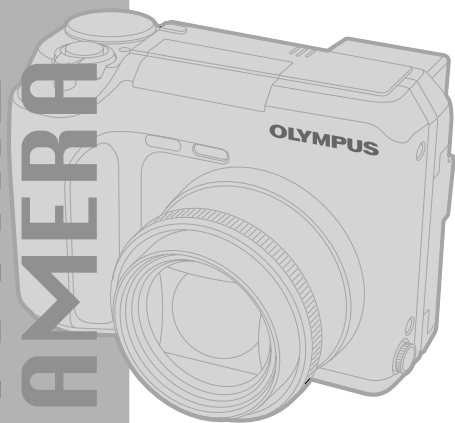
■ **電源を切っても、設定は変更をするまで保存されます。**

注 意

● 電池を抜いた状態で約1時間放置すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電源を入れていた時間が短かった場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

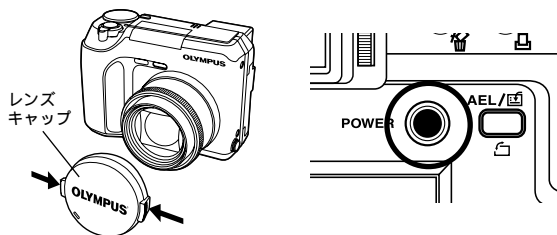
2

カメラに慣れましょう

ーAUTOモードで撮影します

この章では、モードダイヤルを **AUTO** モードや、🎥（動画撮影）・▶（再生）モードにして、簡単に撮影・再生する方法を説明します。 **AUTO** モードでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できるよう、すべて自動セットされています。

まず、レンズキャップのつまみを矢印のように押して、レンズキャップを外します。
AUTO モードに設定し、パワースイッチを押して電源を入れます。
はじめてカメラを使うときは、日付けと時刻を設定しましょう。(P. 37)

モードダイヤルをイラストに示すようにAUTOの位置にセットして撮影を行ってみましょう。
AUTOにセットすると、複雑な操作をしなくても簡単にきれいな写真を撮ることができます。

[使用する機能]

オートフォーカス(P. 43) ：シャッターボタンを押したときに、カメラが自動的に適切な絞り（ピント）と露出（明るさ）を設定します。

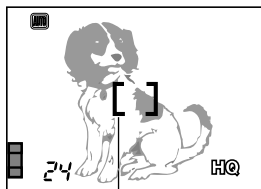
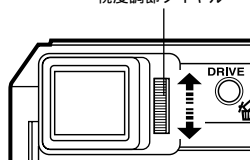
オートフラッシュ（P. 44, 80）：フラッシュが起きあがっている状態であれば、被写体が暗いとフラッシュが自動的に発光します。フラッシュを発光させたくないときにはフラッシュを閉じます。

ズームイン・アウト(P. 52) ：ズームレバーを使って望遠や広角撮影をします。

画質モードの設定(P. 44, 121)：SHQ・HQ・SQから選択します。このなかでは、SHQがもっとも高画質です。カードに記録できる枚数は、SQがもっとも多いです。

日時の設定(P. 37) ：撮影時に日時の情報も記録します

ビューファインダを見やすくする〜視度調節

視度調節ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。

カメラを構える

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。ズームを使用したときは、画像がぶれやすくなるので、特に注意してください。

正しい構え方

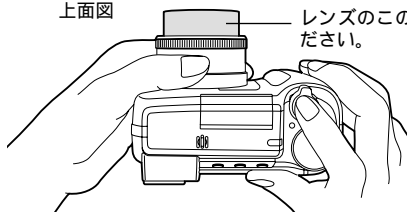
よこ位置

フラッシュ

OLYMPUS

レンズ

たて位置

上面図

レンズのこの部分は持たないでください。

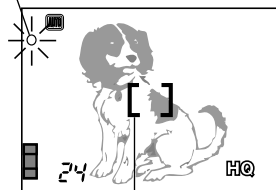
シャッターボタンの使い方～半押し／全押し

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

1 軽く押します。（半押し）

- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、オートフォーカス合焦マークが点灯します。固定されないと、オートフォーカス合焦マークが点滅します。
- 被写体がAFターゲットマークから外れるときは、フォーカスロック(P. 67)を使います。

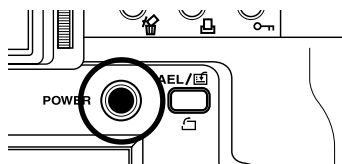
2 半押しした状態をさらに押し込みます。（全押し）

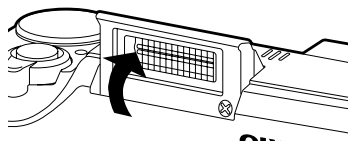
- 撮影が行われます。
- カードへの書込中は、カードアクセスランプが点滅します。

注 意

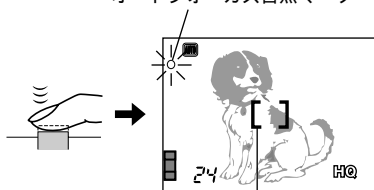
- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。

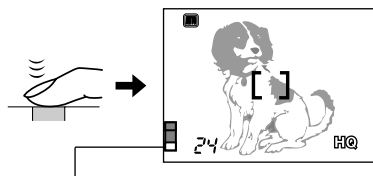
静止画を撮る AUTO

1 **パワースイッチを押すと、電源が入ります。**
- レンズが所定の位置にセットされ、ビューファインダが点灯します。

2 **ϟ（フラッシュ）スイッチを押してフラッシュを起こします。**
- フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュを手で押して閉じてください。

3 **カメラを被写体に向けて、構図を決めます。**

撮影可能枚数(P. 44、121)

4 **シャッターボタンを軽く押し込みます。（半押し）**
- オートフォーカス合焦マークが点灯します。この状態でカメラは適正な露出とピントを決定します。

オートフォーカス合焦マーク

AFターゲットマーク

5 **シャッターボタンを半押しからそのまま押し込みます。（全押し）**
- ここで初めて撮影が完了します。

- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。
- 続けて撮影をして、メモリに空きがなくなると、メモリゲージのすべてが点灯します（P.22)。この場合は次の撮影に進むことができません。

☞ 次ページに続く

静止画を撮る AUTO （つづき）

■ ８ＭＢカード使用時の記録可能枚数
画質モードがＨＱ（１６００ｘ１２００）のとき：
約16枚
画質モードがＳＱ（６４０ｘ４８０標準）のとき：
約82枚

■ 被写体を拡大するには、ズームレバーをT側へまわします。より広い範囲を撮影するには、ズームレバーをW側へまわします。(P. 52)

ズームレバー

■ **フラッシュを使う～オート発光**（P. 80、84）

❶ ϟ（フラッシュ）スイッチを押してフラッシュを起こし（ポップアップさせ）ます。

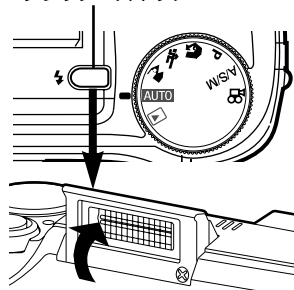
❷ シャッターボタンを半押しします。フラッシュが必要なときに、ϟ（フラッシュ発光予告マーク）が点灯すると、自動的に発光します。ϟが点滅しているあいだは、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

❸ シャッターボタンを全押しします。フラッシュが発光します。
- フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュを手で押して閉じてください。
- カメラの電源を切った際は、フラッシュを手で押して閉じてください。

フラッシュスイッチ

フラッシュ発光予告マーク

フラッシュの光が届く範囲
望遠時：約1.2m～4.4m
広角時：約0.1m～5.5m

注 意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されてます。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。

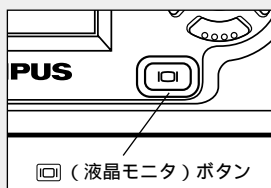
こんなときは

(液晶モニタ)ボタン

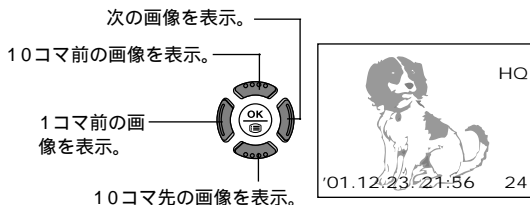
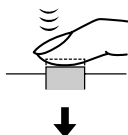
● **液晶モニタを使って撮影したい。**
→ (液晶モニタ)ボタンを押します。
→30秒以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

● **ビューファインダに何も見えない。**
→電源が入っていますか。(P. 36)
→レンズキャップがついていませんか。(P. 40)
→カメラがスリープモード(待機状態)(P. 36、134)になっていませんか。
→モードダイヤルが にセットされて、液晶モニタが点灯していませんか?
→電池の残量が少なくなると、フラッシュ充電の際は、ビューファインダを自動的に消して充電します。充電中はカードアクセスランプが点滅し、充電が完了するとビューファインダが点灯し、撮影ができます。

● **撮影ができない。**
→メモリーゲージの一番上が点灯していませんか?点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージの一番上が消灯すれば次の撮影ができます。
→オートフォーカス合焦マークが点滅していませんか?シャッターボタンから一度指を離して点滅が消えるのを待ってから、再度押し直してください。
→液晶モニタに「撮影可能枚数が0です」と表示されていませんか?この場合はカードに空きがありません。不要な画像を消去する(P. 47)、新しいカードに取り替える(P.34)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する(P.172〜177)などして、カードの空き容量を増やしてください。

静止画を見る〜簡単再生

撮影した画像がうまく撮れているかどうかすぐに確認したいときには、撮影後に ◻ （液晶モニタボタン）を素早く２回押します。モードダイヤルを ▶ （再生モード）に合わせる必要がないので、確認後はすぐに撮影に戻ることができます。

1 ◻ （液晶モニタ）ボタンをすばやく2回続けて押します。

2 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が表示されます。十字ボタンを使えば、カードに記録されている他の画像も表示することができます。

3 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

液晶モニタは消灯し、ビューファインダが点灯して、カメラを向けている被写体が表示されます。

■画像の再生はモードダイヤルを ▶ にすることでも行えますが、この場合は上記の手順３のようにシャッターボタンを半押ししても撮影モードに戻ることはできません。

注意

●液晶モニタ点灯時は、3分以上何もカメラの操作をしないと、自動的に消灯します。再度、点灯させるには、◻ ボタンを押すか、いずれかのボタン操作をしてください。

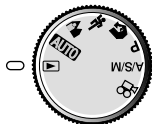
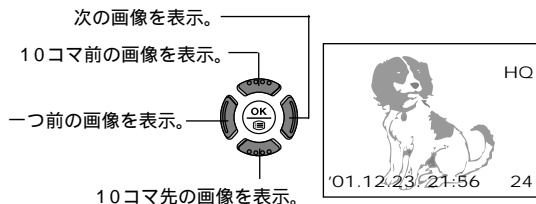
画像を消去する

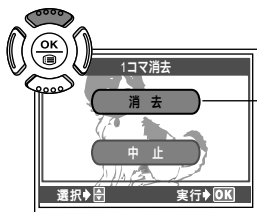
■操作の前に以下のことにご注意ください。

● 画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、剥がしてください。

● カードアクセスランプ点滅中に次の操作を行うと、カード中のデータが破壊される原因となります：カードカバーを開ける・カードを抜く・電池を抜く・ACアダプタをコンセントから抜く

1 モードダイヤルを ▶ にします。

● 簡単再生の状態でも、同じ操作ができます。

2 カードアクセスランプが点滅して、撮影した画像が表示されます。十字ボタンで消去したい画像を選択します。

3 🗑（消去ボタン）を押します。

4 消去するかどうかの確認画面が表示されたら、△を押して「消去」を選択します。

選択した設定は、緑色の枠で囲まれます

5 OK を押して、消去を実行します。

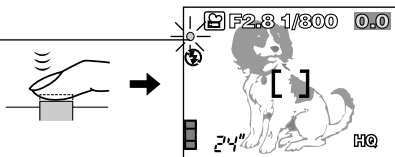
■消去を中止する

十字ボタンの▽を押して「中止」を選択し、OK を押すか再度🗑ボタンを押します。

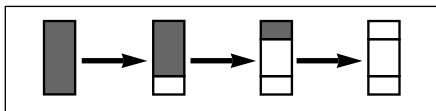
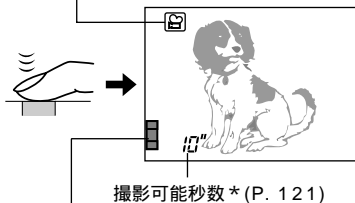
動画を撮る

1 モードダイヤルを（動画撮影）にします。

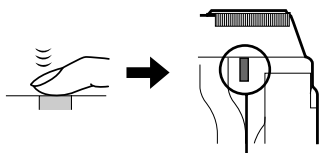
2 カメラを被写体に向けて、構図を決めます。

3 シャッターボタンを半押しします。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

- 撮影が始まると、ピントと露出は常に正しく合うように動作します。

メモリゲージは下のイラストのように変化します。

＊ 表示される撮影可能時間は、1回のシャッターボタンの全押しで、連続して撮影できる時間です。カードに記録できる全時間ではありません。

5 再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。

● メモリゲージに空きがあっても、カメラがカードへの記録を終えるまでは、次の撮影に進むことはできません。
● 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。

次の撮影ができます。

続けて撮影はできません。

■ カードアクセスランプの点滅が終わる

カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。

こんなときは

●撮影ができない。

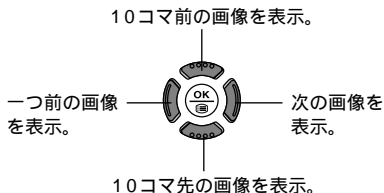
→メモリーゲージが点灯していませんか？点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージが全て消灯するまで待って、次の撮影に進んでください。

→「撮影可能枚数が０です」と表示されていませんか？この場合はカードに空きがありません。不要な画像を消去する（P.47)、新しいカードに取り替える(P.34)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する（P.172〜177)などして、カードの空き容量を増やしてください。

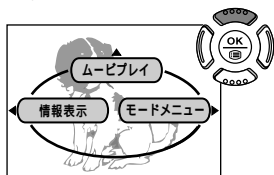
動画を見る

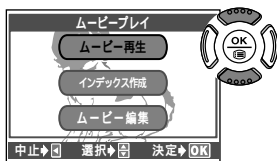
撮影した画像がうまく撮れているかどうかすぐに確認したいときには、撮影後に （液晶モニタボタン）を素早く２回押します。モードダイヤルを （再生モード）に合わせる必要がないので、確認後はすぐに撮影に戻ることができます。

1 簡単再生を使い、撮影画像を表示させます。(P. 46)

2 十字ボタンで マークのついた画像を選択します。

3 を押して、メニューを表示します。

4 十字ボタンの△を押して、「ムービープレイ」を選択します。

- カードアクセスランプが点滅して、カードからカメラへの画像の読み出しが行われます。

5 △または▽を押して、「ムービープレイ」画面で「ムービー再生」を選択します。

- 再生をしない場合は、手順11へ。

6 ボタンを押します。再生が開始します。

- 再生が終わると、動画の最初に戻ります。

7 を押します。

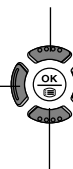
8 「ムービー再生」画面が表示されます。△または▽押して、行いたい内容によって項目を選択します。

再度、動画を再生するには→**再生**
コマ送りをするには→**コマ送り**
再生をやめるには→**中止**

9 ボタンを押します。

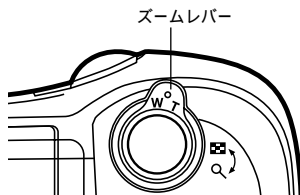
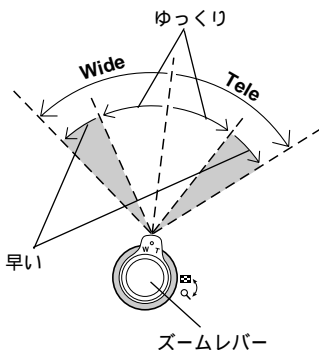
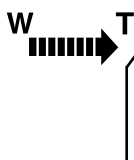
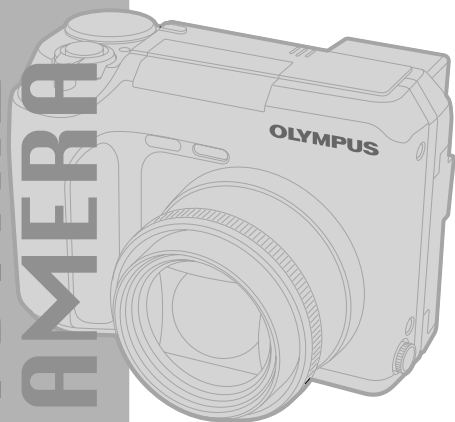
コマ送り→**手順10へ。**
中止→**「ムービープレイ」画面が表示されます。手順11へ。**

10 コマ送りは次のとおりです。

11 ◁を押して「中止」を選択します

■ すぐに撮影に戻る（簡単再生を使用したときのみ）

シャッターボタンを半押しします。ムービー再生中やメニュー画面表示中でも、すぐにビューファインダが点灯して、被写体が表示されます。

望遠や広角撮影をする　T/W

ズーム倍率は10倍です。
ズームレバーをまわす角度により、望遠／広角になる速度が変わります。

被写体をより広く撮影する（広角）
ズームレバーをW側へまわし、ズームアウトします。

被写体をより大きく撮影する（望遠）
ズームレバーをT側へまわし、ズームインします。

ズームの拡大率によって、カーソルは上下に移動します。

■デジタルズーム

モードダイヤルが **AUTO** 以外にセットされているときに、メニューの「デジタルズーム」を「オン」にすると(P. 113)、2.7倍のデジタルズーム倍率と組み合わされ、27倍相当の撮影ができます。

■ モード（動画撮影）でのズームイン／アウト

モードでメニューの「ムービー録音」が「オン」になっているときは、撮影中はデジタルズームのみが働きます。そのため、撮影前にズームレバーを操作して、光学ズームの倍率を決めておく必要があります。「デジタルズーム」が「オフ」だと、撮影中はズームはできません。（P. 113）

3

ボタン機能編

この章では、カメラ本体のボタンやダイヤルの機能について説明します。
Ｐ．５４，５５でご使用になりたいボタンを探し、それぞれのページに進んでください。

ドライブボタン
連写モードの切り替えやセルフタイマーが使えます。→P. 71
消去ボタン
再生 ▶ モードのとき、画像の消去ができます。→P. 76

マクロ／スポットボタン
明るさを測る範囲を選べたり、近くのものを撮影できます。→P. 77
プリントボタン
再生 ▶ モードのとき、プリント予約ができます。→P. 162、163

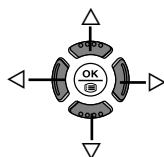
パワースイッチ
→P. 36

フラッシュモードボタン
フラッシュ発光のパターンが選べます。→P. 80
プロテクトボタン
再生 ▶ モードのとき、誤って画像を消さないように画像にプロテクト（保護）をかけられます。→P. 86

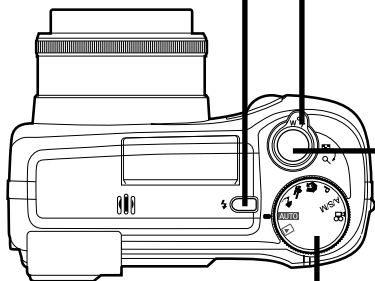
AEロック／カスタムボタン
AEロック(P. 87)やマルチ測光(P. 89)ができます。その他の機能を、このボタンに割り当てることもできます(P. 91)。
回転再生ボタン
再生 ▶ モードのときは、画像を回転させることができます。→P. 92

液晶モニタボタン→P. 45

十字ボタン
- 十字ボタンのどの方向キーを押すかを△、▽、◁、▷マークで示しています。
- メニュー内を移動するとき、またメニュー内での数値の設定に使います。→P. 105
- 絞り値(P. 59)・シャッター速度(P. 60)・露出補正（P. 93、94)・手動でのピント合わせ（マニュアルフォーカス→P. 96）など、数値の設定ができます。→P. 93、94
- 再生 ▶ モードのとき、コマ送りができます。→P. 46、50

OK／メニューボタン
- 操作の確定／実行をします。
- ポンと短く押すと、メニューを表示します。→P. 95
- 1秒以上押すと、手動でピント合わせができます。マニュアルフォーカス→P. 96

フラッシュスイッチ
フラッシュを起こします。→P. 84

ズームレバー
- 望遠や広角撮影ができます。→P. 68
- 再生 ▶ モードのとき、複数の画像を一度に表示したり（インデックス再生）、画像を拡大（クローズアップ再生）できます。
- プリント予約のトリミングサイズを設定します。(P. 165)

シャッターボタン→P. 64
- 半押しでピント合わせをして、全押しで撮影を実行します。
- 簡単再生(P. 46、50)をしているときは、半押しで撮影モードに戻れます。

モードダイヤル
位置を切り替えることで、カメラの動作が変わります。
🎥（動画撮影）→P. 48、62
A/S/M（絞り優先撮影／シャッター優先撮影／マニュアル撮影）→P. 58～61
P（プログラム撮影）→P. 56
（ポートレート撮影）→P. 56
（スポーツ撮影）→P. 56
（記念写真撮影）→P. 56
AUTO（フルオート撮影）→P. 40～45、56
▶（再生）→P. 62、63

モードダイヤル

AUTO フルオート撮影

静止画を撮影します。特別な機能や各種の設定は必要ありません。 ピント合わせや明るさ調整などは、カメラが最適なものにします。いちばん簡単な撮影方法です。「カメラに慣れましょう」→P. 39～52

機能制限

- フラッシュはオート発光モードで使えます。（P. 44、80）
- 画質はSHQ、HQ、SQ＊の中から選択できます。メニュー設定→P. 121
  ＊SQは640x480標準モードのみです。
- 電池節約モードはOFFになります。（P. 136）
- 連写はできません。

重要：
AUTOモードでカメラの電源を入れたときは、設定した機能はすべて初期設定に戻ります。設定クリア→P. 131

P プログラム撮影

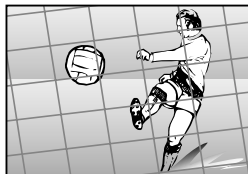
絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュ発光モードやドライブモードなどのその他の機能は、自由に設定できます。

場面に合わせてオート撮影する

人物を撮る～ポートレート撮影

人物撮影をするには最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

動いている被写体を撮る～スポーツ撮影

スポーツなどのすばやい動きや走っている車をとるときには最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

人物と背景を撮る～記念写真撮影

人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

モード の機能制限

● 次の機能は設定が制限されます。
画質：SHQ、HQまたはSQ（SQは640x480標準モードのみです）(P. 121)・**情報表示：**オン(P. 21)・**ISO：**オート(P. 110)・**ホワイトバランス：**オート(P. 122)・**レックビュー：**オン(P. 133)

● 次の機能はできません。
マニュアルフォーカス(P. 96)・WB補正(P. 124)・スポット測光／マクロモード(P. 77)・AEロック(P. 87)・マルチ測光(P. 89)・絞り値とシャッター速度設定

●スリープ時間とファイル名メモリは、PかA/S/Mモードで設定されている状態で動作します。

● 設定クリアをオフにすれば、モード で設定した機能は、電源を切った後でも保存されます。設定クリアのカスタムは設定できません。(P. 131)
ただし、設定クリアがオンになっている他のモード（P・A/S/M・▶）でカメラの電源を入れると、設定した機能は初期設定に戻ります。AUTOモードで電源を入れたときは、常に設定クリアはオンで働きます。

● **次の機能の設定は表のとおりです。**

モード	フラッシュモード	ドライブモード	フルタイムAF
	強制発光	1コマ撮影（単写）・連写・セルフタイマー	不可
	オート		オン固定
	オート		不可

A/S/M 絞り優先/シャッター優先/マニュアル 撮影

絞り値やシャッター速度を自分で決めたい場合は、A/S/Mモードにします。モードダイヤルをA/S/Mに設定したとき、どの撮影モードに設定するかは、メニュー画面での選択になります。絞り値を設定できるAモード（絞り優先撮影)・シャッター速度を設定できるSモード（シャッター優先撮影)・絞り値とシャッター速度の両方を設定できるMモード（マニュアル撮影）の中から選択することができます。（モードメニューを表示する(P. 100)→撮影メニューを表示する(P. 102)→A/S/Mモードの設定(P. 107、111)）

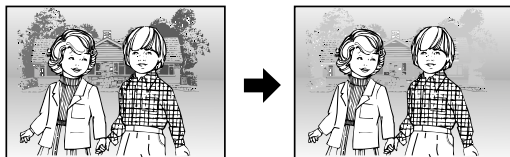
モードによる機能制限
どの撮影モードに設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

機能 / モード	フラッシュモード(P. 80)	ISO感度(P. 110)
A	オート発光・赤目軽減発光・ 強制発光・スローシンクロ・発光禁止	●100・200・400・800 ●ISO感度がオートのとき、A・S・Mモードに切り替えると、自動的にISO感度は100に設定されます。
S	スローシンクロ・発光禁止	
M	スローシンクロ・発光禁止	

注 意

- ● A/S/Mモードのときは、「パノラマ撮影」(P. 116)は選択できません。
- ● 設定クリア(P. 131)をオフにすれば、A・S・Mのモード選択の設定も、絞り値やシャッター速度の設定も保存されています。ただし、［ポートレート］・［スポーツ］・［風景］・［再生］・［動画］（動画）モードのうち、設定クリアがオンに設定されているモードでカメラの電源を入れると、設定した機能は解除されます。

絞り値を設定する〜絞り優先撮影

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。
絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

1 **A/S/Mのモードの設定をAにします。**

● 撮影メニューを表示する(P. 102)→A/S/Mモードの設定(P. 107、111)

2

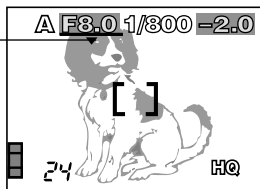
絞りを絞るには（F値を大きくする）、△を押します。

絞りを開くには（F値を小さくする）、▽を押します。

■絞り値が赤く表示される

設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。▼が表示されているときは、▽を押して絞り値を小さくします。▲が表示されているときは、△を押して絞り値を大きくします。

緑色の表示：設定した絞り値で適正露出が得られる場合

赤く表示：設定した絞り値では適正露出が得られない場合

ズーム位置	設定範囲
広角（W側）	F2.8〜F8.0
望遠（T側）	F3.5〜F8.0

注意

● A・S・Mモードの機能制限もお読みください。(P. 58)

● フラッシュが起きているときは（フラッシュが発光可能なとき）、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）にあるときは、1/30秒、もっとも望遠側（T端）にあるときは、1/200秒よりも低速にはなりません。

シャッター速度を設定する〜シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。シャッター速度を高速にすると、動いているものは止まって撮影されます。逆に低速にすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが、躍動感や動きのある仕上がりになります。

1 A/S/Mのモードの設定をSにします。

● 撮影メニューを表示する(P. 102)→A/S/Mモードの設定(P. 107、111)

2

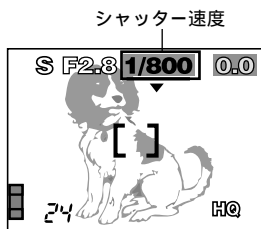
シャッター速度を速くするには、△を押します。

シャッター速度を遅くするには、▽を押します。

シャッター速度選択範囲：
1/2〜1/1000（秒）

■シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。▼が表示されているときは、シャッター速度を遅くします。▲が表示されているときは、シャッター速度を速くします。

注意

● A・S・Mモードの機能制限もお読みください。(P. 58)

絞り値とシャッター速度を設定する〜マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。街灯が輝く街の夜景などを撮影するには、通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。P（プログラム）モードで夜景を撮影すると、光っている点だけの画像になってしまいます。Sモードにしてシャッター速度を長く設定すると、周囲の景色も写せるようになります。

1 **A/S/Mのモードの設定をMにします。**
●撮影メニューを表示する(P. 102)→A/S/Mモードの設定(P. 107、111)

2 **シャッタースピードと絞り値を設定します。**

シャッター速度を速くするには、△を押します。

絞りを開くには（F値を小さくする）、▷を押します。

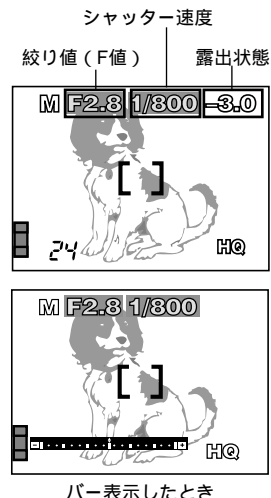
シャッター速度を遅くするには、▽を押します。

絞りを絞るには（F値を大きくする）、◁を押します。

絞り値：2.8～8（W）・3.5～8（T）
シャッター速度：16～1/1000（秒）

■**露出状態**
●設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が－3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
●露出が－3.0EVよりも小さく、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。
● **AEL/** を押すと、右図のような露出状態を示すバーが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、適正露出との差を表示します。

シャッター速度
絞り値（F値）
露出状態

バー表示したとき

注意

●カメラ振れを防ぐため、シャッター速度を遅くする場合は三脚のご使用をお勧めします。
●A・S・Mモードの機能制限もお読みください。(P. 58)

3 ボタン機能編

動画撮影

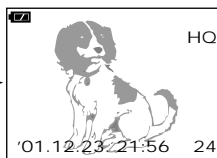
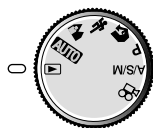
動画を撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。被写体が移動したり、被写体との距離が変化した場合でも、カメラは常にピントと露出が正しく合うように作動します。

機能制限

● 次の機能はできません。
フラッシュ・スポット測光・AEロック・BKT設定・連写・パノラマ撮影・マニュアルフォーカス・フラッシュ補正・シャープネス・コントラスト・WB補正
● 次の機能は設定内容に制限があります。
ファンクション撮影：モノクロまたはセピア(P. 118)・**画質：**HQまたはSQ(P. 121)
● 設定クリア(P. 131)をオフにすれば、このモードで設定した機能は、電源を切った後でも保存されます。ただし、P・A/S/M・▶ モードのうち、設定クリアがオンに設定されているモードでカメラの電源を入れると、設定した機能は初期設定に戻ります。
●「録音」機能が「オン」に設定されているときは、動画とともに音声も記録できます。(P. 115)
● スリープ時間とファイル名メモリは、PかA/S/Mモードで設定されている状態で動作します。

再生

撮影した画像を見ることができます。また、プリント予約(P. 160)をするときも、このモードにします。次に１コマ再生の方法を説明します。

1 モードダイヤルを ▶ にします。

液晶モニタが点灯し、最新の画像が再生されます。

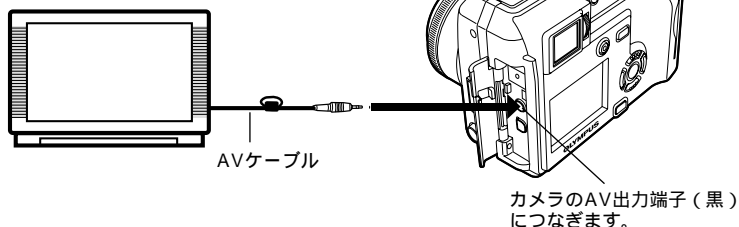
2 10コマ前の画像に戻ります。

次の画像に進みます。

10コマ先の画像に進みます。

一つ前の画像に戻ります。

■ **1コマ再生からさらに次の再生機能が使えます。簡単再生(P. 46、50)でも同様にできます。**
複数の画像を一度に表示する→インデックス再生(P. 70)
1コマ再生中の画像を拡大する→クローズアップ再生(P. 69)
スライドを見るように1コマずつ自動的に再生する→自動再生(P. 144)
縦位置で撮影した画像を回転させる→回転再生(P. 92)

■ AVケーブル（付属）を使って撮影した画像や音声をテレビで再生することができます。接続する前に、テレビとカメラの電源を切ります。

AVケーブルの接続が終わったら

❶ **カメラとテレビの電源を入れて、テレビ側で映像入力を選択します。映像入力を選択するには、お使いのテレビの取扱説明書と参照ください。**

❷ **モードダイヤルを ▶ の位置にセットします。**

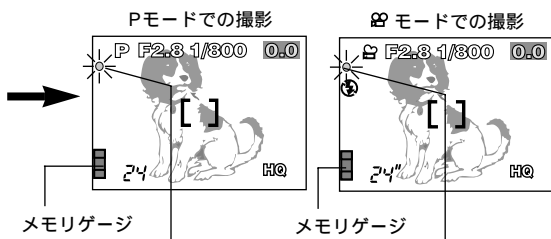
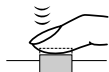
❸ **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**
テレビに選択した画像が表示されます。

注意

● テレビに接続した場合はモニタの表示が自動的に切れます。
● お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
● お使いのテレビによっては画像の外側に黒い枠が表示されることがありますが、故障ではありません。
● テレビで再生する場合はACアダプター（別売）のご使用をおすすめします。

シャッターボタン

シャッターボタンの使い方（半押し／全押し）とピント合わせ

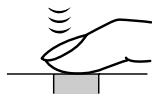
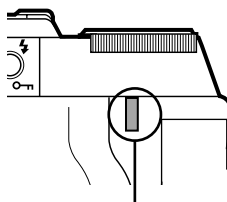
1 **カメラを被写体に向けて、構図を決めます。シャッターボタンを静かに半押しします。**

2 **シャッターボタンを静かに全押しします。撮影が行われます。**

■ **AUTO・P・A/S/M・ ・ ・ モード（静止画撮影）の場合**

メモリゲージの一番下が点灯し、カード記録が始まります。カード記録中は、カードアクセスランプは点滅します。カードとメモリゲージに空きがあれば、続けての撮影が可能です。メモリゲージが一番上まで点灯しているときは、次の撮影はできません。

■ **モード（動画撮影）の場合**

撮影が始まると、 マークが赤く点灯して、ピントと露出は常に正しく合うように動作します。

3 **モード（動画撮影のみ）**
撮影を終わらせるために、もう一度シャッターボタンを全押しします。カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。

■カードアクセスランプの点滅が終わると次の撮影にすすむことができます。点滅中はメモリーゲージに空きがあっても撮影できませんのでご注意ください。

こんなときは

● **被写体がAFターゲットマークから外れる。**
→被写体にAFターゲットマークを合わせ、フォーカスロックをします。(P.67)

● **オートフォーカス合焦マークが点滅した。**
→被写体に近づいて撮影したいときはマクロモード（最短撮影可能距離：広角で0.1 m、望遠：1.2 m)を使います。(P.77)
→被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。(P. 66)

● **撮影ができない。**
→静止画撮影モードでは、メモリーゲージが一番上まで点滅しているときは、次の撮影に進むことができません。(P.22)
→ 🎥 モードでカードに書き込み中のときは、カードアクセスランプの点滅が終わるまで次の撮影に進むことができません。
→「撮影可能枚数が０です」と表示されていませんか？この場合はカードに空きがありません。不要な画像を消去する（P.47)、新しいカードに取り替える(P.34)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する（P.172～177)などして、カードの空き容量を増やしてください。

● **シャッターボタンの半押しで、ピント合わせの時間を短くしたい。**
→フルタイムAFに設定します。(P. 114)

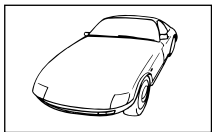
● **露出だけを固定したい。**
→AEロックをします。(P. 87)

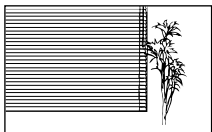
● **撮影した画像をすぐに確認したい。**
→レックビューに設定します。(P. 133)

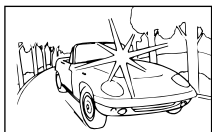
ピントの合いにくいもの～オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、オートフォーカス合焦マークが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、オートフォーカス合焦マークが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影するか、マニュアルフォーカス(P. 96)を使用してください。

❶ 明暗の差がはっきりしない被写体

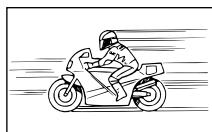
被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロック(P.67)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体

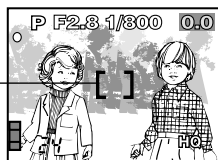
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 67)した後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体

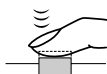
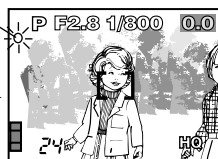
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 67)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ 遠いものと近いものが混在する被写体

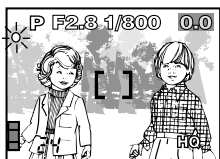
オートフォーカス合焦マークが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 67)してから元の構図に戻して撮影してください。

❺ 動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 67)してから、元の構図に戻して撮影してください。

中央以外の被写体にピントを合わせる〜フォーカスロック

カメラは常に画面の中央にピントを合わせるため、右図のような構図では撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影を行ってください。

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

同時に画像の明るさ（露出）も固定され、オートフォーカス合焦マークも点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。

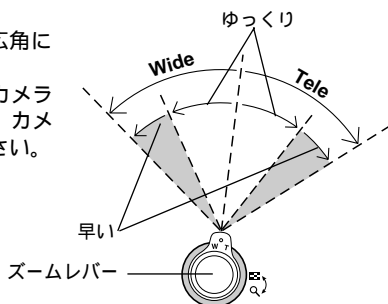
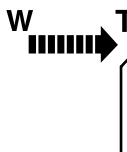
3 シャッターボタンを全押しします。

こんなときは

- **オートフォーカス合焦マークが点滅する。**
  →ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、オートフォーカス合焦マークが点滅をやめるまで、手順1を繰り返します。
- **ピント合わせをする構図と、露出を合わせたい構図が異なっている。**
  →AEロックを使います。(P. 87)

ズームレバー

撮影時（ **AUTO**・P・A/S/M・・・モード）と再生時（▶ モード）では、ズームレバーの機能が異なります。
撮影時にズームレバーを使うと、望遠や広角撮影ができます。再生時では、画像を拡大したり(P. 69)、複数の画像を一度に表示することができます(P. 70)。

望遠や広角撮影をする　T/W　**AUTO**・P・A/S/M・・・・

ズーム倍率は10倍です。
ズームレバーをまわす角度により、望遠／広角になる速度が変わります。
ズームで拡大して撮影する場合は、小さなカメラ振れでも画像に現れやすくなります。特に、カメラ振れを抑えるようにしっかり構えてください。

被写体をより広く撮影する（広角）
ズームレバーをW側へまわし、ズームアウトします。

被写体をより大きく撮影する（望遠）
ズームレバーをT側へまわし、ズームインします。

W　T

ズームの拡大率によって、カーソルは上下に移動します。

■デジタルズーム

モードダイヤルが **AUTO** 以外にセットされているときに、メニューの「デジタルズーム」を「オン」にすると(P. 113)、2.7倍のデジタルズーム倍率と組み合わされ、27倍相当の撮影ができます。

■ モード（動画撮影）でのズームイン／アウト

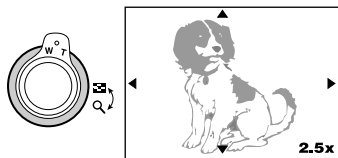
モードでメニューの「ムービー録音」が「オン」になっているときは、撮影中はデジタルズームのみが働きます。そのため、撮影前にズームレバーを操作して、光学ズームの倍率を決めておく必要があります。「デジタルズーム」が「オフ」だと、撮影中はズームはできません。

画像を拡大して表示する～クローズアップ再生

ズームレバーをT側に回すごとに、画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍に拡大することができます。（簡単再生(P.46、50)でもこの機能が使えます。）

1 十字ボタンで拡大したい画像を選択します。

🎥のついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側（🔍）に回します。

拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。表示したい方向の矢印と同じ十字ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

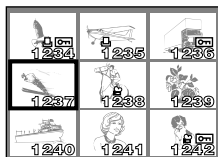
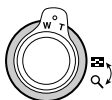
こんなときは

- **元の大きさに戻したい。**
  →ズームレバーをW側にまわします。
- **別の画像を表示したい。**
  →ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻し、拡大したい画像を選びます。

ズームレバー（つづき）

複数の画像を一度に表示する～インデックス再生

ズームレバーをW側に回すと、一つの画面に複数の画像（4／9／16分割）を表示させることができます。多数の画像の中から、見たい画像を素早く検索したいときに便利です。（簡単再生(P.46、50)でもこの機能が使えます。）

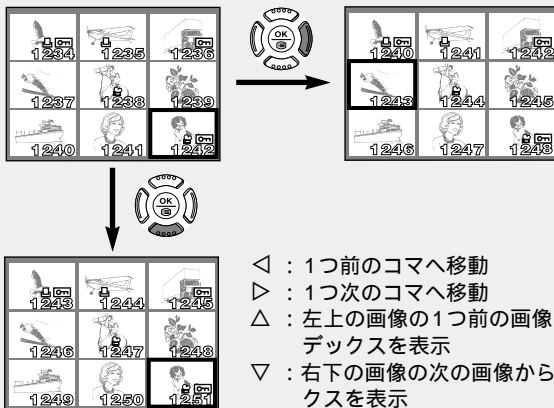
1コマ再生(P. 62)をしている状態で、ズームレバーをW側（⊞）にまわします。

インデックス再生（9分割）

1コマ再生で表示していた画像を含んで、複数の画像がインデックス再生されます。

こんなときは

● **インデックス再生の分割数を変えたい。**
→設定メニューで表示コマ数を変更します。(P. 156)

● **インデックス再生で画像を選んで、1コマ再生をしたい。**
→十字ボタンで画像を選択して、ズームレバーをT側にまわします。

例

◁ ：1つ前のコマへ移動
▷ ：1つ次のコマへ移動
△ ：左上の画像の1つ前の画像までのインデックスを表示
▽ ：右下の画像の次の画像からのインデックスを表示

ドライブモードを選択する

□ AF□ ⏲ BKT

連続撮影（連写）またはセルフタイマー撮影をするときに、　DRIVEボタンを押してモードを選択します。

1 DRIVEボタンを押します。ビューファインダ／液晶モニタにドライブモードの選択表示が出ます。

2 使いたいドライブモードの表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。

●何も操作をしない状態が約２秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。ドライブモードは、次の表のように切り替ります。

モード選択表示	撮影中の表示	機能
１コマ撮影（単写）	表示なし（初期設定）	一度のシャッターボタンの全押しで、１コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード）（1コマ撮影）
□ 連写	□	連続撮影。最初の１コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。連写→P. 72
AF連写	AF□	連続撮影。1コマごとに、ピントが測定され、変更されるので、連写速度は遅くなります。AF連写→P. 72
⏲ セルフタイマー	⏲	1コマ撮影。セルフタイマーを使用して、撮影します。セルフタイマー→P. 74
BKTブラケット	BKT	連続撮影。一度のシャッターボタンの全押しで、1コマごとに自動的に明るさ（露出）を変えて連続撮影します。ピントとホワイトバランスは最初の１コマで固定されます。オートブラケット撮影→P. 75

☞ 次ページに続く

モードダイヤル位置による機能制限
モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

モード	機能
AUTO	1コマ撮影（単写）
ポートレート	1コマ撮影（単写）・連写・セルフタイマー
スポーツ	
風景	
P	1コマ撮影（単写）・連写・AF連写・セルフタイマー・ブラケット撮影
A/S/M	1コマ撮影（単写）・連写・AF連写・セルフタイマー・ブラケット撮影＊
ムービー	セルフタイマー
再生	1コマ消去

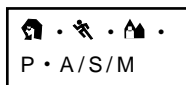
＊Mモードでは、できません。

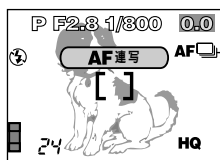
注 意

●赤目発光👁 (P. 82)は、連写・AF連写では設定できません。
●フラッシュは、オートブラケットでは発光しません。
●セルフタイマー以外は、設定クリア(P. 131)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
●ISO感度設定を200以上に設定して撮影すると、条件によっては画像にノイズが写ることがあります。(P. 110)

連写・AF連写をする

1 **モードダイヤルを次のいずれかにします。ただし、ポートレート、スポーツ、風景 モードではAF連写はできません。**

2 **画質モードをTIFF以外にします。(P. 119、121)**

3 **DRIVEボタンを押します。液晶モニタにドライブモードの選択表示が出ます。**

4 **（連写）か AF（AF連写）の表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。**

AF連写マーク

5 **撮影します。**

- シャッターボタンを押している間は連写が続きます。指をはなすと連写が止まります。

連写速度と連写可能枚数

画質モード	連写速度（コマ／秒）	連写可能枚数
TIFF	設定できません。	
SHQ	約1.2コマ／秒	約3枚
HQ	約1.2コマ／秒	約6枚
SQ (640 x 480)	約1.4コマ／秒	約37枚

注意

- フラッシュ使用時は、フラッシュの充電に時間がかかるので、連写・AF連写は遅くなります。
- 連写中に、電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- 外部フラッシュ使用時は、連写速度に追従できる設定をおすすめします。
- シャッター速度はカメラぶれを抑えるため最長1／2秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。

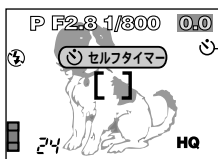
DRIVE(ドライブ)/ 🗑 (消去)ボタン(つづき)

セルフタイマーを使って撮影する

カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

1 **モードダイヤルを次のいずれかにします。**

2 **DRIVEボタンを押します。液晶モニタにドライブモードの選択表示が出ます。**

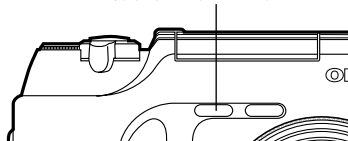
3 **（セルフタイマー）の表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。**

セルフタイマーマーク

4 **シャッターボタンを全押しして、セルフタイマー撮影を始めます。**

- カメラ前面のセルフタイマーランプが約10秒間点灯します。さらに、約2秒間点滅した後、シャッターが切れて撮影完了です。
- の場合、撮影が開始されます。撮影を終えるには、連続撮影時間一杯撮りきるか、再度シャッターボタンを押します。

■作動中のセルフタイマーを止める

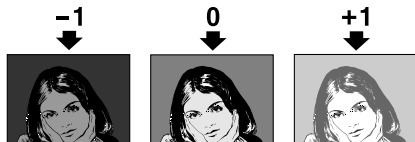
DRIVEボタンを押します。
セルフタイマーランプが消灯します。セルフタイマーの設定は、解除されていません。

セルフタイマーランプ

● セルフタイマーで撮影後、セルフタイマーモードは解除されます。

1コマごとに露出を自動的に変えて連続撮影する～オートブラケット撮影　BKT

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。どのくらい補正すればよいかわからないときは、メニューで露出差を選択します。撮影はすでに設定した露出差により、自動的に露出を調整して連続撮影されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

−1　0　+1

1 **モードダイヤルを次のモードにします。ただし、A/S/Mの場合は、AまたはSモードに設定します。(P. 111)。**

または

P または A/S/M＊

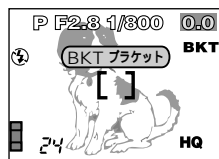
＊ Mモードでは使用できません。

2 **画質モードをTIFF以外にします。(P. 119、121)**

3 **OKを押して、メニューを表示します。トップメニューからモードメニューを選択し(P. 100)、「BKT設定」(P. 102、108)を選択します。**

- コマごとの明るさ（露出）の段階（±0.3、±0.6、±1.0）を選択します。
- 撮影枚数（x3、x5）を選択します。
(SHQでは、x3のみ)

4 **DRIVEボタンを押します。液晶モニタにドライブモードの選択表示が出ます。**

5 **BKTブラケットの表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。**

BKTマーク

次ページに続く

6 撮影します。
- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを押し続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

オートブラケット撮影を設定している画面

注意
- カードの空きが設定枚数以上ないと、次の撮影に進むことができません。

1コマ消去〜消去ボタン

■操作の前に以下のことにご注意ください。
- 画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、剥がしてください。
- カードアクセスランプ点滅中に次の動作を行なうと、カード中のデータが破壊される原因となります：カードカバーを開ける・カードを抜く・電池を抜く・ACアダプタをコンセントから抜く

1 1コマ再生をして、十字ボタンで消去したい画像を選択します。(P．46、51)
- 画像を消さないようにプロテクト(P．86)がかかっていたら、解除してください。

2 🗑 ボタンを押します。消去するかどうかの確認画面が表示されます。

確認画面

3 △を押して、「消去」を選択します

4 OK を押して、消去を実行します。

■消去を中止する

十字ボタンの▽を押して「中止」を選択し、OKを押すか再度 🗑 ボタンを押します。

/（マクロ/スポット）ボタン

測光やピント合わせの範囲を選択 ～スポット測光/マクロモード

明るさを測る範囲や、ピント合わせをする範囲を選択できます。
「 スポット測光」では画面中央部の測光値をもとに露出を決定します。、「 マクロ」では近接撮影のピント合わせが早くできます。適正露出を得たい範囲がわかっているときは、 / ボタンを押して、スポット測光・マクロモードを切り替えます。

モード選択表示	撮影中の表示	機能
スポット・マクロオフ	表示なし（初期設定）	デジタルESP―測光構図の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。
スポット測光		ファインダのAFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。（スポット測光）
マクロ		ズームをもっとも広角側にして被写体に10cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。（デジタルESP測光、マクロモード）
スポット・マクロ		マクロ撮影の範囲内でスポット測光を使いたいときに、設定してください。（スポット測光、マクロモード）

撮影可能距離（m）

モード	ズームW端	ズームT端
通常（マクロ撮影以外）	0.6～∞	2.0～∞
マクロ撮影	0.1～0.6	1.2～2.0

モードダイヤル位置による機能制限
モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

モード	機能
AUTO	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊
（ポートレート）	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊
（スポーツ）	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊
（風景）	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊
P	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊、 スポット測光、 マクロ、スポット・マクロ
A/S/M	スポット・マクロオフ（デジタルESP測光）＊、 スポット測光、 マクロ、スポット・マクロ
（動画）	スポット・マクロオフ（デジタルEPS測光）＊、 スポット測光

＊初期設定

3 ボタン機能編

注 意

- 「スポット・マクロオフ」と「🌷 マクロ」では、マルチ測光はできません。→マルチ測光(P. 89)
- 設定クリア(P. 131)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
- 再生 ▶ モードのときに 🌷/[•] を押すと、プリント予約ができます。(P. 160)

スポット測光/マクロモードを使って撮影する

1 モードダイヤルを撮影モードにセットします。

- スポット測光／マクロモードが使えないモードもありますので、前ページの「モードダイヤルの位置による機能制限」を参照してください。

2 🌷/[•] ボタンを押します。液晶モニタにスポット測光/マクロモードの選択表示が出ます。

3 使いたいスポット測光・マクロモードの表示が出るまで、繰り返し 🌷/[•]ボタンを押します。

- 何も操作をしない状態が約２秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

スポット測光マーク

4 撮影します。

ϟ（フラッシュモード）/ ⊶（プロテクト）ボタン

フラッシュ発光モードを選ぶ

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することもできます（P.111）。
外部フラッシュの使用方法については、P.183〜186をご覧下さい。

フラッシュを起こしているとき、ϟ（フラッシュモード）ボタンを押すたびに、フラッシュモードが切り替わります。撮影モードによって、設定できる発光モードが異なります。→P. 81

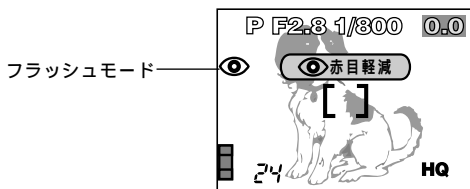
● モードダイヤルを ▶ にセットしているときや、簡単再生をしているときは ϟ ボタンは ⊶ ボタンに変わります。(P.86)

■ フラッシュ自動発光時のシャッター速度について

フラッシュが起きている状態で、手振れ警告（ ϟ ）が表示されるとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度は手振れ警告が表示されたときの秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/200秒

ボタンを押す度にフラッシュモードの表示が次のように変化します。

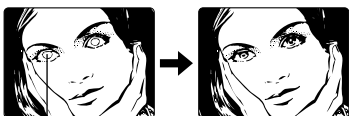
モード選択表示	撮影中の表示	機能
オート発光	表示なし (初期設定)	暗いときや逆行の時に自動的に発光します。 →オート発光(P.44)
赤目軽減発光		目が赤く写ってしまう現象を軽減します。 →赤目軽減発光(P.82)
強制発光		被写体の明るさに関係なく、常に発光します。 →強制発光(P.82)
SLOWスローシンクロ	SLOW1 または SLOW1 または SLOW2	遅いシャッタースピードでフラッシュを発光させます。 →スローシンクロ(P. 83)
発光禁止		フラッシュを発光させません。 →発光禁止(P. 82)

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

<table>
<tr><th colspan="2">機能
モード</th><th>オート発光</th><th>赤目軽減
発光</th><th>強制発光</th><th>SLOW
スローシンクロ</th><th>発光禁止</th></tr>
<tr><td colspan="2">AUTO</td><td>設定
できます。</td><td rowspan="4">—</td><td>—</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="8">（フラッシュモード）ボタンでは設定できません。フラッシュを収納するとこの表示が出ます。フラッシュが起きているときに、このモードを選択することはできません。
フラッシュが起きていても、次のときは発光しません。
● オートブラケット撮影　BKT
● （動画）モード</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>—</td><td>設定
できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td rowspan="4">設定
できます。</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">P</td><td rowspan="2">設定
できます。</td><td rowspan="2">設定
できます。</td><td rowspan="4">設定できます。メニューの「スローシンクロ」の設定（先幕・先幕赤目・後幕）により、発光の種類が決まります。(P. 83、108)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">A/S/M</td><td>A</td></tr>
<tr><td>S</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>M</td></tr>
</table>

—：設定不可。

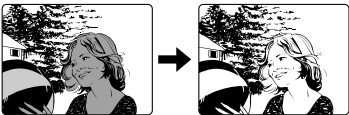
赤目軽減発光

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注意

- 最初のフラッシュ発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかりますので、途中で動かさないようカメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景などを撮影するときに使います。発光禁止にするには、フラッシュを収納します。

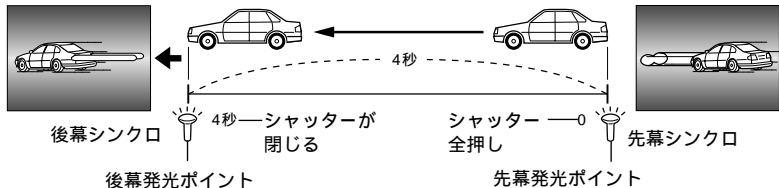
注意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ ϟSLOW1 ϟSLOW2 👁ϟSLOW

遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。

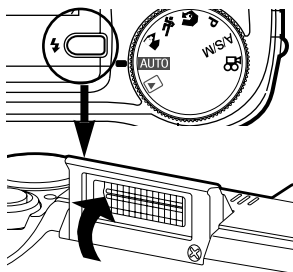
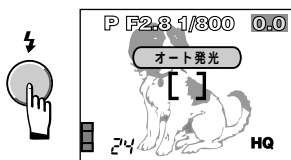
■ 先幕効果（先幕シンクロ）：ϟSLOW1
フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、通常のフラッシュ撮影はこの方法で行われるため、初期設定は「先幕効果」になっています。

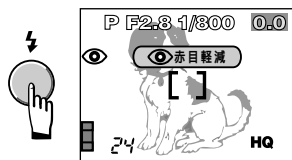
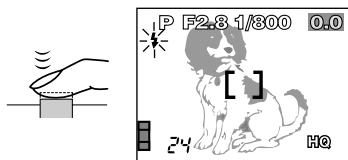
■ 後幕効果（後幕シンクロ）：ϟSLOW2
先幕シンクロに対して、シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度がより遅いほうが効果的で、最も低速で４秒まで（Ｍモードでは１６秒まで）選べます。

■ 赤目先幕：👁ϟSLOW
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「赤目先幕」を選択します。
例えば、夜景などの暗い被写体を背景にして人物を写すと、赤目現象が出やすくなります。この機能では、後幕シンクロでは予備発光から撮影までが長くなり赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

フラッシュを使う

1 モードダイヤルを撮影モードにセットします。

● モードダイヤルの位置によって使えるフラッシュモードが違いますので、81ページの「モードダイヤルの位置による機能制限」を参照してください。

2 (フラッシュ) スイッチを押して、フラッシュを起こします。

3 ボタンを押します。液晶モニタにフラッシュモードの選択表示が出ます。

4 使いたいフラッシュモードの表示が出るまで、繰り返し ボタンを押します。

● 何も操作をしない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

5 シャッターボタンを半押しします。 (フラッシュ発光予告マーク) が点灯すると、撮影時にフラッシュが発光します。

6 シャッターボタンを全押しします。

こんなときは

● **フラッシュを起こしても、発光しない。**
→次の場合は発光しません。被写体が明るいとき・オートブラケット撮影BKT(P. 75)・ファンクション撮影の白板・黒板モード(P. 118)・パノラマ撮影（P. 116)

● **ϟ（フラッシュ発光予告マーク）が点滅した。**
→フラッシュは充電中です。シャッターは切れません。いったん、シャッターから指をはなし、マークが消えてから撮影します。

■スローシンクロを使うときのシャッター速度とISO感度

P（プログラム）、A（絞り優先撮影）、S（シャッター優先撮影）モードのときに、スローシンクロを使って撮影した場合は、ISO感度の設定により最長のシャッター速度が異なります。また、P（プログラム）モードでISOがAUTOに設定されていても、自動的に感度はあがりません。

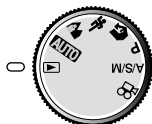
ISO感度設定	100	200	400	800
設定できる最長秒時	4秒	2秒	1秒	1/2秒

注意

● マクロ撮影時、特にズームがW（広角）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。コンバージョンレンズを使用すると、影ができたり、光がけられるためフラッシュは使用できません。
● 設定クリア(P. 131)をオフにすれば、電源を切っても設定は保存されます。

誤って画像を消さないようにする ～（プロテクト）ボタン

再生時に （プロテクト）ボタンを押すと、残しておきたい画像にプロテクト（消去禁止）をかけられます。

1 モードダイヤルを にして、プロテクトをかける画像を表示します。**→1コマ再生(P. 62)・クローズアップ再生(P. 69)・インデックス再生(P. 70)**

2 ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

■ **プロテクトを解除する**

その画像が表示された状態で、再度 ボタンを押します。 が消えてプロテクトが解除されます。

注意

- プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化（フォーマット）するとすべて消去します。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

AEL/⎙（AEロック/カスタム）／⎙（回転再生）ボタン

このボタンにはいくつかの機能があります。

●撮影時

AEロック：露出だけを一時的に固定する。（P.87）

マルチ測光（メニューでマルチ測光オン時）（P.89）

カスタムボタン：メニューで設定するような機能を、ボタン操作のみで設定できるようにする。（P.91）

●再生時

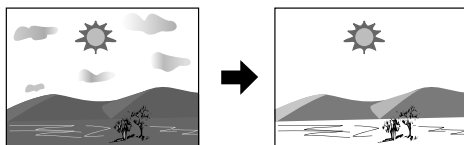
回転再生：画像を回転して再生する。（P.92）

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

AUTO	このボタンは機能しません。
P	AEロック・カスタムボタン設定の機能
A/S/M	AEロック（Mモード時は測光バーを表示） カスタムボタン設定の機能
▶	回転再生

露出を固定して撮影する〜AEロック

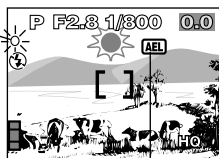
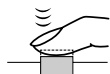
被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。例えば、太陽が構図の中にあって、自動露出では被写体が暗くなってしまうときには、太陽が入っていない構図にして露出を測り **AEL/⎙** ボタンを押して、測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。その後、太陽を入れた構図に戻して撮影します。露出を合わせたい構図とピントを合わせたい構図が、異なるときに使える機能ともいえます。

1 モードダイヤルをPかA/S/Mにします。A/S/Mの場合は、AかSモードに設定します。(P. 111)

●撮影メニューの「マルチ測光」はオフにします。「オン」だとAEロックはできません。(P. 108)

次ページに続く

2 **測光値をロックしたい（露出を固定したい）構図にして、AEL/⎙ ボタンを押します。**

- AEロックをやめるには、再度 **AEL/⎙** ボタンを押して、すぐにはなします。もう一度違った露出を固定したいときは、再度構図を決めて **AEL/⎙** ボタンを押します。押すたびに、ロックと解除が繰り返します。
- AEロックをしていたのに、解除されてしまった。
  → こんなときは（P. 89）

3 **ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。オートフォーカス合焦マークが点灯します。**

AEロック中は AEL と表示されます。シャッターボタンの半押し中は、AEロックを解除できません。

4 **シャッターボタンを全押しします。AEロックは解除され、AEL の表示は消えます。**

■ ロックした測光値を撮影後も記憶させる。（AEメモリ）

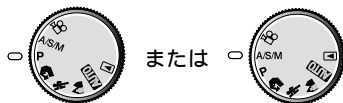
手順2か3のあとで、**AEL/⎙** ボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、**AEL/⎙** ボタンを押してすぐにはなします。

こんなときは

- **AEロックができない。**
  →メニューが表示されています。メニューから抜けてください。(P.95)
- **AEロックをしていたのに、解除されてしまった。**
  →モードダイヤルの位置が変えられています。
  →電源を切って入れ直してます。ただし、スリープ動作・電池節約モードでは、解除はされません。
  →スポット測光／マクロモード・ドライブモード・フラッシュモードが変更されています。
  →メニューが表示されています。

画面の複数の位置の露出を測って撮影する～マルチ測光

明暗の大きい被写体などで適正露出が出にくい場合、被写体の数カ所（最大8回まで）を測光し、その平均値で撮影条件を決めます。

1 モードダイヤルはPかA/S/Mにします。
- A/S/Mの場合は、AかSモードに設定します。

または
＊Mモードでは使用できません。

2 （マクロ/スポット）ボタンを押して、スポット測光モードにします。（ボタン→P．77）

3 メニューで「マルチ測光」を「オン」にします。
- メニューを表示する(P. 100)→モードメニューを表示する(P. 100)→撮影メニューを表示する(P. 102)→マルチ測光の設定(P. 108)

4 カメラを被写体に向け、AEL/ ボタンを押します。画面下にマルチ測光を示すバーが表示されます。（P．90）
- 9回目以降の操作は、無視されます。

次ページに続く

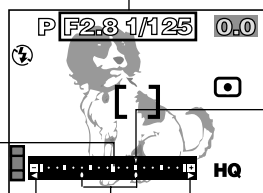
5 撮影します。

■マルチ測光値を撮影後も記憶させる（AEメモリ）
手順3で必要回数 **AEL/⏍** ボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。

■マルチ測光値を取り消す
手順4で **AEL/⏍** ボタンを1秒以上押して、MEMO と表示させます。再度 **AEL/⏍** ボタンを押して、すぐにはなします。マルチ測光値は取り消されます。

例： 2つのポイントを測光した場合（ **AEL/⏍** ボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（ **AEL/⏍** を押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

AEL/⏍ を押したポイントの測光値。◆の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央から離れた位置に◆が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◆が±3以上離れると、◁ ▷が赤く表示されます。

注意

● 途中で以下のボタンを操作すると、マルチ測光値は取り消されます。
モードダイヤル、⚡（フラッシュモード）ボタン、🌷/⊡（マクロ/スポット）ボタン

ボタンの機能を自分で決める〜カスタムボタン

AEL/ ボタンの初期設定はAEロックですが、メニューの「カスタムボタン設定」のなかからも、このボタンの機能を選べます。よく使う機能を、カスタムボタンに設定しておくと、ボタン操作一つでその機能の設定に移ることができます。電源を切っても、カスタムボタンに割り当てた機能は保存されます。メニューでの選択方法→P. 139

カスタムボタン設定で選べる機能

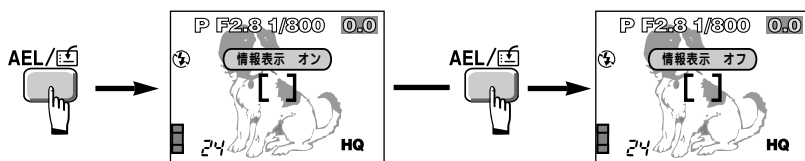
機能	設定内容
AEロック（初期設定）	ー
情報表示(P.133)	オフ・オン
ISO感度(P.110)	オート・100・200・400・800
A/S/Mモード(P.111)	A ・S・M
スローシンクロ(P.83)	先幕・ 赤目先幕・後幕
デジタルズーム(P.113)	オフ・オン

機能	設定内容
フルタイムAF(P.114)	オフ・オン
スチル録音(P.114)	オフ・オン
ファンクション撮影(P.118)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
画質モード(P.121)	TIFF・SHQ・HQ・SQ
ホワイトバランス(P.122)	オート・晴天・曇天・電球・蛍光灯

■ 自分で設定した機能を使う

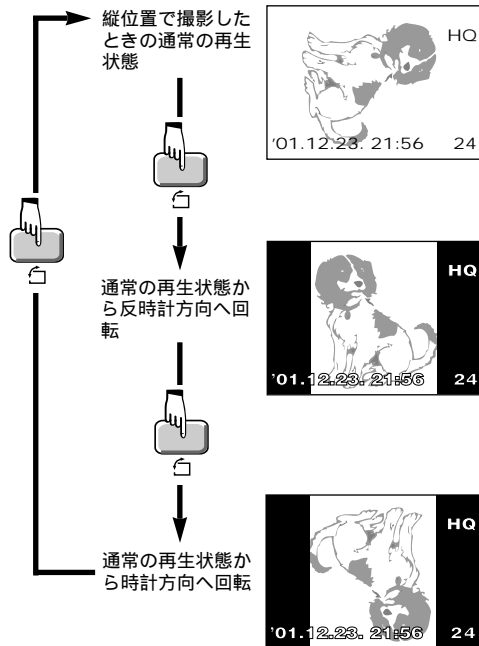
❶設定した機能を使う前に、その機能が使える位置にモードダイヤルがセットされているかを確認します。→「カスタムボタン設定で選べる機能」(上記)に示されている各機能の参照ページ

❷ **AEL/** を押します。設定した機能のモード選択が表示されます。
AEL/ を繰り返し押して、使用するモードを選択します。

カスタムボタンに「情報表示」を設定した場合

注 意

● 電源を切っても、カスタムボタンに割り当てた機能は保存されます。
● カスタムボタンにAEロック以外の機能を割り当てたときは、AEロックの機能は使えなくなります。

画像を回転させて表示する〜回転再生

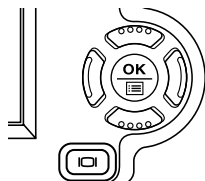
カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向に90度、半時計方向に90度の回転が可能です。テレビで再生するときに便利な機能です。

1 **1コマ再生(P. 62)をして、縦位置で撮影したときの画像を表示します。**

2 **AEL/ ボタンを押すたびに、画像はこのように回転します。**

注意

- 電源を切っても、設定は記憶しています。
- 予約プリントの操作のときは、回転表示しません。
- 画像が回転した状態から拡大再生ができます。ただし、拡大再生中は画像は回転しません。(P. 69)
- 次の画像は回転再生はできません：プロテクトのかかった画像・プロテクトシールを貼ったカードに保存されている画像・他のカメラで撮影した画像

十字ボタン

メニュー項目の選択(P. 105)や、シャッター速度や露出などの数値の設定に使います。また、再生時には画像の選択にも使われます。モードダイヤルがAUTOのときは、メニュー項目の選択以外には使いません。

モードダイヤル位置による機能制限
モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

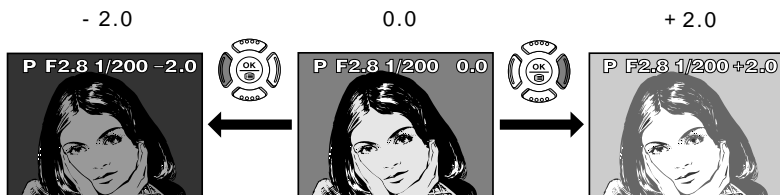
<table>
<tr><th colspan="2">モード</th><th>△</th><th>▽</th><th>◁</th><th>▷</th></tr>
<tr><td colspan="2">P</td><td>マニュアルフォーカスモードのときピント位置を遠距離にする。</td><td>マニュアルフォーカスモードのときピント位置を近距離にする。</td><td>露出補正値を小さくする。
→画面が暗く撮影される</td><td>露出補正値を大きくする。
→画面が明るく撮影される</td></tr>
<tr><td rowspan="3">A/S/M</td><td>A</td><td>● 絞りを絞る（F値を大きくする)。
● マニュアルフォーカスモードのときピント位置を遠距離にする。</td><td>● 絞りを開く（F値を小さくする)。
● マニュアルフォーカスモードのときピント位置を近距離にする。</td><td rowspan="2">露出補正値を小さくする。
→画面が暗く撮影される</td><td rowspan="2">露出補正値を大きくする。
→画面が明るく撮影される</td></tr>
<tr><td>S</td><td rowspan="2">● シャッター速度を速くする。
● マニュアルフォーカスモードのときピント位置を遠距離にする。</td><td rowspan="2">● シャッター速度を遅くする。
● マニュアルフォーカスモードのときピント位置を近距離にする。</td></tr>
<tr><td>M</td><td>絞りを絞る（F値を大きくする)。</td><td>絞りを開く（F値を小さくする)。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="3">機能しません。</td><td rowspan="3">露出補正値を小さくする。
→画面が暗く撮影される</td><td rowspan="3">露出補正値を大きくする。
→画面が明るく撮影される</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

次ページに続く

モードダイヤル位置による機能制限

モード	△	▽	◁	▷
🎥	機能しません。		露出補正値を小さくする。 →画面が暗く撮影される	露出補正値を大きくする。 →画面が明るく撮影される
▶	**1コマ再生時：**10コマ前に戻る。 **インデックス再生時：**左上に表示されている画像の1つ前の画像までのインデックスに戻る。	**1コマ再生時：**10コマ先へ進む。 **インデックス再生時：**右下に表示されている画像の次の画像からのインデックスに進む。	コマ戻し	コマ送り
	プリント予約時：トリミングサイズを設定します。(P. 165)			

露出を微調整する〜露出補正

カメラが自動的に決めた露出も補正したほうが、より良い画像が撮れることもあります。
＋に補正すると、白いものは白く、－に補正すると、黒いものは黒く表現できます。

● 1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。**AUTO** とA/S/MモードのM（マニュアル撮影）以外で使用できます。(P. 93)

(OK／メニュー ）ボタン

このボタンの主な機能は、メニューを表示する(P. 95)、設定を確定する、マニュアルフォーカス(P. 96)です。

モードダイヤル位置による機能制限
モードダイヤルをどの位置に設定しているかによって、使用できる機能が次の表のように異なります。

モード	機能
AUTO 🏠 🏃 ⛰ 🎥 ▶	メニュー表示・設定の確定
P	メニュー表示・設定の確定・マニュアルフォーカス
A/S/M	メニュー表示・設定の確定・マニュアルフォーカス

メニューを表示する

OK を軽く押します。

● 撮影モードのときに1秒以上長押しすると、マニュアルフォーカスのはたらきをします。

表示されるメニューは、モードダイヤルの位置によって変わります。メニューの選択方法も項目により変わります。
メニュー機能編（撮影）→P. 99～140
メニュー機能編（再生）→P. 141～158

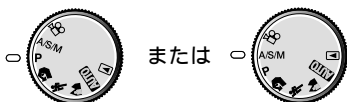
例：モードダイヤルがPのときに表示されるトップメニュー

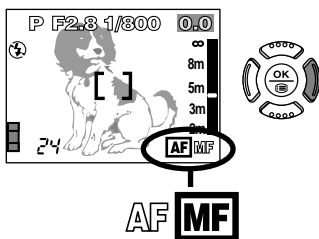
■メニューを閉じる
メニューで設定した後、メニューが消えるまで繰り返し OK を押します。

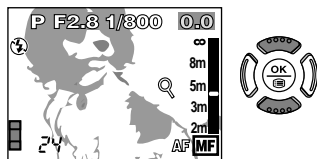
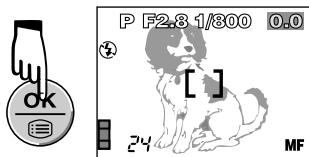
ピントを自分で合わせる～マニュアルフォーカス　MF

オートフォーカスでうまくピントが合わないときは、手動でピント合わせができます。

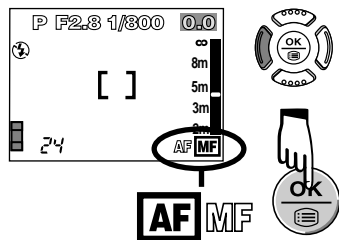
1 モードダイヤルをPまたはA/S/Mにします。

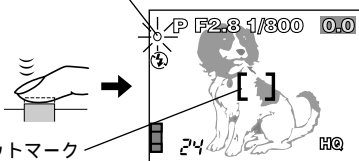
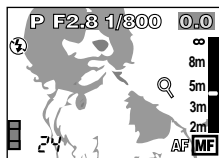
または

2 (OK)を1秒以上押し続けます。

3 液晶モニタにマニュアルフォーカスの撮影距離の選択画面が表示されたら、▷を押してMFを選択します。

4 △▽を押して、撮影距離を選択します。

●操作中は、画像が拡大されます。液晶モニタの距離表示は、あくまで目安です。1m以下にカーソルを移動させると、自動的に10cm～1mの目盛りになります。

5 (OK)を1秒以上押して、設定を確定します。画面に赤でMFと表示されます。

6 撮影します。ピントは設定された距離で固定されます。

7 **MFを解除するときは、再度㊋を1秒以上押して、撮影距離の選択画面を表示させます。**

8 **◁を押してAFを選択し、㊋を押します。**

■フォーカスロックした距離に、MFを固定させることができます。

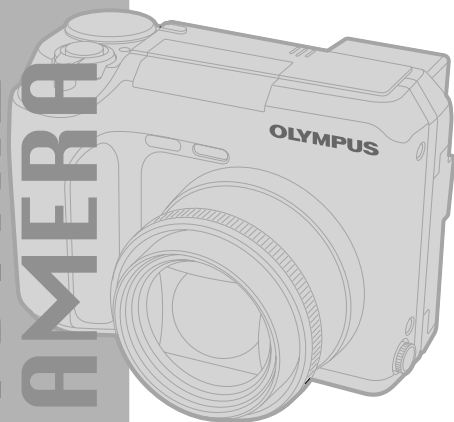
❶ 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。（フォーカスロック）オートフォーカス合焦マークが点灯します。

❷ シャッターボタンを半押ししたまま㊋を1秒以上押すと、撮影距離の選択画面が表示されます。このときMFが選択され、カーソルはフォーカスロックをした距離に設定されています。

こんなときは

● **MFを選択して距離表示でもっとも上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限位置）に合わない。**
→ビューファインダを見て、△▽を少しずつ動かして調整してください。

● **設定したのに、その距離が変わった。**
→設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、設定が必要です。

注意

● フラッシュ使用時はP.44の「フラッシュが届く範囲」を参考にして撮影を行ってください。

● 設定クリア(P. 131)をオフにすれば、電源を切っても設定は保存されます。

4

メニュー機能編(撮影)

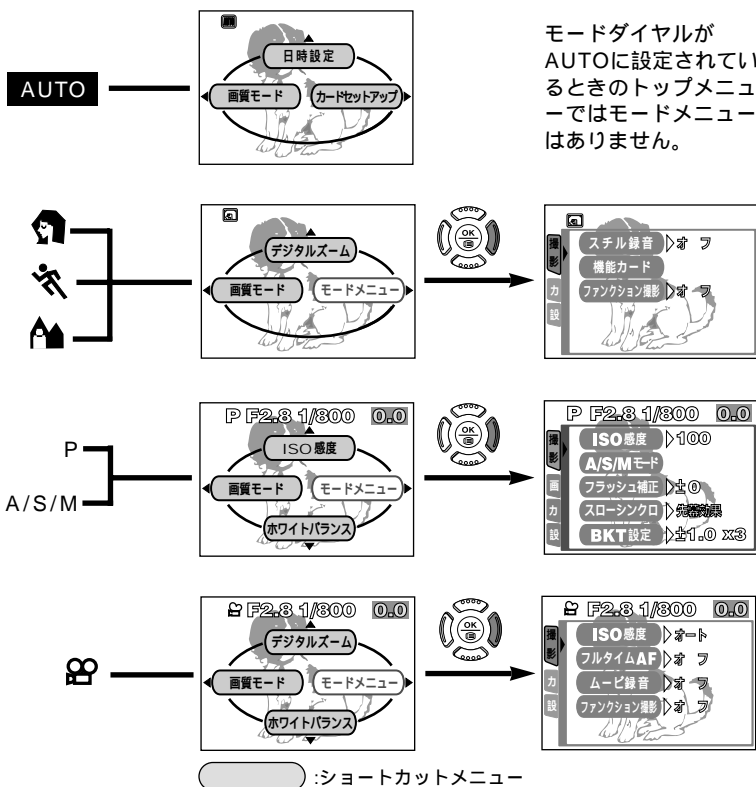
P A/S/M AUTO

ここでは、撮影時（モードダイヤルが▶以外のとき）のメニューで設定する機能について説明します。それぞれのメニュー項目の位置を示すチャートや、メニュー項目を選択したときに液晶モニタやビューファインダに表示されるメニュー画面を使いながら、それぞれ機能別に説明していきます。

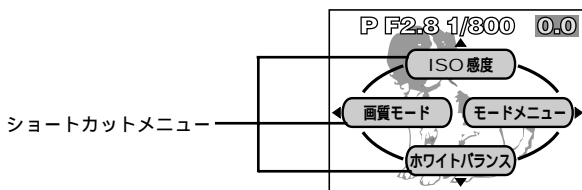
再生時のメニュー項目については、P.141～P.158をご覧ください。

メニューのしくみ

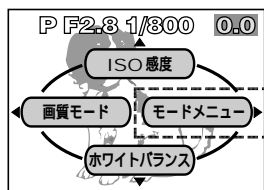
トップメニューについて

このカメラでは、㊌（メニュー/OKボタン）を押したときに最初に表示される画面を**トップメニュー**と呼びます。トップメニューはモードダイヤルの位置によって異なり、選択できるメニュー項目も変わります。メニュー項目を選択するには、それぞれの項目のそばに表示されている（△▽◁▷）に従って十字ボタンを押します。下記のメニュー画面は、それぞれのモードダイヤル位置によって表示される**トップメニュー**と、トップメニューで十字ボタンの▷（右ボタン）を押して表示される**モードメニュー**です。

:ショートカットメニュー

ショートカットメニューについて

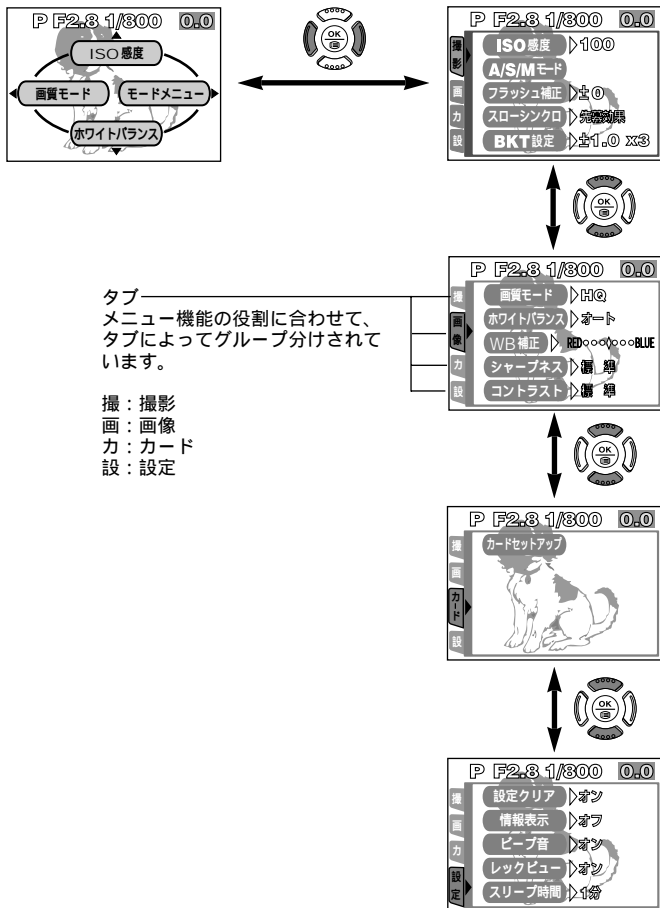
使用頻度が高いメニュー項目が、設定しやすいようにトップメニューに表示されています。これらをショートカットメニューと呼びます。選択すると、表示されている項目の設定にすぐに入ることができます。項目の内容は、モードダイヤルの位置によって異なります。また、モードダイヤルがP、またはA/S/Mに設定されているときのみ、ショートカットメニューの項目をお好みの（使用頻度が高い）メニュー項目に変更することができます。詳しくはショートカット設定（P.137)をご覧ください。

モードメニューについて

トップメニューに表示される「モードメニュー」の中には使用できる全てのメニュー項目があり、「撮影」、「画像」、「カード」、「設定」の4つのタブによって分けられています。

■ Pトップメニュー(A/S/Mトップメニューも項目は同じ）

撮影	P.107ーP.118
画像＊	P.119ーP.125
カード	P.126、P.127
設定	P.128ーP.140

＊ 、 、 、 モードにはこのグループ（タブ）はありません。

メニューのしくみ（つづき）

トップメニューで十字ボタンの▷を押すとモードメニューに入り、左側にタブがついた画面が表示されます。この段階では「撮影」が選択されていますが、下記のように△▽ボタンを押して別のタブに移動することができます。

それぞれのタブで選択できる項目は次ページの表をご参照ください。

各モードダイヤル位置で設定できるメニュー項目

タブ (チャート＊1のページ)	メニュー項目	参照ページ	(シーン/スポーツ/ポートレート)	P	A/S/M	動画
撮影 (P.107－109)	ISO感度	P.110		○	○	○
	A/S/Mモード	P.111			○	
	フラッシュ補正	P.111		○	○	
	スローシンクロ	P.112		○	○	
	BKT設定	P.112		○	○＊2	
	マルチ測光＊3	P.112		○	○	
	デジタルズーム	P.113	○	○	○	
	フルタイムAF	P.114		○	○	○
	スチル(ムービー）録音	P.114、115	○	○	○	○
	パノラマ撮影	P.116	○	○		
	ファンクション撮影	P.118	○	○	○	○
画像 (P.119、120)	画質モード	P.121		○	○	
	ホワイトバランス	P.122		○	○	
	WB補正	P.124		○	○	
	シャープネス	P.125		○	○	
	コントラスト	P.125		○	○	
カード (P.126)	カードセットアップ	P.127	○	○	○	○
設定 (P.128－130)	設定クリア	P.131	○	○	○	○
	情報表示	P.133		○	○	
	ビープ音	P.133	○	○	○	○
	レックビュー	P.133		○	○	

次ページに続く

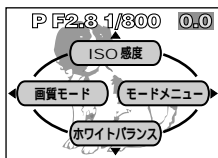
メニューのしくみ（つづき）

タブ (チャート*1のページ)	メニュー項目	参照 ページ		P	A/S/M	動画
設定 (P.128ー130)	スリープ時間	P.134		○	○	
	ファイル名メモリ	P.134		○	○	
	モニタ調整	P.136	○	○	○	○
	日時設定	P.136	○	○	○	○
	m/ft設定	P.136		○	○	
	電池節約モード	P.136	○	○	○	○
	ショートカット設定	P.137		○	○	
	カスタムボタン設定	P.139		○	○	

*1. チャートとは設定したい機能の選択方法をより分かりやすくするために、選択できる項目やその時のボタンの操作方法などを図で表したものです。詳しくは「チャートについて」(P.106)をご覧ください。
*2. Mモードでは不可
*3. 「マルチ測光」をお使いになるときは、測光モードを「スポット測光」(P.77)にする必要があります。

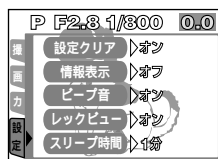
メニュー機能の初期設定については、P.157をご覧ください。

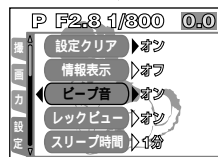
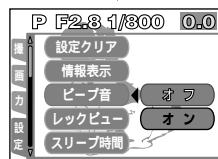
■手順にしたがって実際にモードメニューの中の項目を選択します。
（例：モードダイヤルがPのとき、「ビープ音」を「オフ」に設定する場合）

1 モードダイヤルをPに合わせ、OK を押してトップメニューを表示させます。

2 ▷を押して「モードメニュー」へ入ります。

左側にタブがついた画面が表示されます。

3 ▽を繰り返し押して「設定」のタブへ移動します。

タブの文字の色が変わり、▶マークの位置が選択されたところへ移ります。

4 ▷を押して「設定」の項目へ入ります。

5 ▽を繰り返し押して「ビープ音」を選択します。

6 ▷を押して「オン」／「オフ」を表示させます。

初期設定では「オン」に設定されています。

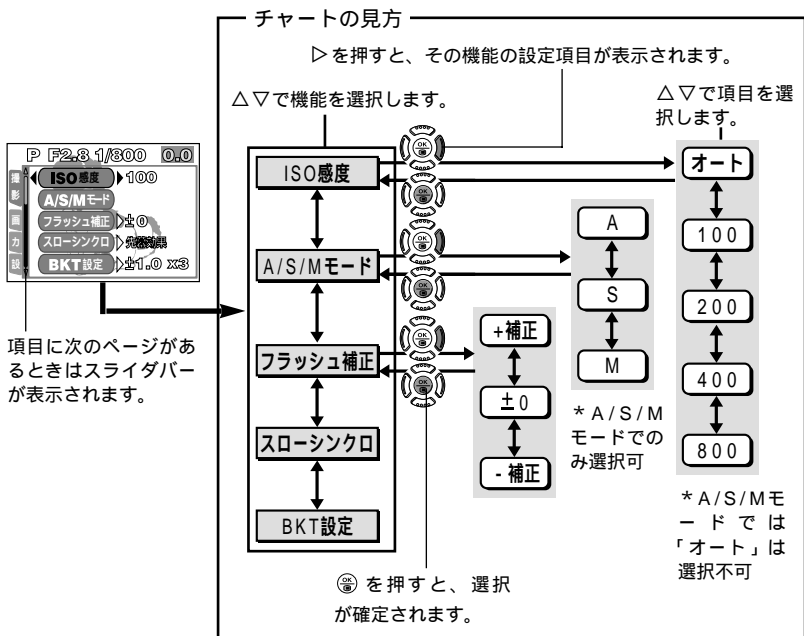
7 △を押して「オフ」を選択します。

8 OK を押すと設定が完了します。撮影に戻るには、再度 OK を押します。

4

メニュー機能編（撮影）

チャートについて

- チャートは、使いたい機能の選択方法をより分かりやすくするために、選択できる項目や、その時のボタンの操作方法などを表しています。
- チャート内で上下に移動する項目は全て十字ボタンの△▽を使います。
- メニューの選択枠が最下段にあるとき、▽を押すと最上段に、最上段にあるとき、△を押すと最下段に枠が移動します。また、最終ページの場合は、▽を押すと１ページ目に、１ページ目の場合は、△を押すと最終ページへ移動します。
- 設定した項目を確定するには OK を押します。
- その他はボタンのイラストの指示に従います。黒く塗られているボタンが選択を示しています。
- 静止画モードでは、モードダイヤル位置によって設定できるメニュー機能が制限されます。詳しくは、それぞれの機能を説明しているページの「モードダイヤル位置による機能制限」をご覧ください。

以下のチャートは、モードメニューの中から「撮影」を選択した際に使える全機能を表しています。モードダイヤルの設定により使用できない機能があります。(P.103、104)

＊ OK を押すと設定が終了してメニューが消えます。

ISO感度 → オート ↔ 100 ↔ 200 ↔ 400 ↔ 800

A/S/Mモード → A ↔ S ↔ M

フラッシュ補正 → ＋補正 ↔ ±0 ↔ ー補正

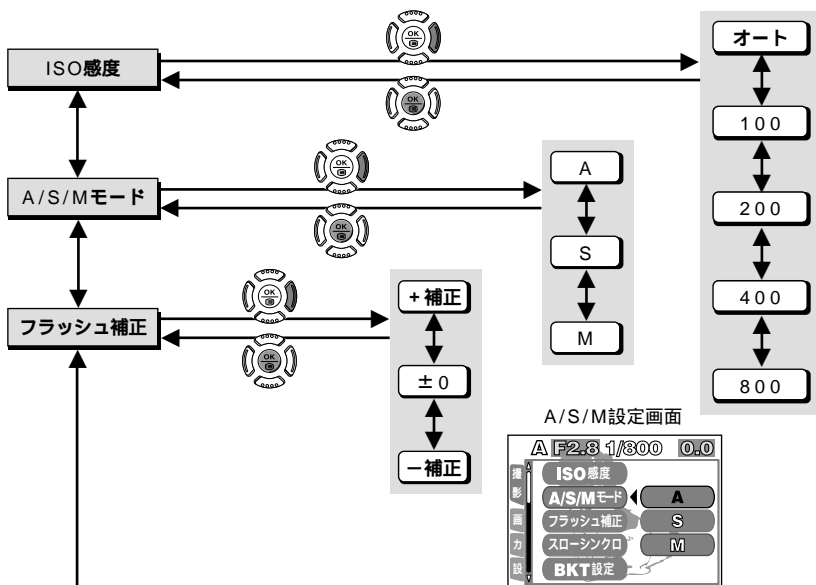
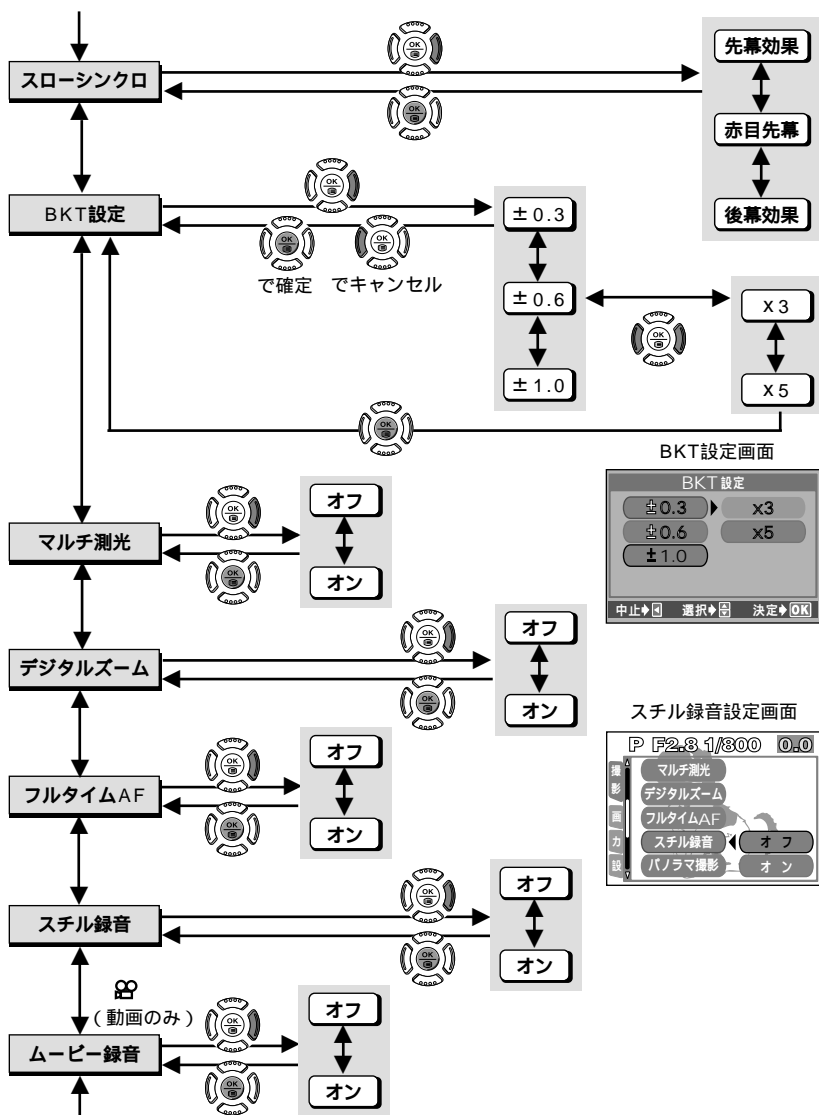
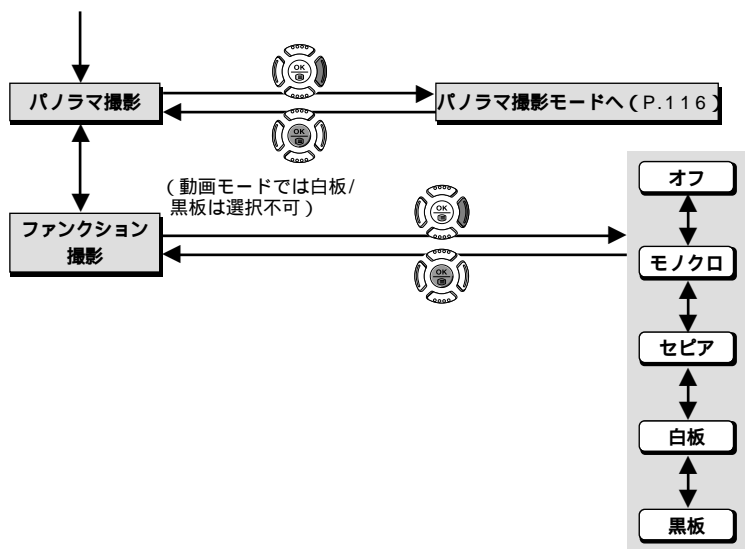
A/S/M設定画面

A F2.8 1/800 0.0
ISO感度
A/S/Mモード ◀ A / S / M
フラッシュ補正
スローシンクロ
BKT設定

☞ 次ページに続く

スローシンクロ
先幕効果
赤目先幕
後幕効果
BKT設定
で確定
でキャンセル
±0.3
±0.6
±1.0
X3
X5
BKT設定画面
BKT 設定
±0.3
±0.6
±1.0
x3
x5
中止
選択
決定
OK
マルチ測光
オフ
オン
デジタルズーム
オフ
オン
フルタイムAF
オフ
オン
スチル録音設定画面
P F2.8 1/800 0.0
撮影
画
カ
設
マルチ測光
デジタルズーム
フルタイムAF
スチル録音
パノラマ撮影
オ フ
オ ン
スチル録音
オフ
オン
（動画のみ）
ムービー録音
オフ
オン

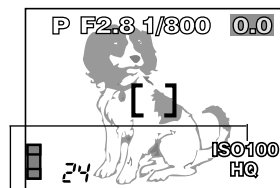
次ページに続く

パノラマ撮影
パノラマ撮影モードへ（P.116）
（動画モードでは白板/黒板は選択不可）
ファンクション撮影
オフ
モノクロ
セピア
白板
黒板

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。
ISO感度は、「オート」、「100」、「200」、「400」、「800」の中から選択できます。

オート　：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
100/200/400/800　：通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて、同じ光量でもより速いシャッタースピードが使えます。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 ／ モード	ISO感度
AUTO	オートのみ
(ポートレート)	オートのみ
(スポーツ)	オートのみ
(風景+人物)	オートのみ
P	オート/100/200/400/800
A/S/M	100/200/400/800
(動画)	オート/100/200/400/800

ISO感度
「オート」に設定されているときは表示されません。

注意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。

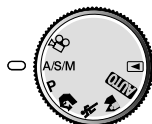
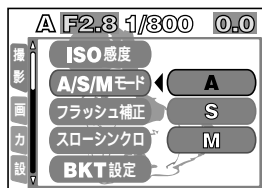
A/S/Mモード

A（絞り優先オート）、S(シャッター優先オート)、またはM（マニュアルモード）の3モードを切り替えることができます。A/S/Mモードそれぞれについての詳しい説明は「ボタン機能編」（P.58〜P.61）をご覧ください。

1 モードダイヤルをA/S/Mに設定します。

2 OK を押してトップメニューを表示させます。

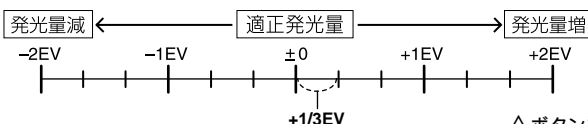
3 ▷を押してモードメニューに入り、「撮影」メニューから「A/S/Mモード」を選択します。

4 「A」/「S」/「M」からいずれかを選び、OK を押して設定を保存します。

A/S/M設定画面

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、明暗差（コントラスト）を意図的につけたいといった場合にも、この機能が便利です。

フラッシュ補正の範囲

△ボタンで＋1/3EVずつ増
▽ボタンでー1/3EVずつ減
（EV：補正値の単位）

注 意

● シャッタースピードが速い場合は、フラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

次ページに続く

モードダイヤル位置による機能制限

モード ＼ 機能	A/S/Mモード	フラッシュ補正
AUTO	－	－
(ポートレート)	－	－
(スポーツ)	－	－
(風景＋人物)	－	－
P	－	○
A/S/M	○	○
(ムービー)	－	－

スローシンクロ

通常のフラッシュ撮影と違って、遅いシャッター速度でフラッシュを発光させることができます。「先幕効果」、「赤目先幕」、「後幕効果」の中から選択できます。それぞれの説明は「ボタン機能編」（P.83）をご覧ください。

BKT設定

オートブラケット撮影時に選択する必要がある項目を設定します。オートブラケット撮影とは、適正な露出を中心にプラス（明るい）方向とマイナス（暗い）方向に、設定された露出の幅と撮影枚数に基づき連写撮影することです。設定できる項目の説明と使い方については「ボタン機能編」（P.75）をご覧ください。

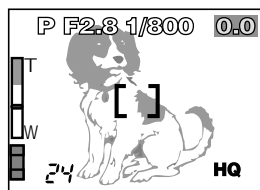
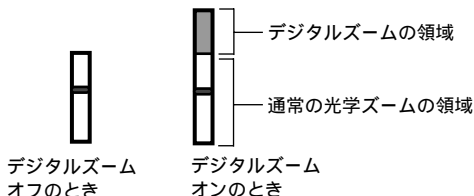
マルチ測光

被写体のコントラストが強い時など、正確な露出を得ることができないときに便利です。最も明るい部分と最も暗い部分など、最大8箇所まで測光し、その平均値により適正露出を決定します。
マルチ測光の使い方については「ボタン機能編」（P.89）をご覧ください。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	スローシンクロ	BKT設定	マルチ測光
AUTO	−	−	−
(ポートレート)	−	−	−
(スポーツ)	−	−	−
(風景)	−	−	−
P	○	○	○
A/S/M	○	○(Mを除く)	○(Mを除く)
(動画)	−	−	−

デジタルズーム

光学ズームの最大倍率から、さらにデジタルズームをつかって2.7倍まで拡大できます。光学10倍ズームと組み合わせると、27倍ズーム相当（35mmカメラ換算で38mm〜1000mm）の撮影が可能です。
メニューでデジタルズームをオンにして、ズームレバーをT側に回すと、拡大表示することができます。

注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フルタイムAF

シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。この機能により、シャッターを押したときのピント合わせの時間を短縮することができます。「オフ」設定時はシャッターを半押しするまでピントは合いません。

注意

- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。
- 電池節約モードの設定がオンのときは、フルタイムAFは使えません。

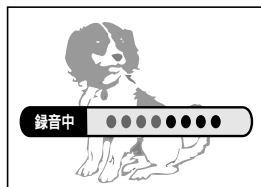
モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	デジタルズーム	フルタイムAF
AUTO	ー	ー
（ポートレート）	○	ー
（スポーツ）	○	常にON
（風景＋人物）	○	ー
P	○	○
A/S/M	○	○
（ムービー）	○	○

スチル録音

静止画撮影時に、音声を録音することができます。シャッターが切れてから約0.5秒後に音声を記録し始め、約４秒間録音されます。
この設定を「オン」にしておくと、毎回撮影後に録音を自動的に行います。

■録音のしかた

メニューで録音モードをオンにして、（OK）ボタンを押し設定を保存します（P.108）。シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音したい対象へ向けます。録音中を示す画面が表示されます。

●アフレコについて

静止画再生時に、後から音声を追加（アフレコ）できます（P.151）。また、撮影時に録音された音声を録音し直したりすることもできます。

注意

- 対象がカメラから１m以上離れると、きれいに録音されません。
- 録音中は、次の撮影はできません。
- 画質がTIFFに設定されているときは録音できません。（再生時のアフレコはできます。）
- ドライブモードが連写、AF連写、またはBKT（オートブラケット）に設定されているときは録音できません。
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

ムービー録音

動画の撮影と同時に音声を録音することができます。P.108のチャートに従って「ムービー録音」を選び、「オン」または「オフ」を選択します。
ムービー録音が「オン」に設定されている時は、撮影中の光学ズームはできません。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	スチル録音	ムービー録音
AUTO	―	―
(ポートレート)	○	―
(スポーツ)	○	―
(風景＋人物)	○	―
P	○	―
A/S/M	○	―
(ムービー)	―	○

注意

- カメラ本体で音声を再生することはできません。音声を再生するには付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続してください（P63）。
- パソコンで動画や音声を再生する場合は、音声を再生する機能を持つパソコンであることと、Quick Time 4.0以上が必要です。
- フルタイムAFの設定がオンのときは撮影中のレンズの動作音が録音されることがあります。

パノラマ撮影

オリンパス標準スマートメディアを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、一枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

■パノラマ撮影のしかた

1 メニューで「パノラマ撮影」を選択して、▷を押します。

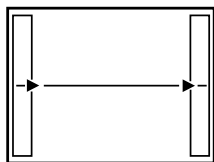
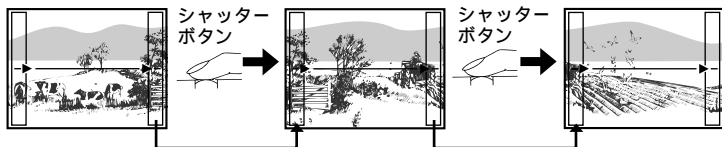
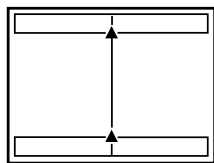
●パノラマ撮影モードになります。

2 十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向から指定します。

●つなげる方向が表示されます。

3 被写体の端が重なるようにして、撮影します。

●ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。一枚目の撮影には、太陽を入れた被写体などを選ばないでください。
●１枚目を撮影した後は、ズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。
●最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

右方向につなぐ撮影をする場合

上方向につなぐ撮影をする場合

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください。

4 パノラマ撮影を終わるときは、Ⓞボタンを押します。

●画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	パノラマ撮影
AUTO	—
(ポートレート)	○
(スポーツ)	○
(風景)	○
P	○
A/S/M	—
(ムービー)	—

注意

- オリンパス製の標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、別売のCAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG(圧縮)で記録されます。
- パノラマ撮影中にズーム操作を行うと合成できなくなります。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマモードは解除され通常の撮影モードに戻ります。

ファンクション撮影

特殊効果をつけて撮影することができます。次の４種類から選択することができます。

モノクロ：白黒に撮影できます。
セピア：セピア色に撮影できます。
白板：白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板：白黒写真になり黒板に書いた白字が白黒反転して強調され、読みやすくなります。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 ＼ モード	ファンクション撮影
AUTO	–
(ポートレート)	○
(スポーツ)	○
(風景)	○
P	○
A/S/M	○
(動画)	○（モノクロ・セピアのみ）

注意

●「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは(発光禁止)（発光禁止モード）になります。（P.82）
●「白板」「黒板」を選択して文字がきれいに撮影されない場合は、露出補正をしてください。（P.93、94）
●ホワイトバランスとＷＢ補正の設定はできません。

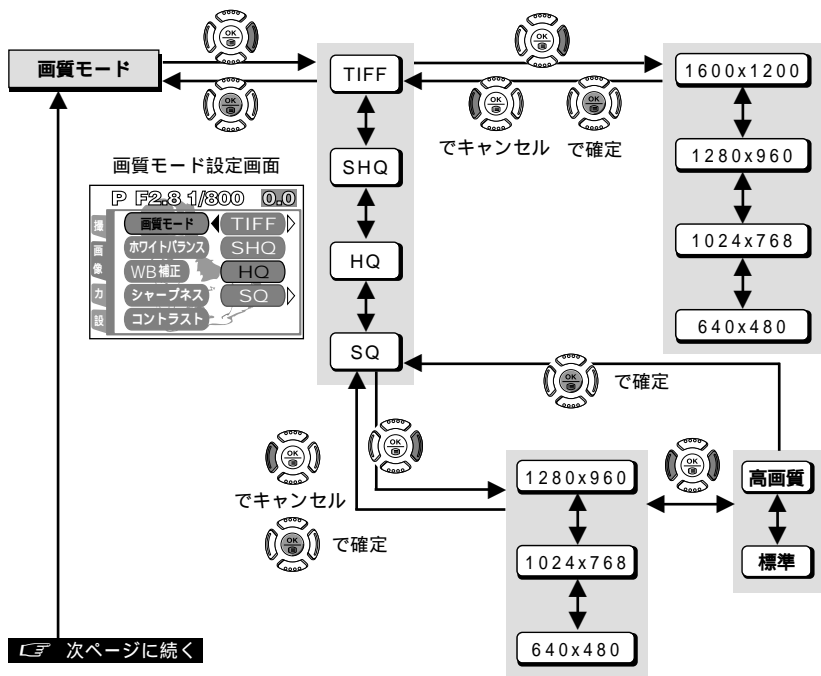
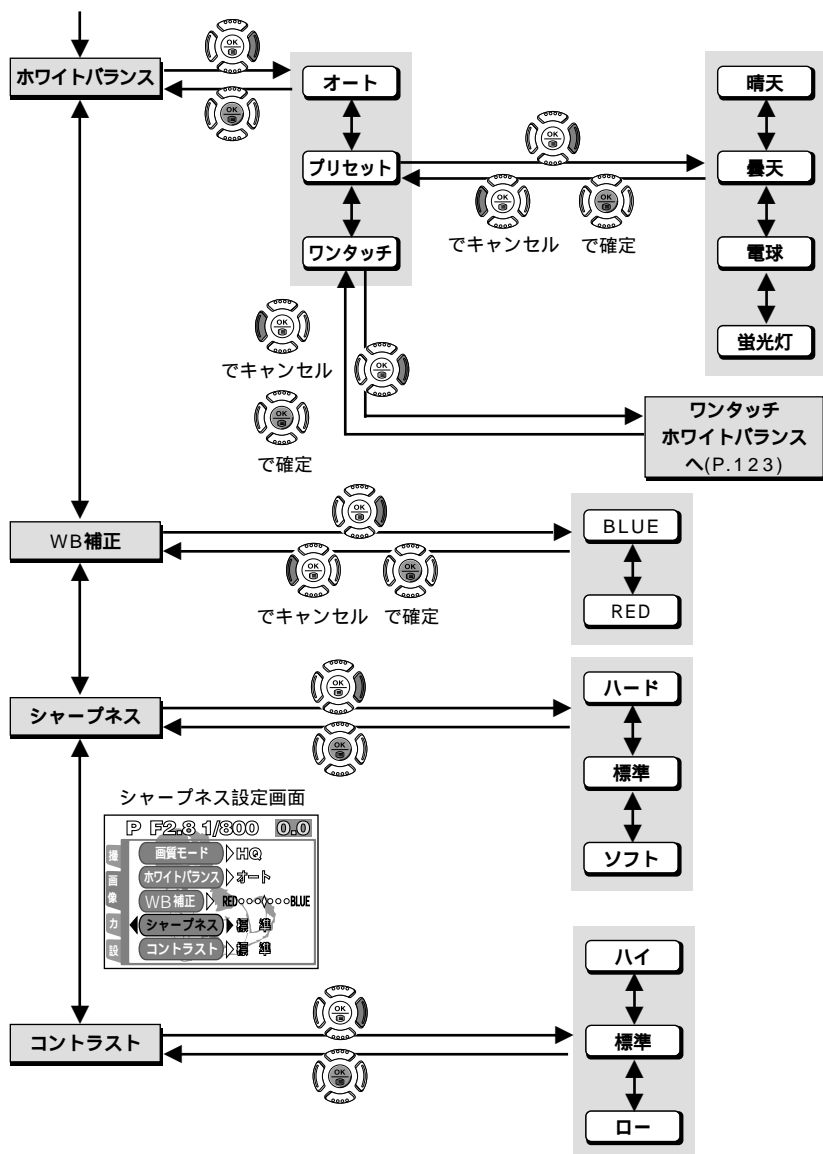
画像

以下のチャートは、モードメニューの中から「画像」を選択した際に使える全機能を表しています。モードダイヤルの設定により使用できない機能があります。(P.103、104)

＊ を押すと設定が終了してメニューが消えます。

次ページに続く

画像（つづき）

ホワイトバランス
オート
プリセット
ワンタッチ
晴天
曇天
電球
蛍光灯
でキャンセル
で確定
でキャンセル
で確定
ワンタッチ
ホワイトバランス
へ(P.123)
WB補正
BLUE
RED
でキャンセル
で確定
シャープネス
ハード
標準
ソフト
シャープネス設定画面
P F2.8 1/800 0.0
撮
画
像
カ
設
画質モード HQ
ホワイトバランス オート
WB補正 RED○○○○○○○BLUE
シャープネス 標 準
コントラスト 標 準
コントラスト
ハイ
標準
ロー

画質モード

撮影した画像を記録する際の、記録サイズや圧縮率の組み合わせを選択します。
圧縮率は、低圧縮よりも標準の方がファイルの大きさは小さく、１枚のカードに多くの画像を記録できますが、拡大して再生するとノイズが発生します。逆にプリントをする際などには、圧縮率が低く、更には記録サイズが大きい方が、カードに記録できる画像数は少なくなりますが、きれいにプリントされます。
画質は、「SQ」→「HQ」→「SHQ」→「TIFF」の順に高画質となります。
記録サイズ、圧縮方式、ファイル形式の組合わせによるカードへの記録可能な枚数は、以下の表をご参照ください。撮影枚数は目安です。

■静止画画質モード（カード容量8MB/32MBの場合）

画質モード		記録サイズ	圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数(枚)（音声なし／音声付き）	
					8MB	32MB
TIFF		1600×1200	非圧縮	TIFF	1/–	5/–
		1280×960			2/–	8/–
		1024×768			3/–	13/–
		640×480			8/–	33/–
SHQ		1600×1200	低圧縮	JPEG	7/6	28/27
HQ		1600×1200	標準		16/15	64/60
SQ	高画質	1280×960	＊		11/11	47/45
	標準				24/22	99/90
	高画質	1024×768			13/12	53/51
	標準				38/33	153/132
	高画質	640×480			33/29	132/117
	標準				82/62	331/248

＊高画質→低圧縮／標準→標準

「TIFF」と「SQ」の記録サイズについて
静止画画質モードの「TIFF」と「SQ」では、記録サイズを選択できます。「SQ」ではそれぞれの記録サイズから、さらに「高画質」または「標準」を選択できます。「標準」を選択すると、カードにより多くの写真を保存できます。「高画質」を選択すると、JPEG圧縮特有のノイズを抑えることができます。記録サイズが大きくなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。

■動画画質モード

画質モード	記録サイズ	一度に連続して撮影できる時間（秒）（音声なし／音声付き）
		8MB以上
HQ	320×240（15コマ／秒）	16/15
SQ	160×120（15コマ／秒）	70/62

記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさについて
撮影した画像をパソコンで見ることができます。（Ｐ.１７０ー１７７）その際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、６４０Ｘ４８０の記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が６４０Ｘ４８０のときモニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024X768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。

モードダイヤル位置による機能制限

モード＼機能	画質モード
AUTO	SHQ/HQ/SQ＊
(ポートレート)	SHQ/HQ/SQ＊
(スポーツ)	SHQ/HQ/SQ＊
(風景)	SHQ/HQ/SQ＊
P	TIFF/SHQ/HQ/SQ
A/S/M	TIFF/SHQ/HQ/SQ
(動画)	HQ/SQ

＊SQは640x480標準モードのみです。

注 意

- 表中のカードの記録可能枚数はおおよその目安です。
- 記録可能枚数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約や音声記録の有無によっても変わります。
- テレビに接続した状態で動画を撮影すると、撮影可能時間が短くなることがあります。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の光りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。
ホワイトバランスは「オート」、「プリセット」、「ワンタッチ」の３種類から選ぶことができます。ご購入時は、「オート」に設定されています。

■オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

■プリセットホワイトバランス

実際にどのような光源で撮影するかに応じて、「晴天」、「曇天」、「電球」、「蛍光灯」の中から選択することができます。また、実際の光源とは違うプリセットホワイトバランスを選択することにより、様々な色調を楽しむこともできます。

プリセットホワイトバランス画面

■ワンタッチホワイトバランス

この機能を使うと、プリセットホワイトバランス（Ｐ．１２２）では調整しきれない微妙な色合いを設定することができます。カメラを白いもの（白い紙など）に向けて、実際の撮影状況に適切なホワイトバランスをカメラに記憶させます。

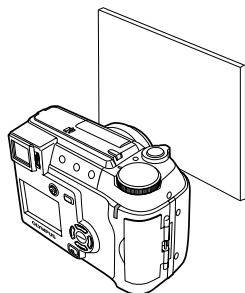
1 メニューから「ワンタッチ」を選択して、（P.120）▷を押します。「ワンタッチホワイトバランス」画面が表示されます。

ワンタッチホワイトバランス画面

2 カメラを白い紙に向けます。紙は画面一杯になるように置き、影の部分ができないようにしてください。

3 OK を押します。新しいホワイトバランスが設定されます。

- ワンタッチホワイトバランスを中止するときは◁を押します。

4 メニュー画面が消えるまで、繰り返し OK を押します。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	ホワイトバランス
AUTO	オート
（ポートレート）	オート
（スポーツ）	オート
（風景）	オート
P	オート／プリセット／ワンタッチ
A/S/M	オート／プリセット／ワンタッチ
（動画）	オート／プリセット／ワンタッチ

注意

- 通常はオートに設定してお使いください。
- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色の確認を行なってください。

WB補正

ホワイトバランス（色温度）を微調整することができます。

WB補正を選択すると、画面上にWB補正バーが表示されます。現在のホワイトバランスの値に対し、△を押す度に青みがかかり、▽を押すたびに赤みがかかった画像になります。調整値を決定するには㊍を押します。

WB補正画面

WB補正バー

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	WB補正
AUTO	–
(ポートレート)	–
(スポーツ)	–
(風景)	–
P	○
A/S/M	○
(動画)	–

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。次の3種類から選ぶことができます。(P.120)

「標準」：画像の輪郭がシャープになります。通常はプリントなどの鑑賞用に適しています。
「ソフト」：画像の輪郭がソフトになります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。
「ハード」：輪郭がより強調され画像が鮮やかに見えますが、ノイズが目立つ場合もあります。

コントラスト

画像のコントラスト（階調）を調節します。次の3種類から選ぶことができます。(P.120)

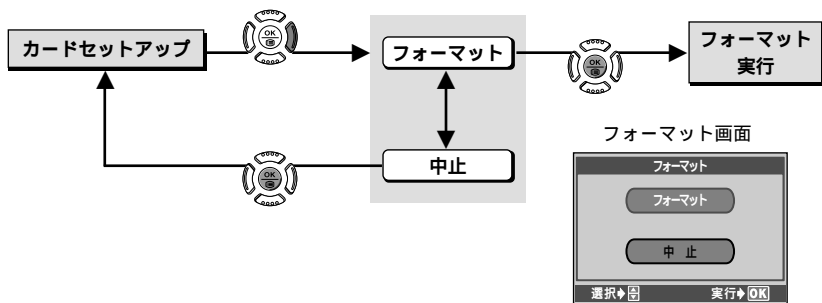
「ハイ」：明暗の差がはっきりとつけられ、メリハリのある画質になります。
「ロー」：明暗の差があまりなく比較的柔らかい感じの画質になります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。
「標準」：ハイとローの中間の階調になります。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	シャープネス	コントラスト
AUTO	—	—
(ポートレート)	—	—
(スポーツ)	—	—
(風景)	—	—
P	○	○
A/S/M	○	○
(動画)	—	—

カード

以下のチャートは、モードメニューの中から「カード」を選択した際に使える機能を表しています。カードを初期化（フォーマット）する際には、この機能を使います。

＊ を押すと設定が終了してメニューが消えます。

カードセットアップ

カードを初期化します。初期化とは、カードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。オリンパス製初期化済みカードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードをお使いになる場合は、お使いになる前にあらかじめカメラで初期化してください。初期化は全ての撮影モード、再生モードで行うことができます。

前ページのチャートに従って、カードを初期化します。メニューで「カードセットアップ」から「フォーマット」を選択します。Ⓞを押すと初期化されます。初期化したくないときは、▽を押し「中止」を選択してⓄを押します。

フォーマット画面

注 意

- 初期化すると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化するときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- オリンパス製以外のカード、及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、カメラで再度初期化することをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼られている場合は、初期化できません。

設定

以下のチャートは、モードメニューの中から「設定」を選択した際に使える全機能を表しています。モードダイヤルの設定により使用できない機能があります。(P.103、104)

「設定」以外のタブを選択する場合は、△▽を押します。

▷を押して、機能を選択します。

△▽を使って、項目を選択します。

◁を押すと、前の画面に戻ります。

＊ OK を押すと設定が終了してメニューが消えます。

(動画モードではカスタムは選択不可)

- 設定クリア ⇄ オフ／オン／カスタム
  - カスタム → カスタム設定項目 →P131、132
- 情報表示 ⇄ オフ／オン
- ビープ音 ⇄ オフ／オン
- レックビュー ⇄ オフ／オン
- スリープ時間 ⇄ 30秒／1分／3分／5分／10分

スリープ時間設定画面

P F2.8 1/800 0.0
撮
画
カ
設
定
設定クリア　30秒
情報表示　1分
ビープ音　3分
レックビュー　5分
スリープ時間　10分

☞ 次ページに続く

ファイル名メモリ
リセット
オート
モニタ調整
明(+)
±0
暗(-)
で確定
日時設定
YMD
MDY
DMY
2031
1981
12
1
で確定
31
1
23
0
59
0

次ページに続く

設定（つづき）

m/ft設定
m
ft
m/ft設定画面
P F2.8 1/800 0.0
撮
画
カ
設
定
ファイル名メモリー
モニタ調整
日時設定
m/ft設定
電池節約モード
m
ft
電池節約モード
オフ
オン
ショートカット設定
ショートカット設定へ（P.137）
で確定
カスタムボタン設定
カスタムボタン設定へ（P.139）
で確定

設定クリア

カメラの設定を保持するかどうかの設定をします。「オフ」、「オン」、「カスタム」の3種類から選択します。(P.128)

「オフ」 ：カメラの設定が、次に電源を入れたときでも、電源を切る前の状態で使用できます。

「オン」 ：電源を切ると設定が解除されて初期設定に戻ります。(ご購入時は「オン」に設定されています。)それぞれの機能初期設定については以下の表を参照してください。

「カスタム」：電源を入れたときの、ズーム位置や絞り値などの各項目をお好みの状態に設定できます。設定できる項目とその初期設定については、以下の表をご参照ください。

設定項目	初期設定
絞り値(P.58)	F2.8
シャッタ速度(P.60)	1/1000
露出補正(P.93、94)	±0
LCD*1	オフ
ズーム位置*2	38mm
フラッシュ(P.79)	オート
スポット／マクロ(P.77)	オフ
ドライブ(P.71)	単写
MF(P.96)	AF
ISO感度(P.110)	オート
A/S/Mモード(P.111)	A
フラッシュ補正(P.111)	±0
スローシンクロ(P.112)	先幕効果

設定項目	初期設定
BKT設定(P.112)*3	±1.0/x3
マルチ測光(P.112)	オフ
デジタルズーム(P.113)	オフ
フルタイムAF(P.114)	オフ
スチル録音(P.114)	オフ
ムービー録音(P.115)	オフ
ファンクション撮影(P.118)	オフ
スチル画質(P.121)	HQ
ムービー画質(P.121)	HQ
ホワイトバランス(P.122)	オート
WB補正(P.124)	±0
シャープネス(P.125)	標準
コントラスト(P.125)	標準

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 電源を入れたときのズーム位置を38mm/50mm/105mm/200mm/380mmの中から選択できます。(表示されるズーム位置は35mmカメラの換算値です)
*3 露出の幅と撮影枚数の両方を設定できます。

重要

電源を入れたときのモードでの設定クリアの設定が有効になります。設定クリアがオンに設定されているモードで電源を入れると、他のモードでオフになっていても設定はクリアされます。また、AUTOモードで電源を入れると、常に設定クリアはオンで働きます。

次ページに続く

■カスタム設定のしかた

1 **メニューで「カスタム」を選択して▷を押します。「カスタム設定」画面が表示されます。**

2 **△▽を押して設定したい機能を選択し▷を押します。**

3 **△▽を押して設定したい項目を選択し、OK を押して設定を保存します。**

4 **他の項目を変更するには、手順２、３を繰り返します。**

モードダイヤル位置による機能制限

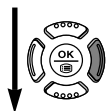
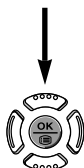
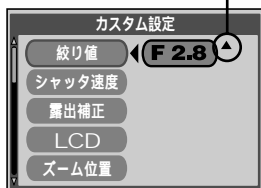
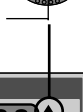
機能 / モード	設定クリア
AUTO	常にオン
	オン／オフ
	オン／オフ
	オン／オフ
P	オン／オフ／カスタム
A/S/M	オン／オフ／カスタム
	オン／オフ

重要
設定クリアは以下のモードの組み合わせで、同時に変更できます。

- ・・・
- P・A/S/M
- ▶

例：
Pモードで設定クリアをオフにすればA/S/Mモードでもオフになりますが、▶モードでは変わりません。このとき▶モードで設定クリアがオンの場合、▶モードで電源を入れると設定した機能は初期設定に戻ります。

カスタム設定画面
（例：絞り値の設定）

カスタム設定
絞り値 F 2.8
シャッタ速度
露出補正
LCD
ズーム位置

情報表示

ビューファインダ／液晶モニタに表示される撮影情報を「オン」／「オフ」で切り替えることができます。「オン」では、全ての撮影情報を表示することができ、「オフ」では必要最低限の撮影情報を表示します。詳細につきましてはP.21ーP.25をご覧ください。また、再生時の「情報表示」を切り替えるときは、P.149をご覧ください。

ビープ音

警告音などのビープ音の「オン」／「オフ」を設定します。初期設定では「オン」に設定されていますが、ボタン操作のときの操作音を出したくないときは「オフ」にしてください。(P.128)

レックビュー

カードに記録中の画像を、ビューファインダ／液晶モニタに表示するかしないかを「オン」／「オフ」で選択します(P.128)。撮影後すぐに次の撮影をするために、ファインダに被写体を表示させておきたいときは「オフ」に設定します。

「オン」：撮影した画像をカードに記録中、ビューファインダ／液晶モニタに表示します。撮影画像の簡単なチェックに便利です。また撮影画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

「オフ」：カードに記録中の画像は表示せす、カメラを向けている被写体をビューファインダ/液晶モニタに表示し続けます。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

注意

● レックビューがオンに設定されていても、連写中はレックビューをしません。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	情報表示	ビープ音	レックビュー
AUTO	オン	＊	オン
(ポートレート)	オン	オン／オフ	オン
(スポーツ)	オン	オン／オフ	オン
(風景＋人物)	オン	オン／オフ	オン
P	オン／オフ	オン／オフ	オン／オフ
A/S/M	オン／オフ	オン／オフ	オン／オフ
(ムービー)	オン	オン／オフ	オン

＊ 設定されている内容で機能しますが、設定を変更することはできません。

スリープ時間

カメラを操作しないまま設定した時間が経過すると、カメラは自動的にスリープモードに入り、ビューファインダの表示が消えます。スリープに入るまでの時間は「30秒」、「1分」、「3分」、「5分」、「10分」の中から選択することができます。ご購入時は「1分」に設定されています。
スリープ状態でもいずれかのボタン操作を行うと、通常の状態に復帰します。

注意

- 液晶モニタはスリープ時間の設定と関係なく30秒で消灯します。
- 設定されスリープ時間は撮影モードに有効で、再生モードでは3分に固定されています。
- ACアダプターご使用時はスリープモードに入りません。
- 自動再生を30分以上続けるとスリープモードに入ります。

ファイル名メモリ

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、次のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

\DCIM***OLYMP\Pmdd****.jpg

フォルダNo.（100～999）
月（1～C）
日（01～31）
ファイルNo.0001～9999

- ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

各設定によるフォルダNo.／ファイルNo.の付け方

フォルダーNo.、ファイルNo.は「リセット」、「オート」から選択することができます。コンピューターに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください

■リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■オート

カードを入れ換えたときにフォルダNo.はそのままで、ファイルNo.のみが前のカードからの続き番号になります。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

●ファイルNo.が9999を超えたとき

ファイルNo.は0001に戻りますが、フォルダNo.が変わります（No.100→No.101など）。

●最大のフォルダNo.(999)、ファイルNo.(9999)に達したとき

カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	スリープ時間	ファイル名メモリ
AUTO	＊	＊
[ポートレート]	＊	＊
[スポーツ]	＊	＊
[風景+人物]	＊	＊
P	○	○
A/S/M	○	○
[動画]	＊	＊

＊ 設定されている内容で機能しますが、設定を変更することはできません。

モニタ調整

モニタ調整画面

ビューファインダと液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。
液晶モニタがオフのとき：ビューファインダのみの明るさが調節されます。
液晶モニタがオンのとき：液晶モニタの明るさが調節されますが、同時にビューファインダの明るさも変化します。（液晶モニタをオフにすると、ビューファインダのみで設定された明るさに戻ります。）

■調整のしかた

「モニタ調整」を選択して、▷を押すと、モニタ調整画面が表示されます。△を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。見やすい明るさになったら、Ⓞ を押して確定します。

日時設定

日付と時間を設定します。設定の手順に関しては、「ご使用の前に」(P.39)または「チャート」(P.129)をご覧ください。

m/ft設定

マニュアルフォーカスモードの時に、ビューファインダ／液晶モニタに表示される長さの単位を、m（メートル単位）とft（フィート単位）から選べます。(P.96)
長い距離を示す時は、メートル/フィート表示に、短い距離を示す時はセンチ/インチ表示になります。

電池節約モード

「オン」に設定すると、撮影モード時の電池を節約できます。(P.130)
ただし次のように、使える機能に制限がでます。

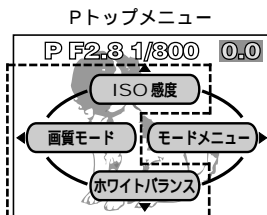
- スリープ時間の設定にかかわらず30秒でビューファインダが消灯します。
- フルタイムAFは使えません。
- 液晶モニタは使えません。

モードダイヤル位置による機能制限

機能／モード	モニタ調整	日時設定	m/ft設定	電池節約モード
AUTO	＊	○	―	―
(ポートレート)	○	○	―	オン／オフ
(スポーツ)	○	○	―	オン／オフ
(風景)	○	○	―	オン／オフ
P	○	○	○	オン／オフ
A/S/M	○	○	○	オン／オフ
(動画)	○	○	―	オン／オフ

＊ 設定されている内容で機能しますが、設定を変更することはできません。

ショートカット設定

トップメニュー(P.100)で表示される4項目のうち、「モードメニュー」以外の3項目を次ページのチャートの中から任意に選び出すことができます。よく使う機能などをトップメニューに設定しておくと便利です。

Pトップメニュー

■設定のしかた

1 メニューで「ショートカット設定」を選択し、▷を押します。「ショートカット設定」画面が表示されます。

2 「A」を選択して、▷を押します。次ページのチャートの項目が表示されます。

● 画面に表示される「A」「B」「C」はそれぞれトップメニューの上、左、下にあてはまる項目です。

3 △▽で設定したい項目を選択し、(OK)を押して確定します。

●「B」と「C」も同じ手順で設定します。

ショートカット設定画面

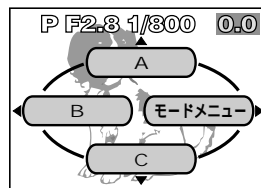
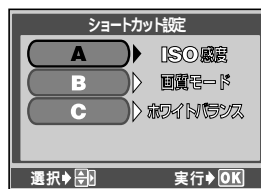
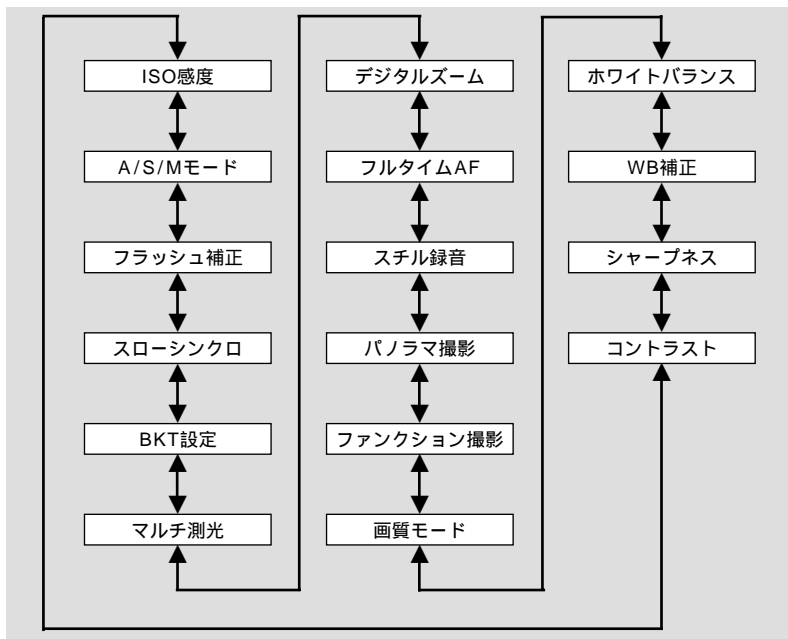
次ページに続く

設定（つづき）

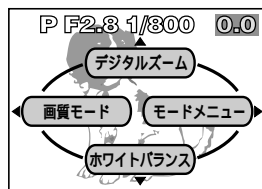
■選択できる項目

ISO感度 ↔ A/S/Mモード ↔ フラッシュ補正 ↔ スローシンクロ ↔ BKT設定 ↔ マルチ測光

デジタルズーム ↔ フルタイムAF ↔ スチル録音 ↔ パノラマ撮影 ↔ ファンクション撮影 ↔ 画質モード

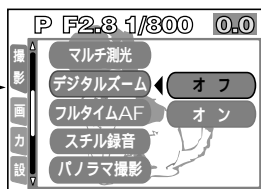
ホワイトバランス ↔ WB補正 ↔ シャープネス ↔ コントラスト

■ショートカットを使うには…

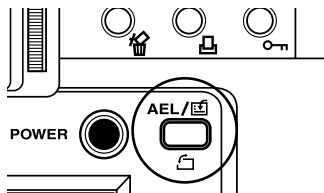
設定が完了すると、トップメニューに「ショートカット設定」で登録した機能が表示されます。その機能のそばに表示されている△▽◁に従って十字ボタンを押すだけで、ダイレクトに設定したい機能へたどり着けます。

Pトップメニュー（「A」に「デジタルズーム」を設定した場合）

△を押します。

デジタルズームの設定画面が表示されます。「オン」か「オフ」を選択して OK を押します。

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	ショートカット設定
AUTO	—
(ポートレート)	—
(スポーツ)	—
(風景)	—
P	○
A/S/M	○
(ムービー)	—

カスタムボタン設定

カメラ本体のカスタムボタン(P．91)に使用頻度の高い項目を設定することができます。ご購入時は「AEロック」に設定されています。

■設定のしかた

1 メニューで「カスタムボタン設定」を選択し、▷を押します。「カスタムボタン設定」画面が表示されます。

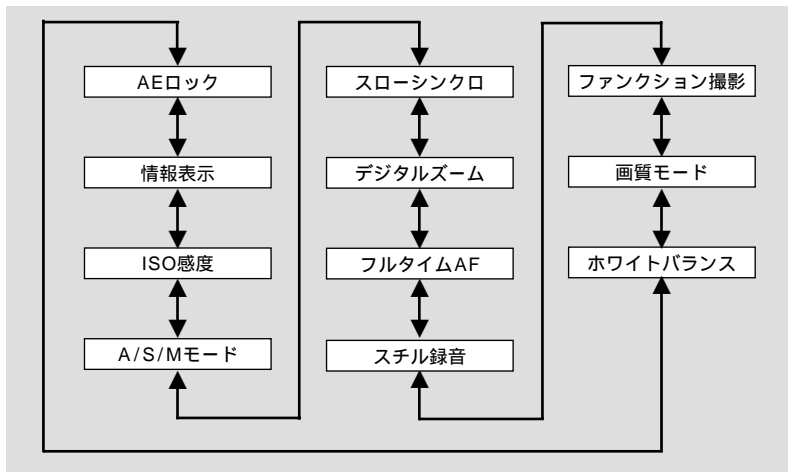
カスタムボタン設定画面

2 △▽で設定したい項目を選択し、(OK)を押して確定します。

3 設定後はメニュー操作をしなくても、カスタムボタンを押すだけで設定した機能が働きます。

次ページに続く

設定（つづき）

■選択できる項目

モードダイヤル位置による機能制限

機能 / モード	カスタムボタン設定
AUTO	―
	―
	―
	―
P	○
A/S/M	○
	―

注意

- カスタムボタンにAEロック以外の機能を割り当てたときは、AEロックの機能は使えなくなります。

5

メニュー機能編(再生)

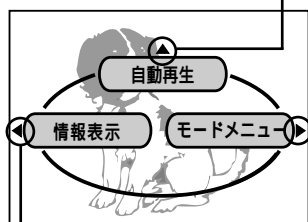
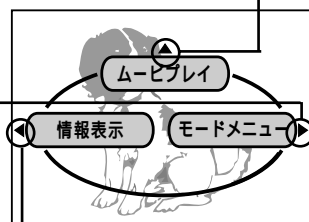
▶

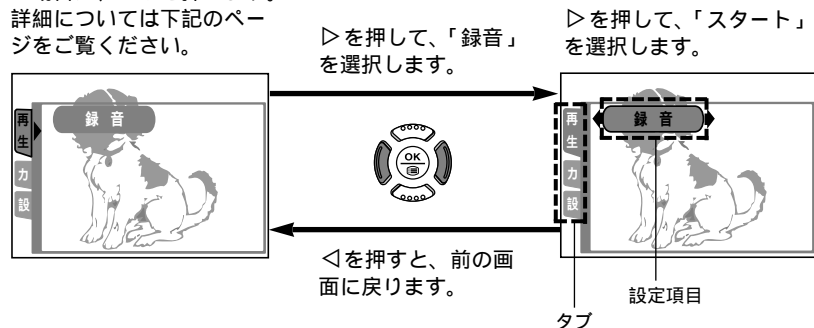
ここでは再生時（モードダイヤルが ▶ のとき）のメニュー機能について説明します。メニュー機能編（撮影）のページ（P.99－140）もあわせてご覧ください。

メニューのしくみ

トップメニューについて

トップメニューとは、㊍（メニュー／OKボタン）を押したとき最初に表示される画面のことです。メニュー機能編（撮影）とはトップメニューの扱い方が少し違い、ショートカット設定(P.101)によりトップメニューに設定する機能を選ぶことができません。再生時のトップメニューは、静止画を再生しているときと、動画（ムービー）を再生しているときとでは、使えるメニュー内容が異なりますが共通のメニュー機能もあるため、静止画と動画を合わせて、チャートなどを使いながら機能別に説明していきます。なお、撮影中に簡単再生（P.46、50)にした場合も、同じように再生時のトップメニューが表示されます。トップメニューの詳しい内容についてはメニュー機能編（撮影）の「トップメニューについて」(P.100)をご参照ください。

再生時のトップメニュー

■ モードメニューの選択方法

▷を押して、「モードメニュー」を選択します。左側にタブがついた画面が表示されます。

モードメニュー	静止画再生で表示されるメニュー	動画再生で表示されるメニュー
再生	P.150、151	ー
カード	P.152、153	P.152、153
設定	P.154ーP.156	P.154ーP.156

次ページに続く

自動再生（静止画）

スライドをみるときのように、カードに記録されている静止画像を１枚ずつ自動的に再生させることができます。画像に音声がついているときには、音声も再生されます。OK を押してトップメニューを表示させ、△を押すと自動再生が始まります。終了するには、OK を押します。

注意

- 長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了します。
- 画像に音声がついている場合は、音声の再生が終了してから次の画像を表示します。音声再生をする際にはテレビに接続してください。（カメラでの音声再生はできません。）
- 自動再生は、OK を押すまで繰り返されます。

ムービープレイ（動画）

撮影した動画を再生したり、編集したりすることができます。十字ボタンを使って 🎥 のついた画像を選択し、OK を押してトップメニューを表示させます。△を押すとカードアクセスランプが点滅して、カードの中の動画データがカメラへ送られます（ダウンロード）。「ムービープレイ」画面が表示されます。

ムービープレイ画面

「ムービー再生」、「インデックス作成」、「ムービー編集」の中から目的に合わせて選択します。

注意

- 動画を再生するためのダウンロードにかかる時間は、動画の録画時間や画質モードによって異なります。

ムービー再生

動画を再生します。

1「ムービープレイ」画面を表示させ、△▽を押して「ムービー再生」を選択します。

2 Ⓞ を押します。再生が始まります。
●全画面の再生が終わると、最初のコマに戻ります。

3 Ⓞ を押します。「ムービー再生」画面が表示されます。

4 △▽ボタンを押して、項目を選択します。
●再生：再度、動画を再生する
●コマ送り：コマ送りをする
●中止：ムービー再生をやめる

5 Ⓞ ボタンを押して選択を決定します。
「コマ送り」を選択したときは次の操作を行います。

ムービー再生画面

■コマ送りの方法

△： 動画の最初を表示します。
▽： 動画の最後を表示します。
▷： 押すたびに、コマが進みます。（コマ送り）押し続けるあいだ、再生します。
◁： 押すたびに、コマが戻ります。押し続けるあいだ、逆再生します。
Ⓞ ：「ムービー再生」画面を表示します。

ムービープレイ（動画）（つづき）

インデックス作成

撮影した動画の内容が一目でわかるように、動画を９分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、動画撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

動画撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ （1024 x 768／高画質）
SQ	SQ （640 x 480／高画質）

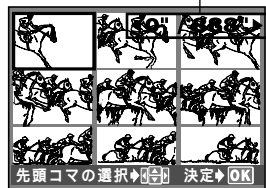
5

メニュー機能編（再生）

1 「ムービープレイ」画面を表示させ、△▽を押して「インデックス作成」を選択し、Ⓞⓚ を押します。
「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P.197）が表示されます。

撮影経過時間 / 動画全体の時間

先頭コマの選択画面

2 ◁▷を押しながら、選択枠内に先頭コマにしたいショットがくるまで再生し、確定したらⓄⓚ を押します。

[十字ボタンの働き]
△： 動画の先頭コマへジャンプします。
▽： 動画の後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ、再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ、逆再生します。
- Ⓞⓚ が押され、先頭コマが確定すると、選択枠は撮影した動画の最終コマに移動します。

☞ 次ページに続く

3 **手順2にならって、インデックス画像の後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

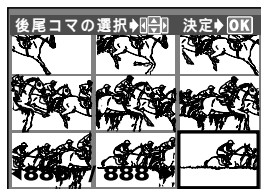
4 **後尾コマが確定したら ㊙ を押します。「インデックス作成」画面が表示されます。**

インデックス作成画面

5 **△▽を押して項目を選択します。**

- 決定：作成したインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。
- 再設定：再度インデックス作成を行うときに選択します。画面は、「先頭コマの選択」画面に戻ります。
- 中止：インデックス作成を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

6 **㊙を押して選択を決定します。**

注意

- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、インデックス作成はできません。

ムービー編集

撮影した動画から不要な部分をカットして、編集することができます。

1 **「ムービープレイ」画面を表示させ、△▽を押して「ムービー編集」を選択し、㊙ を押します。**
「先頭コマの選択」画面が表示されます。

- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P.197）が表示されます。

先頭コマの選択画面

次ページに続く

2 **◁▷ボタンを押しながら動画を再生し、先頭コマにしたいショットになったら、Ⓞ を押します。**

［十字ボタンの働き］
△：動画の先頭コマへジャンプします。
▽：動画の後尾コマへジャンプします。
▷：コマが進みます。押し続けているあいだ、再生します。
◁：コマが戻ります。押し続けているあいだ、逆再生します。
● Ⓞ が押され、先頭コマが確定すると、画面は撮影した動画の最後に移動します。

後尾コマの選択画面

3 **手順2にならって、後尾コマを選択します。**

4 **後尾コマが確定したら Ⓞ を押します。「ムービー編集」画面が表示されます。**

ムービー編集画面

5 **△▽を押して項目を選択します。**
●決定：「新規作成」または「上書き保存」を選択します。
＊「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。
＊「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。
●再設定：再度ムービー編集を行うときに選択します。画面は「先頭コマの選択」画面に戻ります。
●中止：ムービー編集を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

6 **Ⓞ を押して選択を決定します。**

注意

●書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、ムービー編集はできません。
●カード残量が不足している場合は「新規作成」はできません。

情報表示（静止画／動画）

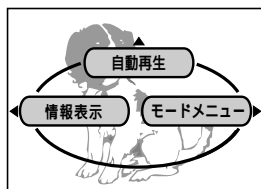
ビューファインダ／液晶モニタに、再生時に表示される情報の量を切り替えることができます。「オン」／「オフ」から選べます。「オフ」設定では、最小限の情報のみを表示します。実際に表示される内容についてはP.26をご覧ください。なお、同様に撮影時の情報表示も切り替えることができます。(P.133)

■設定のしかた

1 **モードダイヤルを ▶ の位置にします。**

2 **OK を押してトップメニューを表示させます。**

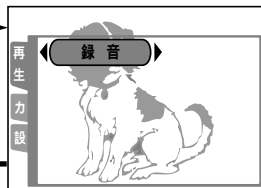
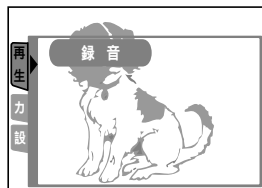
3 **◁を押すと「情報表示」が「オン」になり、画面に撮影情報が表示されます。**
再度トップメニューを表示させ◁を押すと、「オフ」に切り替わります。

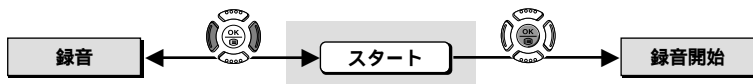
再生時のトップメニュー（静止画）

再生（静止画のみ）

以下のチャートは、モードメニューの中から「再生」を選択した際に使える機能を表しています。

「再生」以外のタブを選択する場合は、△▽を押します。

▷を押して、「録音」を選択します。

▷を押して、「スタート」を選択します。

◁を押すと、前の画面に戻ります。

＊ OK を押すと設定が終了してメニューが消えます。

録音

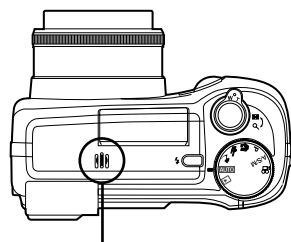
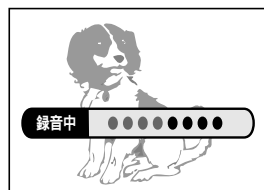
撮影済みの画像に音声メモを追加（アフレコ）することができます。また、録音済みの音声を新しく書き換えることもできます。録音できる時間は１画像につき約4秒間です。

■録音のしかた

1 **十字ボタンを使って、音声をつけたい静止画像を選択します。**

2 **OK でトップメニューを表示させ、前ページのチャートにしたがって「録音」を選択します。**

3 **▷ボタンを押すと「スタート」が表示されます。カメラのマイクを録音したい対象へ向け、OK を押すと録音が開始されます。**

●録音中を示すバーが表示されます。

注 意

●録音の対象がカメラから１m以上離れると、きれいに録音されません。
●録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
●書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、録音できません。
●カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。
●録音中にボタン操作をすると操作音が入ることがあります。

カード（静止画／動画）

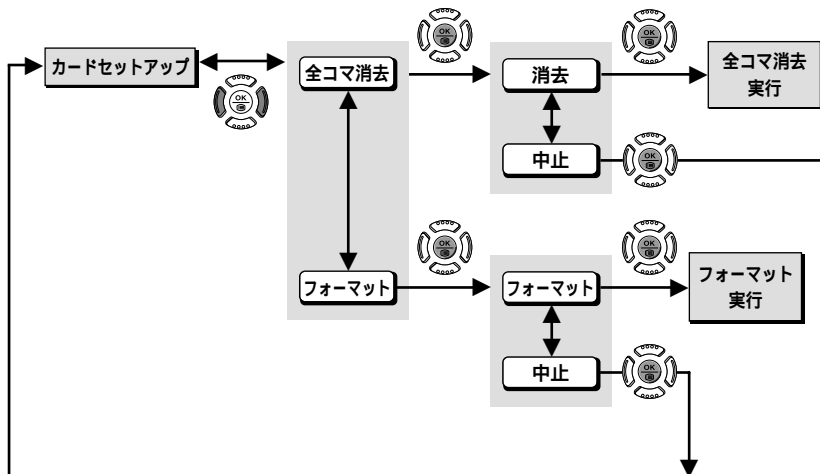
以下のチャートは、モードメニューの中から「カード」を選択した際に使える機能を表しています。

「カード」以外のタブを選択する場合は、△▽を押します。

▷を押して、「カードセットアップ」を選択します。

▷を押して、カードセットアップの中から実行したい項目を選択します。

◁を押すと、前の画面に戻ります。

＊ OK を押すと設定が終了してメニューが消えます。

カードセットアップ

「全コマ消去」または「フォーマット」から選ぶことができます。撮影モードの「カードセットアップ」では「フォーマット」しか選べません。

■「全コマ消去」

カードに記録されている静止画、動画を全て消去します。ただし、プロテクト(P.86) されている画像は消去できません。

1 モードダイヤルを ▶ にします。

●カードアクセスランプが点滅して、最後に撮影した画像が表示されます。

2 OK を押してトップメニューを表示させ、▷でモードメニューを選択します。

3 前ページのチャートにしたがい「カードセットアップ」から、「全コマ消去」を選択して OK を押します。

●「全コマ消去」画面が表示されます。

4 「消去」を選択し、OK を押します。

●「全コマ消去」をやめたいときは「中止」を選択します。

5 画面に処理中を示すバーが表示され、消去が実行されます。

全コマ消去画面

処理中画面

■「フォーマット」

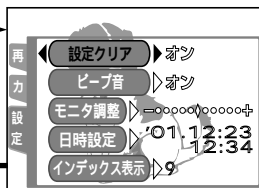
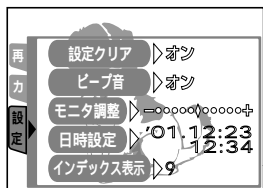
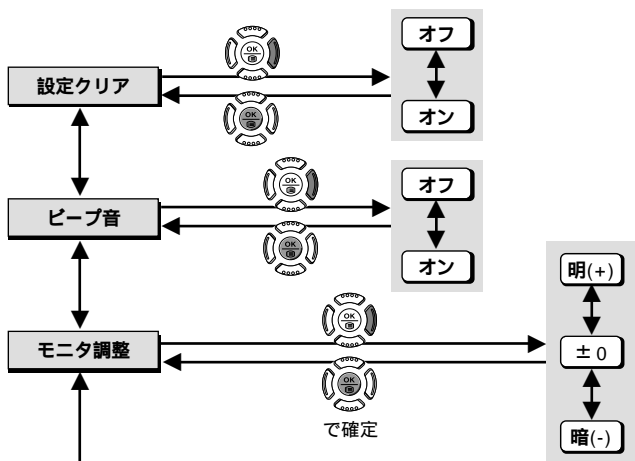
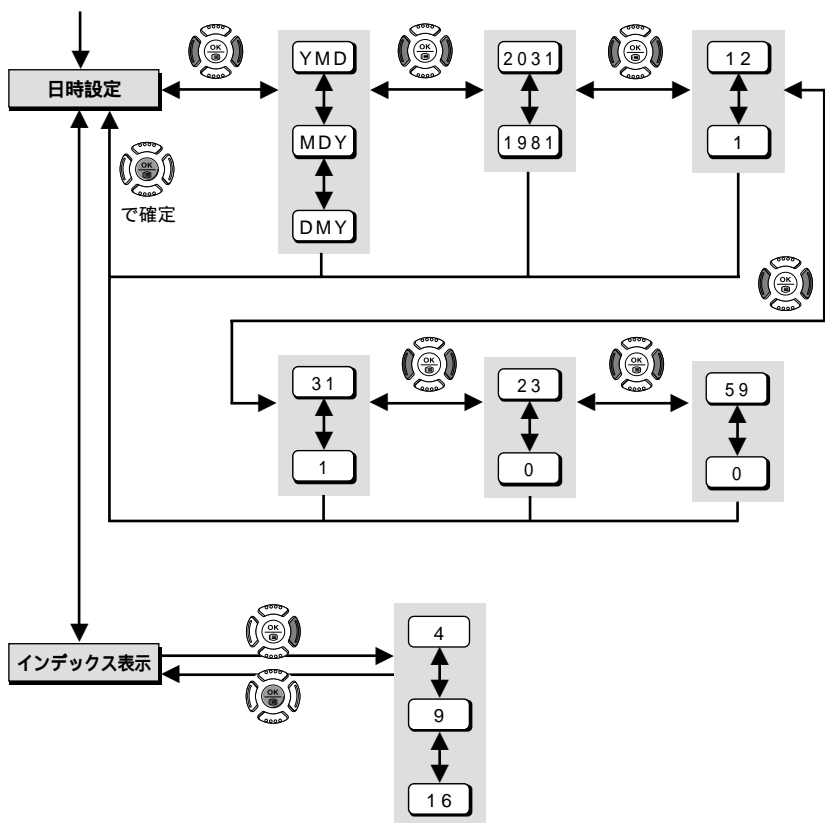
カードを初期化します。前ページのチャートにしたがって、「フォーマット」を選択し、OK を押します。初期化すると、カード内の全てのデータが消去されます。詳しくは、メニュー機能編（撮影）の「カードセットアップ」(P.127)をご覧ください。

設定（静止画／動画）

以下のチャートは、モードメニューの中から「設定」を選択した際に使える全機能を表しています。

＊ を押すと設定が終了してメニューが消えます。

次ページに続く

日時設定
YMD
MDY
DMY
2031
1981
12
1
で確定
31
1
23
0
59
0
インデックス表示
4
9
16

設定クリア

カメラの設定を保存するかどうかの設定をします。詳しくはメニュー機能編（撮影）P.131をご覧ください。

ビープ音

警告音などビープ音を鳴らすかどうかを設定します。詳しくはメニュー機能編（撮影）P.133をご覧ください。

モニタ調整

ビューファインダや液晶モニタの明るさを調節して、見やすいようにします。詳しくはメニュー機能編（撮影）P.136をご覧ください。

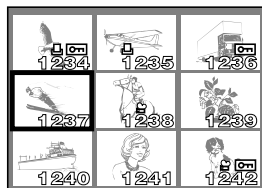
モニタ調整画面

日時設定

日付と時間を設定します。設定の手順に関しては、「カメラに慣れましょう」(P.39)または「チャート」(P.155)をご覧ください。

インデックス表示

再生時にズームレバー（P.70）をW側にまわすと、一つの画面に複数の画像が表示されます。チャート（P.155）に従って、表示する画像の数を「4」「9」「16」の中から選択し、OK を押して設定します。

インデックス表示

（9分割を選択したとき）

モードダイヤル位置による初期設定

＊1 設定を変更することはできません。
＊2 他の撮影モードで設定した状態で保持しています。

<table>
<tr><th>モードダイヤル / メニュー機能</th><th>AUTO</th><th></th><th></th><th></th><th>P</th><th>A/S/M</th><th></th><th>▶</th></tr>
<tr><td>ISO感度</td><td colspan="4">オート＊1</td><td>オート</td><td>100</td><td>オート</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>A/S/Mモード</td><td colspan="5">ー</td><td>A</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>フラッシュ補正</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">±0</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>スローシンクロ</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">先幕効果</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>BKT設定</td><td colspan="4">ー</td><td>±1.0/x3</td><td>±1.0/x3
(Mは不可)</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>マルチ測光</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td>ー</td><td colspan="6">オフ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>フルタイムAF</td><td colspan="2">ー</td><td>オン＊1</td><td>ー</td><td colspan="2">オフ</td><td>オン</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>スチル録音</td><td>ー</td><td colspan="5">オフ</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>ムービー録音</td><td colspan="6">ー</td><td>オフ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>ファンクション撮影</td><td>ー</td><td colspan="6">オフ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="3">画質モード</td><td colspan="7">HQ</td><td rowspan="2">ー</td></tr>
<tr><td colspan="6">（SQを選択したとき）640X480／標準</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">(TIFFを選択したとき)
1600X1200</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ホワイトバランス</td><td colspan="4">オート＊1</td><td colspan="3">オート</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="4">ー</td><td colspan="3">（プリセットを選択したとき）
晴天</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>WB補正</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">±0</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>シャープネス</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">標準</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>コントラスト</td><td colspan="4">ー</td><td colspan="2">標準</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>カードセットアップ</td><td colspan="8">中止</td></tr>
<tr><td>設定クリア</td><td>オン＊1</td><td colspan="7">オン</td></tr>
<tr><td>情報表示</td><td colspan="4">オン＊1</td><td colspan="2">オフ</td><td>オン＊1</td><td>オフ</td></tr>
<tr><td>ビープ音</td><td>オン＊2</td><td colspan="7">オン</td></tr>
<tr><td>レックビュー</td><td colspan="4">オン＊1</td><td colspan="2">オン</td><td>オン＊1</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>スリープ時間</td><td colspan="7">1分</td><td>ー</td></tr>
</table>

次ページに続く

モードダイヤル位置による初期設定（つづき）

＊1　設定を変更することはできません。
＊2　他の撮影モードで設定した状態で保持しています。

モードダイヤル／メニュー機能	AUTO				P	A/S/M		
ファイル名メモリ	リセット							－
モニタ調整	±0＊1	±0						
日時設定	YMD/2001/1/1							
m／ft設定	－				m		－	
電池節約モード	－	オフ						－
ショートカット設定	－				A：ISO感度／ B：画質モード／ C：ホワイトバランス		－	
カスタムボタン設定	－				AEロック		－	
インデックス表示	－							9

6

プリント設定

プリント方法

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ **DPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント**
DPOFとは？
Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。
プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能になります。

■ **オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント**
パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。
詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ **画像をパソコンに転送して(P.169～177)、パソコンに接続しているプリンタでプリント**
パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。
詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

撮影時の画質モードとプリントの関係
パソコンやプリンタの解像度には一般的に１インチあたりの点(ピクセル）の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード(P.121)をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

重要！

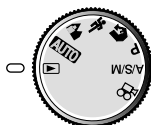
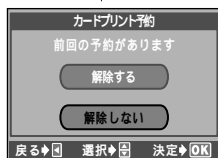
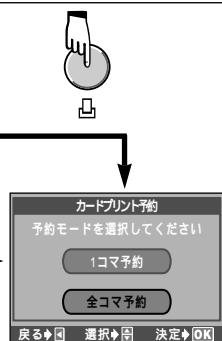
DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

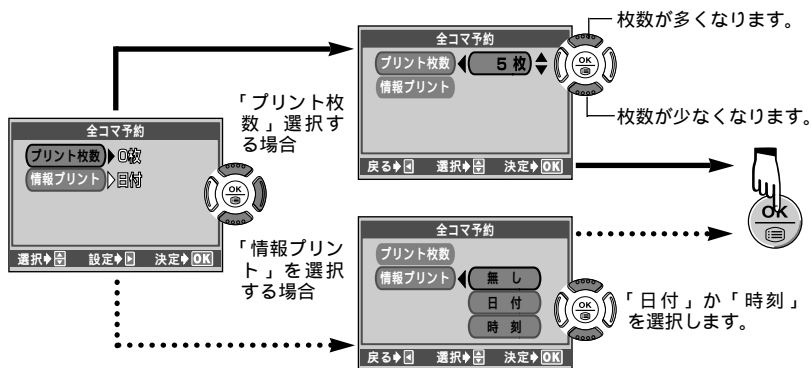
写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 26,142）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（凸）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- カードにプロテクトシールが貼られているとプリント予約はできません。

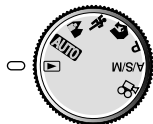
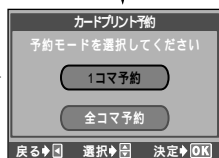
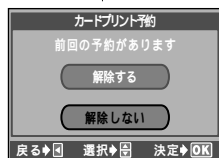
カードの中の全画像をプリント予約する〜全コマ予約

1 **モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。🎥 のついた画像は、プリントできません。**

2 **⎙ ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。**

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。

「全コマ予約」を選択します。

3 **△▽を押して「プリント枚数」か「情報プリント」（日付・時刻の設定）を選択します。どちらかを選択したら▷を押して設定を行ないます。**

4 **設定を終えたら、Ⓞ を押します。選択画面が消えて、画像が再生されます。**

● 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

選択した画像のみをプリント予約する～1コマ予約

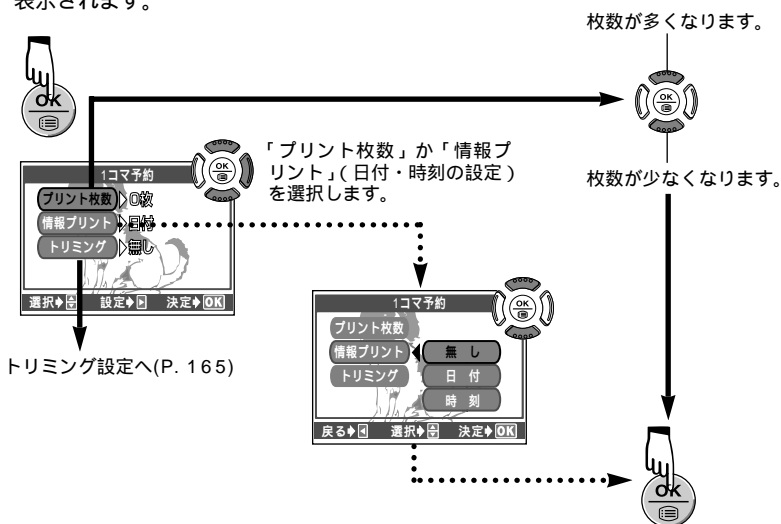
1 **モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。🎥 のついた画像は、プリントできません。**

2 **凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。**

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。

「1コマ予約」を選択します。

3 **プリント予約したいコマを以下の方法で選択します。（画像の選択には再生時の画像選択と同様に、十字ボタンを使います。）**

インデックス再生になります。インデックス表示のコマ数設定(P. 156)により、表示コマ数が決まります。
4コマ設定：2コマ、9コマ設定：6コマ、16コマ設定：12コマ

画像を選択しているとき

4 **プリント予約したいコマを選択したら、Ⓞを押して決定します。予約設定画面が表示されます。**

5 **設定を終えたら、Ⓞを押して選択画面に戻ります。**

- 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順3～5を繰り返します。

6 **ボタンを2回押します。選択画面が消えて、画像が再生されます。**

- プリント予約マーク・プリント枚数・日時が表示されていることを確認ください。

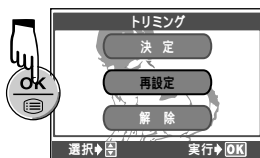
トリミング設定

撮影した画像の一部を拡大して、プリントします。

1 **「選択した画像のみをプリントする～1コマ予約」の手順1～4をします。手順4では「トリミング」を選択します。(P.164)**

すでにトリミングが設定されている場合は、「トリミング」設定画面が表示されます。
「再設定」を選択します。

- その他の設定を選択すると、「1コマ予約」画面に戻ります。(P.164の手順4の画面)
  設定されているトリミングを保存→**決定**
  再度トリミングをしなおす→**再設定**
  トリミングを解除する→**解除**

トリミングが設定されていないときは「設定」を、中止したいときは「解除」を選びます。

2 **トリミングのサイズを決める画面が表示されます。まず、プリントしたい画像の左上端の位置を決めます。以下の方法で、画面の縦横の線を動かします。**

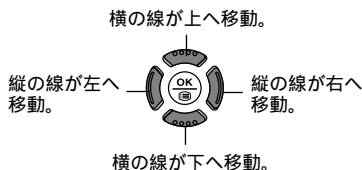
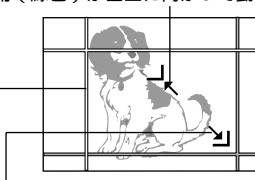
トリミング設定（つづき）

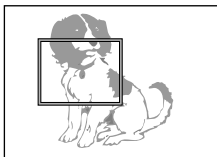
3 (OK) **を押して左上端の位置を決定します。**

4 **右下端の位置を決める画面に変わります。縦横の線を動かす方法は、手順2と同様です。**

● 再度、左上端の位置を設定したい場合は、凸 ボタンを押します。

ズームレバーをW側に動かす（画面上では、フレームの角（緑色）が左上に向かって動きます）

操作中は、反対側のフレーム（白色）が表示されます

ズームレバーをT側に動かす（画面上では、フレームの角（緑色）が右下に向かって動きます）

5 (OK) **を押して右下端の位置を決定します。設定されたトリミングサイズが約１秒間表示されます。**

6 **「トリミング」設定画面（手順1の画面）で、「決定」を選択します。「1コマ予約」画面に戻ります。**

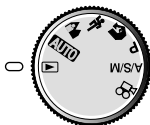
7 **設定を終えるため、** (OK) **を押して選択画面を戻ります。**

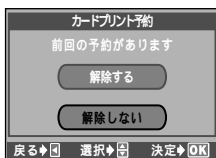
8 凸 **ボタンを2回押します。選択画面が消えて、画像が再生されます。**

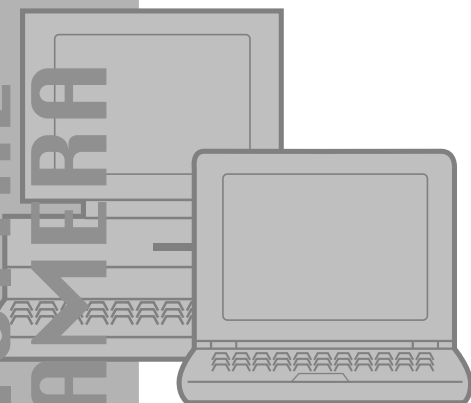
● プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
● 詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。
● トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。

プリント予約を解除する

カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

1 **モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。**

2 **凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。**
再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがない場合は、「カードプリント予約」画面は表示されません。

3 **「解除する」を選択します。**

■選択した画像のみの予約の解除

「解除しない」を選択して先へ進み、1コマ予約のなかのプリント枚数の設定を0にします。

7

画像をパソコンに読み込む

カードに保存された画像はパソコンで読み込んでお楽しみいただくことができます。この章ではパソコンに画像を取り込む方法について説明します。

カメラとパソコンをケーブルで接続する

USBケーブルでパソコンに接続する場合、パソコンのOSによって手順が異なります。パソコンの動作環境については、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。

カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する

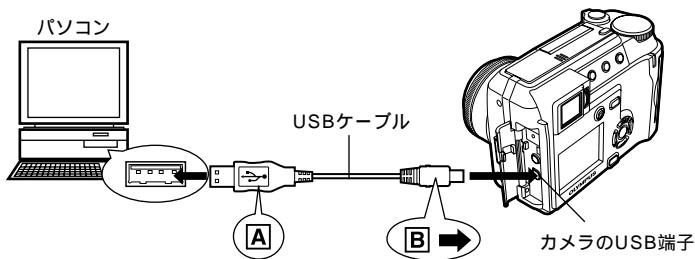
*1 Windows 95およびWindows NT 4.0ではUSBには対応していません。別売のカードアダプタをご利用ください。「カードから直接読み込む」→P.180
*2 Mac OS 8.6の場合、次の条件が揃ったMacintoshでのみ動作が確認されています。
・USB端子を標準で備えている。
・Mac OS 8.6とUSB MASS Storage Support 1.3.5が出荷時にインストールされている。
USBのサポートについてはアップルコンピュータ社にお問い合わせください。
*3 付属の専用USBケーブルが必要です。
*4 Windows98/98SE用のUSBドライバは、付属のCD-ROMか、オリンパスのホームページからダウンロードし、インストールする必要があります。

注 意

● カメラをパソコンに接続して使用するときは電池の残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとカメラの通信中に電池の残量がなくなると、カメラが途中で動作を停止するため、画像データ（ファイル）が壊れることがあります。パソコンとの通信時にはACアダプタのご使用をおすすめします。
● CAMEDIA Masterをお使いの時は、バージョン2.5以上をお使いください
● パソコンがUSB端子を装備していても次の環境での動作保証はできません。
  ＊Windows 95から Windows 98へアップグレードしたパソコン
  ＊Windows 95
  ＊Windows NT 4.0
  ＊Mac OSならびに USB MASS Storage Supportのアップグレードバージョン
  ＊拡張カードなどでUSB端子を増設した機種

ACアダプタを使うときの注意
●ACアダプタを接続する前に、カメラの電源が切れていることを確認してください。
●ACアダプタを取り外す際には、パソコンとカメラの接続を外し、カメラの電源が切れていることを確認してください。

接続の手順

カメラとパソコンを接続するには付属の専用USBケーブルを使います。

1. ***カメラの電源を切って、パソコンに転送する画像の入ったカードを入れておきます。***

2. ***カメラの端子カバーを開けます。***

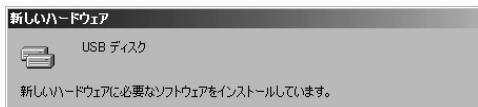
3. ***USBケーブルの A と刻印されているプラグ部をパソコンのUSB端子に差し込みます。***

4. ***USBケーブルの B と刻印されているプラグ部をカメラのUSB端子に差し込みます。***

次ページに続く

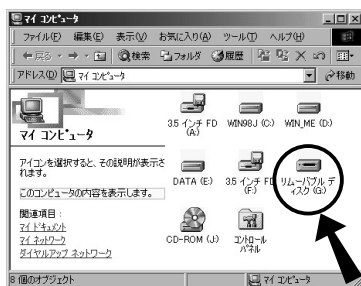
5. ***モードダイヤルを▶ にセットします。***

6. ***パワースイッチを押して電源を入れます。***

パソコンがカメラを新しい機器と認識して、USBドライバのインストールを開始します。（2回目以降の接続では、自動的にパソコンがカメラを認識するため、下記のメッセージは表示されません。）

● **Windows 2000 Professional/Meをお使いの場合：**
自動的にUSBドライバソフトがインストールされます。インストール終了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックして下さい。「マイコンピュータ」または「エクスプローラ」を開くと、カメラは「リムーバブルディスク」として表示されます。

● **Windows 98/98SEをお使いの場合：**
カメラを認識してUSBドライバをインストールする画面が表示されますので、P.173の手順に従ってUSBドライバを付属のソフトウェアCDからインストールして下さい。

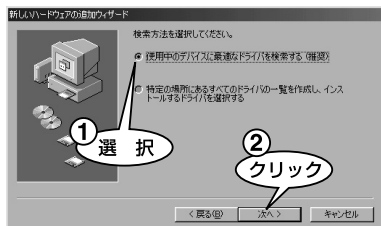
● **Mac OS9.0～9.1をお使いの場合：**
自動的にカメラを認識し、デスクトップ上に「名称未設定」アイコンが表示されます。

7. ***「画像ファイルをパソコンに読み込む」（P.175）に従って、画像ファイルをパソコンにダウンロードします。***

「マイコンピュータ」を開いたところ

Windows 98/98SE使用時のUSBドライバのインストール手順

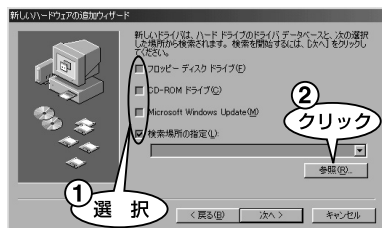
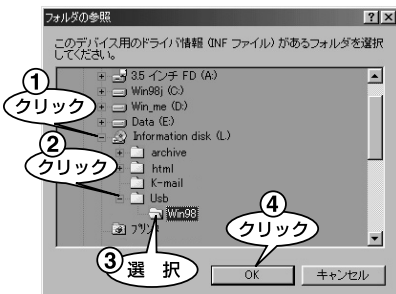
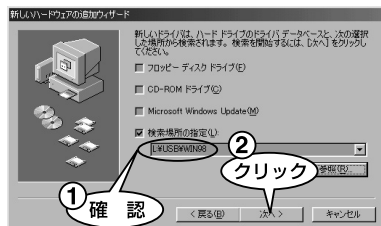
1. カメラとパソコンを接続してカメラの電源を入れるとパソコンに右の画面が表示され、カメラが新しい機器（ハードウェア）として認識されます。

2.「次へ」ボタンをクリックします。

3.「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

4. 付属のソフトウェアCDをパソコンのCD-ROMドライブにセットし、CDが認識されるまでしばらく待ちます。

5.「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROMドライブ」のチェック（マーク）をクリックして外します。続いて「検索場所の指定」をチェックし、「参照」ボタンをクリックします。

7
画像をパソコンに読み込む

次ページに続く

6. ***フォルダの参照画面で、「CD-ROMドライブ」アイコンの左にある[＋]をクリックし、その後に表示される「USBフォルダ」の左にある[＋]をクリックします。USBフォルダの下に「Win98」フォルダが表示されます。「Win98」フォルダを選択してから「OK」ボタンをクリックします。***

7. ***右の画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックします。続いて表示される画面でも「次へ」ボタンをクリックします。「次へ」ボタンをクリックした後にファイルのコピー画面が表示され、USBドライバがパソコンに読み込まれます。***

8. ***USBドライバの読み込み完了は終了メッセージの表示で確認できます。「画像ファイルをパソコンに読み込む」（→P.175）へ進んで下さい。***

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）

カメラとパソコンの接続が正しくできると、Windowsではカメラ（カード）をひとつのドライブ（通常はリムーバブルディスク）として認識します。Macintoshの場合は、デスクトップ上に新しいドライブ（名称未設定）として表示されます。
カード内の画像は、Windowsのエクスプローラのようなファイル管理ソフトでフロッピーディスクやMOで行うのと同じようにファイルとして扱うことができます。
パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。QuickTimeについては、アップルコンピュータ社のホームページでお確かめください。

注意 CAMEDIA Masterをお使いの方へ

● CAMEDIA Masterでもファイルの読み込みが可能です。
CAMEDIA Masterをお使いのときは、「マイカメラ」ではなく「リムーバブルディスク」をクリックして下さい。
Mac OSの場合は「名称未設定」となります。

Windows の場合

1.接続の手順（P.171）に従ってカメラとパソコンを接続します。
カメラに入っているカードはパソコン上では一つのフォルダとして認識されます。

2.［マイ コンピュータ］アイコンをクリックします。

3.［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックします。
［DCIM］というフォルダのあるウィンドウが開きます。
このアイコンが無い場合はカメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P.171）に戻って接続しなおして下さい。

4.DCIM フォルダをダブルクリックします。
［100OLYMP］というフォルダのあるウィンドウが開きます。（フォルダごとパソコンへコピーする場合はここでフォルダをクリックして選択し手順６へ）

5.［100OLYMP］フォルダを開きます。
新しいウィンドウが開きファイルが表示されます。

次ページに続く

6. ***コピーまたは移動したいファイルを選択して［編集］をクリックします。***

- ファイルを移動する時は［切り取り］、コピーする時は［コピー］をクリックして下さい。
- ファイルを移動またはコピーしたいフォルダを開いて［編集］メニューの［貼り付け］をクリックします。

● ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめください。

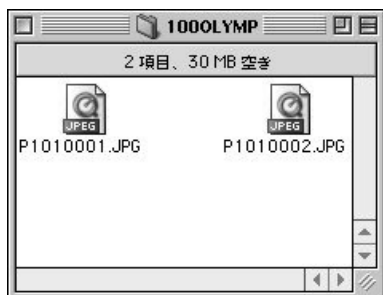
Macintoshの場合

1. ***接続の手順（P.171）に従ってカメラとパソコンを接続します。***
デスクトップに［名称未設定］というアイコンが表示されます。このアイコンが無い場合はカメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P.171）に戻って接続しなおしてください。

2. ***［名称未設定］アイコンをダブルクリックします。***
［DCIM］というフォルダのあるウィンドウが開きます。

3. ***［DCIM］　フォルダをダブルクリックします。***
［100OLYMP］というフォルダのあるウィンドウが開きます。（フォルダごとパソコンへコピーする場合は、ここでフォルダをドラッグして入れたいフォルダのアイコンの上に重ねます。）

4. ***[100OLYMP] フォルダを開きます。***

新しいウィンドウが開きファイルが表示されます。
コピーまたは移動したいファイルを選択して入れたいフォルダのアイコンの上に重ねます。

● ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめ下さい。

注 意

● 以下の場合ではパソコンとの接続を一度中止する必要があります。
- 使用するカードを取り替える。(カードの取り出し手順→P.34)
- モードを切り替える。
- カメラの電源を切る。

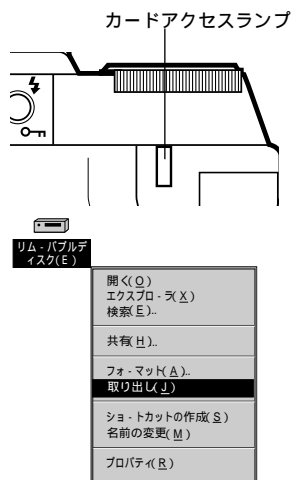
パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA Masterや Paint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト(Netscape Communicator /Microsoft Internet Explorer など)のJPEGを扱えるアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。市販の画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの取扱説明書を参照してください。また、画像処理の際には必ずパソコンに画像をダウンロードしてから行ってください。ソフトウェアによっては、ファイル(画像)がカメラのカードの中にある状態で画像処理(画像の回転など)を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

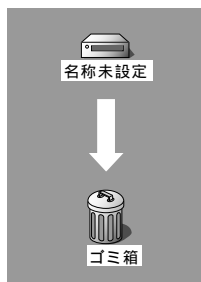
画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）（つづき）

カードの取り出し手順

パソコンが誤動作する場合がありますので、カードを取り出す際は必ず以下の手順に従ってください。（誤動作を起こした場合、USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります。）

Windows の場合

1. ***カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。***
   点滅している場合は消えるまでしばらくお待ちください。
2. ***「マイコンピュータ」上から「ドライブアイコン（リムーバブルディスク）」を選択し、右クリックをしてメニューを表示させます。***
3. ***メニュから「取り出し」を選択して左クリックをします。***
4. ***カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。***
   →カードを取り出す（P.34）

Macintosh の場合

1. ***カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。***
   点滅している場合は消えるまでしばらくお待ちください。
2. ***デスクトップ上の「ドライブアイコン」を選択して「ごみ箱」に捨てます。***
   または、「特別」メニューから「取り出し」を選択します。
3. ***カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。***
   →カードを取り出す（P.34）

USBケーブルの取り外し手順

USBケーブルを取り外す場合は、以下の手順に従ってください。
はじめにカードの取り出し手順に従ってください(P. 178)。カードを取り出さなくても、この操作はできます。

Windows98/SE、MacOSの場合

カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認したあと、USBケーブルを取り外します。

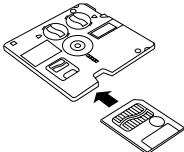
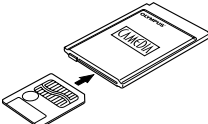
Windows 2000/Meの場合

次の**（A）（B）**どちらかの手順で取り外します。

（A） タスクバーの をクリックする

① タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンを左クリックします。
② ドライブを停止するメッセージが表示されたら、メッセージを左クリックします。
③ 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④ USBケーブルを取り外します。

（B） タスクバーの をダブルクリックする

① タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンをダブルクリックします。
② ハードウェアの取り外し画面が表示されたら、ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択して「停止」ボタンをクリックします。
③ 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④ USBケーブルを取り外します。

注 意

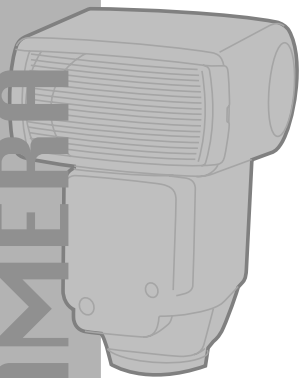
● 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切ったり、モードダイヤルを切り替えたりしないでください。
● パソコンとの接続中（通信中）は、カメラだけで使用するときのようにスリープ状態（電池節約状態）になったり、自動的に電源が切れたりしません。長時間にわたってパソコンと使用するときはACアダプタをお使いください。
● USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続して下さい。

カードから直接画像を読み込む

カード用のアダプタを使うと、カメラとパソコンを接続しなくても、カードから直接画像を取り込むことができます。それぞれの機器の最新の情報については、当社カスタマーセンターにお問い合わせください。

パソコンの環境	使用できる機器
3.5型（インチ）フロッピーディスクドライブを装備するパソコン	フロッピーディスクアダプタ
PCMCIAカードスロットを装備するパソコン	PCカードアダプタ
USB端子を装備するパソコン	スマートメディアア／リーダ・ライタ

注意：

- パソコンの動作環境やカードの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。
- お取り扱いついては、各機器の取扱説明書をお読みください。

8

別売品を使う

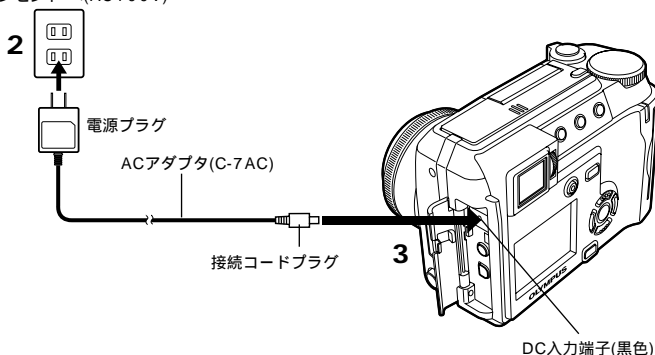
家庭用電源を使う～ACアダプタ

家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ(C-7AC)が必要です。（専用のACアダプタ以外は絶対に使わないでください。）また、電源は必ず100Vでご使用ください。

1 **カメラの電源が切れていることを確認します。**

2 **ACアダプタの電源プラグを、コンセントにしっかりと差し込みます。**

3 **カメラの端子カバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。**

4 **使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。**

● 「安全にお使い頂くために」およびACアダプターの取扱説明書を必ずお読みください。
● カードアクセス中のACアダプタの抜き差しは絶対に行なわないでください。

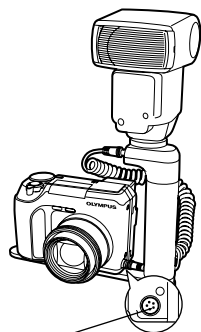
外部フラッシュ

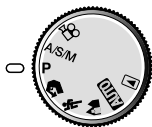
専用外部フラッシュFL-40で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内蔵フラッシュと併用しての撮影もできます。
専用外部フラッシュFL-40とカメラを接続するには、専用のフラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）が必要となります。

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影する

専用外部フラッシュを使う場合、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するため、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。
内蔵フラッシュと外部フラッシュの併用は、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。

1 外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

- 専用外部フラッシュ・フラッシュブラケット・ブラケットケーブルそれぞれの取扱説明書もお読みください。
- 外部フラッシュ接続端子のキャップはネジ式ですので、接続の際はキャップを廻して外し、ご使用ください。

外部フラッシュ端子

2 モードダイヤルを使いたいフラッシュモードができる位置にします。（P. 81）

3 外部フラッシュの電源を入れます。

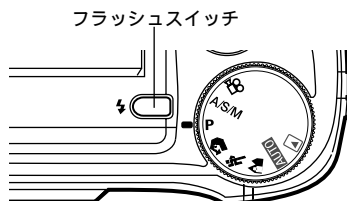
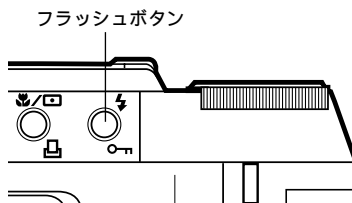
- 外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。

☞ 次ページに続く

外部フラッシュ（つづき）

4 **ϟ（フラッシュ）スイッチを押して、内蔵フラッシュを起こします。**

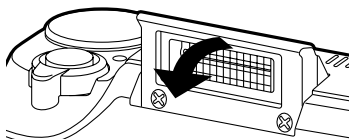
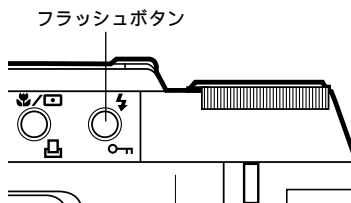
5 **ϟ（フラッシュモード）ボタンでフラッシュモードを選択します。(P. 80)**

フラッシュボタン

注意

- 近距離撮影時、露出がオーバー（明るすぎる）になる場合があります。内蔵フラッシュをお使いください。
- 内蔵フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出が小さくなります。

専用外部フラッシュのみを使って撮影する

「専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影する」(P. 183)の手順**1**～**3**を行います。

4 **カメラの内蔵フラッシュが収納されているか確認します。内蔵フラッシュが起き上がっていたら、収納します。**

5 **ϟ（フラッシュモード）ボタンでフラッシュモードを選択します。(P. 80)**

市販の外部フラッシュのみを使って撮影する

専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。
接続できる外部フラッシュの条件については、「使用できる市販の外部フラッシュについて」（P.186）をお読みください。

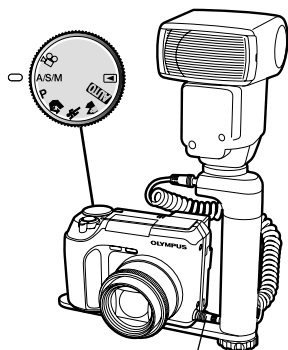
1 外部フラッシュを専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

2 カメラのモードダイヤルをA/S/Mにして、Mモードにします。シャッター速度と絞り値を設定します。(P. 60)

- シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますので注意してください。またフラッシュの効果を出すため、シャッター速度は1/200〜1/300 までに設定されることをおすすめします。

3 外部フラッシュの電源を入れます。

4 外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISO・絞り値をカメラのISO・絞り値に合わせます。

- 外部フラッシュでのモードの選択の方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

外部フラッシュ端子

注意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- お使いになるフラッシュがカメラに同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使い下さい。

使用できる市販外部フラッシュについて

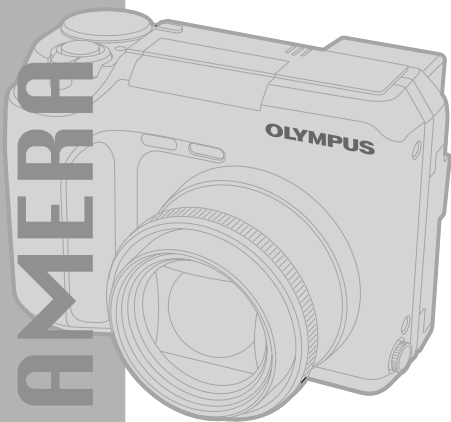
外部フラッシュを選定する際に、下記の基本条件を満たす製品をご使用ください。

（1）市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、正常に機能しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。
（2）市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。
（3）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。
外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。
（4）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正は出来ません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）
（5）照射角度は35mmフィルム換算で、38mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。
（6）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。
（7）**FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となる事がありますので使用しないでください。**

別売品のご案内

2001年2月現在

- **CAMEDIA Master 2.5（C-90PJ2）**
- **スマートメディア(8MB/16MB/32MB/64MB/128MB)**
- **外部フラッシュ(FL-40)**
- **フラッシュブラケット(FL-BK01)**
- **ブラケットケーブル(FL-CB01)**
- **プリンタ (P-400/P-200/P-330N)**
- **ACアダプタ (C-7AC)**
- **充電器セット（ニッケル水素電池４本付）(BU-40SNH)**
- **ニッケル水素電池 (B-03NH16)**
- **PCカードアダプタ (MA-2)**
- **フロッピーディスクアダプタFlashPath (MAFP-2N)**
  - DOS/V: Windows 95/98/Me/NT4.0/2000 Professional
  - PC-9821: Windows 95(OSR2以降)/98
  - Power Macintosh: Mac OS 7.5.1～9.0（Read only)
- **スマートメディア・リーダ／ライタ**
  - 64MBスマートメディアまで対応
  - Windows 98/Me/2000 Professional、Mac OS 8.6～9.0用

別売品の最新情報については、オリンパスホームページ (http://www.olympus.co.jp)をご覧ください。

9

その他

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない。		
①電源が切れている。	❶パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.36
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.31
③電池の残量がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.31
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケットにいれるなどして温めてから使用してください。	P.13
⑤パソコンに接続している。	❺パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	P.171
ビューファインダが点灯しない。		
①カメラがスリープモードになっています。	❶シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.36
②カメラが再生モードになっています。	❷モードダイヤルを撮影モードに設定してください。	P.55
液晶モニタが点灯しない。		
①液晶モニタがスリープモードになっています。	❶シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.36
②カメラがスリープモードになっています。	❷シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.36、45
③カメラが電池節約モードになっています。	❸メニューでに設定をオフにしてください。	P.136
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①モードダイヤルが、▶にセットされている。	❶モードダイヤルを ▶ 以外にセットしてください。	P.55
②メモリゲージがすべて点灯している。	❷メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.22
③フラッシュの充電が完了していない。	❸一度シャッターボタンから指を離し、フラッシュ発光予告マークの点滅が終わってから、撮影してください。	P.85
④ 🎥（動画撮影モード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❹撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	P.49
⑤カードに問題がある。	❺エラーコード表示一覧でご確認ください。	P.196
⑥カードの容量がいっぱいになった。	❻カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。	P.34、47
⑦撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❼新しい電池と交換してください。	P.31

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
⑧ビューファインダ（液晶モニタ）の表示が消えた。または、電池残量警告マークのみが点滅している。	❽電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.23、31
⑨カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❾新しいカードを入れてください。	P.33
画像データに記録される日付が正しくない。		
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。（お買い上げ時には日付の設定がされていないので、記録されません。）	P.37
②カメラから電池が抜かれ約1時間経過し、日付設定が解除された。	❷再度、日付設定をしてください。	P.37
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュが閉じられている。	❶フラッシュスイッチを押して、フラッシュを起こしてください。	P.44、84
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光モードにしてください。	P.79、82
③連写モードがオートブラケットBKT・連写・AF連写AFのいずれかになっている。または、動画撮影モードになっている。	❸DRIVEボタンを押して、1コマ撮影に切り替えてください。モードダイヤルを以外にしてください。	P.54、71
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。	❶モードダイアルを ▶ にセットしてください。	P.62
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.43 P.197
③カードに問題がある。	❸エラー表示一覧でご確認ください。	P.196 P.197
④テレビに接続している。	❹テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。	P.63
⑤表示がビューファインダになっている。	❺（液晶モニタボタン）を押して液晶モニタを点灯させてください。	P.45

9

その他

原因	こうしましょう	参照ページ
ビューファインダが見えにくい。		
①視度調節が正しくない。 ②明るさが合っていない。	❶見やすいように調整してください。 ❷明るさを調整してください。	P.41 P.136
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。 ②太陽光の下である。	❶見やすいように調整してください。 ❷太陽の光を手などでさえぎってください。	P.136
画像の回転、プロテクト、1コマ消去、全コマ消去、プリント予約、初期化ができない。		
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。（シールは再使用しないでください。）	P.33
パソコンと接続して、画像の転送ができない。		
①ケーブルが正しく接続されていない。 ②カメラの電源が切れています。 ③電池がない。 ④USBドライバが正しくインストールされていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。 ❷電源を入れて、モードダイヤルを ▶ にします。 ❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。 ❹USBドライバを再度インストールし、パソコンがカメラを認識しているかを確認してください。	P.171 P.172 P. 31、182 P.171～174
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュの発光モードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。 （フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P.82

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.41、42
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.64、67
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P.195
④被写体までの距離が近すぎた。	❹マクロモードに設定してください。（ズームによって、被写体に近付ける距離は異なります。）	P.77
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.74
⑥マニュアルフォーカスで被写体までの距離を確認せずに撮影してしまった。	❻マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.96
撮影した画像が明るすぎる。		
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.79
②被写体が明るすぎた。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.93 P.94
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.41
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。または外部フラッシュをご使用ください。	P.44、183
③フラッシュを起こして（ポップアップして）いなかった。	❸フラッシュを起こしてください。	P.84
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュのモードを強制発光モードにセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P.77、82
⑤連写モードで撮影した。	❺連写モードでは、シャッタースピードの最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.73

原因	こうしましょう	参照ページ
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.82
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.122
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.122
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.41
画像のハレーション部に不自然な色がつく。		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	❶UVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでのご使用をお薦めします。 ❷画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、Paint Shop Proなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

保管の際は、必ずカメラの電源を切り、レンズキャップを取り付けてください。
防虫剤の使用はカメラを傷める原因となります。

カメラのお手入れ

1 **カメラの電源を切ります。(P. 36)**

2 **電池を取り出します(P. 31)。(ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。)**

3 **カメラの外側...** 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとビューファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。エラー表示は点滅します。

表示	エラー内容	対応
カードを認識できません	カードが入ってません、または認識できません。	正しくカードを入れるか、別のカードを入れてください。
撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合は、プロテクトシールをはがしてください。
このカードは使用できません	このカードで撮影､再生､消去をすることができません。	カードが汚れている場合は､クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか､カードをフォーマットして下さい。それでも直らない場合は､このカードは使用できません。
この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

表示	エラー内容	対応
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データや音声を含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
電池残量がありません	電池残量がないため、カメラは動作しません。	新しい電池、または充電された電池と交換してください。

アフターサービス

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

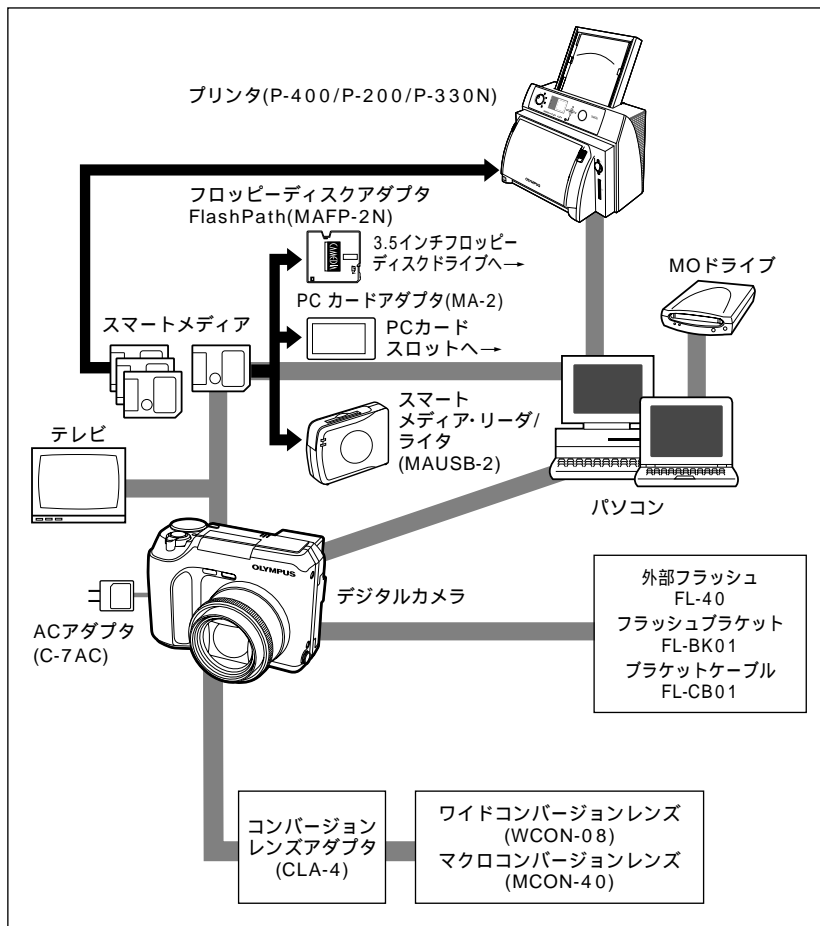
●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

●本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
本製品は日本国内のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

●本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

このカメラに接続できる機器〜システムチャート

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。

画像ファイルの互換性について

■**画像の再生について**

オリンパスデジタルカメラで撮影してカードに記録した画像は、他のオリンパスデジタルカメラでも再生できます。ただし、再生するカメラの性能によっていくつかの制限があります。

- ●再生するカメラの最大画象サイズより大きなサイズの静止画像は、サムネイルで再生される場合があります。
- ●縦横比が異なる画像サイズのカメラで再生すると、黒い縁がついた画像で再生されます。
- ●TIFFファイルは再生できない場合があります。また画像サイズによっても、再生できない場合があります。ダイレクトプリントのできるカメラで再生した場合でも、これらの制限でダイレクトプリントができない場合があります。
- ●再生するカメラのバッファメモリの大きさにより、動画の再生時間には上限があります。上限を超える長さの動画は再生できない場合があります。
- ●再生するカメラに同じ動画の画質設定（画像サイズ）がないときは、再生できない場合があります。

■以下のカメラでは、このカメラで撮影した画像を再生することはできませんので、あらかじめご了承ください。

C-900ZOOM (D-400ZOOM)、C-830L、C-840L (D-340L)、C-820L (D-320L)、C-420L、C-1400XL、C-1400L、C-1000L

■このカメラで撮影した画質モードSHQの画像は、C-920ZOOMでは再生できません。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 静止画 静止画音声 動画	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、DPOF対応 Waveフォーマット準拠 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア（2MB以外のカード）
記録コマ数 （8MBカード使用時）	音声記録なしのとき 1枚（TIFF：1600 X 1200） 約7枚 (SHQ) 約16枚 (HQ) 約38枚 (SQ：1024 X 768標準) 約82枚 (SQ： 640 X 480標準)
撮像素子	1/2.7型(インチ)CCD固体撮像素子 211万画素(総画素数)
記録画素数	1600×1200ピクセル（TIFF/SHQ/HQ） 1280×960ピクセル（TIFF/SQ） 1024×768ピクセル（TIFF/SQ） 640×480ピクセル（TIFF/SQ）
レンズ	オリンパスレンズ：5.9～59.0mm、F2.8 ～ F3.5、 7群10枚(35mmフィルム換算38～380mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	W　：F2.8～F8.0 T　：F3.5～F8.0
シャッター 静止画 動画	メカニカルシャッター併用 1／2～1/1000秒（マニュアル設定時は16～1/1000秒）（スローシンクロ時は4～1/1000秒） 1/30 ～ 1/10000秒
ビューファインダ	0.55型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン)、 約114000画素
液晶モニタ	1.5型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、約114000画素
フラッシュ充電時間	約6秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.1m～∞
コネクタ	DC入力端子・A／V出力端子 (NTSC方式)・ USB接続端子（USB1.0 準拠）外部フラッシュ端子
自動カレンダー機能	2031年まで自動修正
使用環境 温度 湿度	 0～40℃(動作時)／－20～60℃(保存時) 30～90%(動作時)／10～90%(保存時)

電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、 あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、 リチウム電池４本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅107.5mm 高さ76.0mm（突起部除く） 厚さ77.5mm
質量	310.5g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数••••••••••••••••••••••••••••
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ ••••••••••••••••••••••••
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真 ••••••••••••••••••••••••••
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ••••••••••••••••••••••••••••
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式•••••••••••••••••
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り •••••••••••••••••••••••••••••
レンズをとおして入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子•••••••••••••••••••••••
外部フラッシュにあるカメラとの接続のための端子。

バックライト•••••••••••••••••••••••
液晶モニタを照らすための光源。

ファイルサイズ •••••••••••••••••••
画像のデータとしての大きさのこと。KB（キロバイト)、MB（メガバイト）などの単位で表す。画像サイズが大きいほどファイルサイズは大きくなります。1 MB =1000 KB

フラッシュブラケット•••••••••••••••
フラッシュとカメラを連結させる器具。

リングフラッシュ••••••••••••••••••
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。

露出 ••••••••••••••••••••••••••••••
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

Aモード ••••••••••••••••••••••••••
(aperture priority mode)
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッタースピードを変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE ••••••••••••••••••••••••••••••
(automatic exposure)
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモードや（ポートレート）、（スポーツ）、（記念写真）などの撮影場面に合わせて選択できるモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(charge coupled device)
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、211万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(design rule for camera file system)
電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(digital print order format)
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

デジタルESP測光 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

EV ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(exposure value)
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(joint photographic experts group)
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(manual mode)
シャッタースピードと絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

Pモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(program mode)
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッタースピードを設定して撮影するモード。

Sモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(shutter speed priority mode)
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(tagged image file format)
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT (thin-film technology)
カラー液晶モニタ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens)方式・・・・・・・・・
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット順

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央１の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0024	金沢市西念1の1の3　コンフィデンス金沢	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT255405